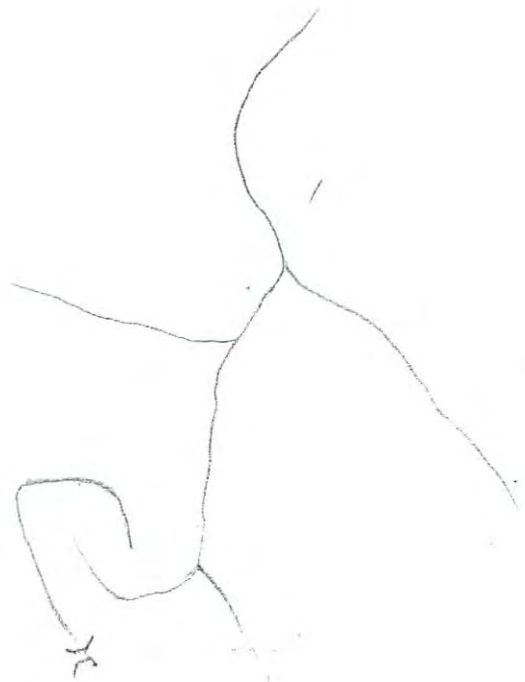


1952 陸久島

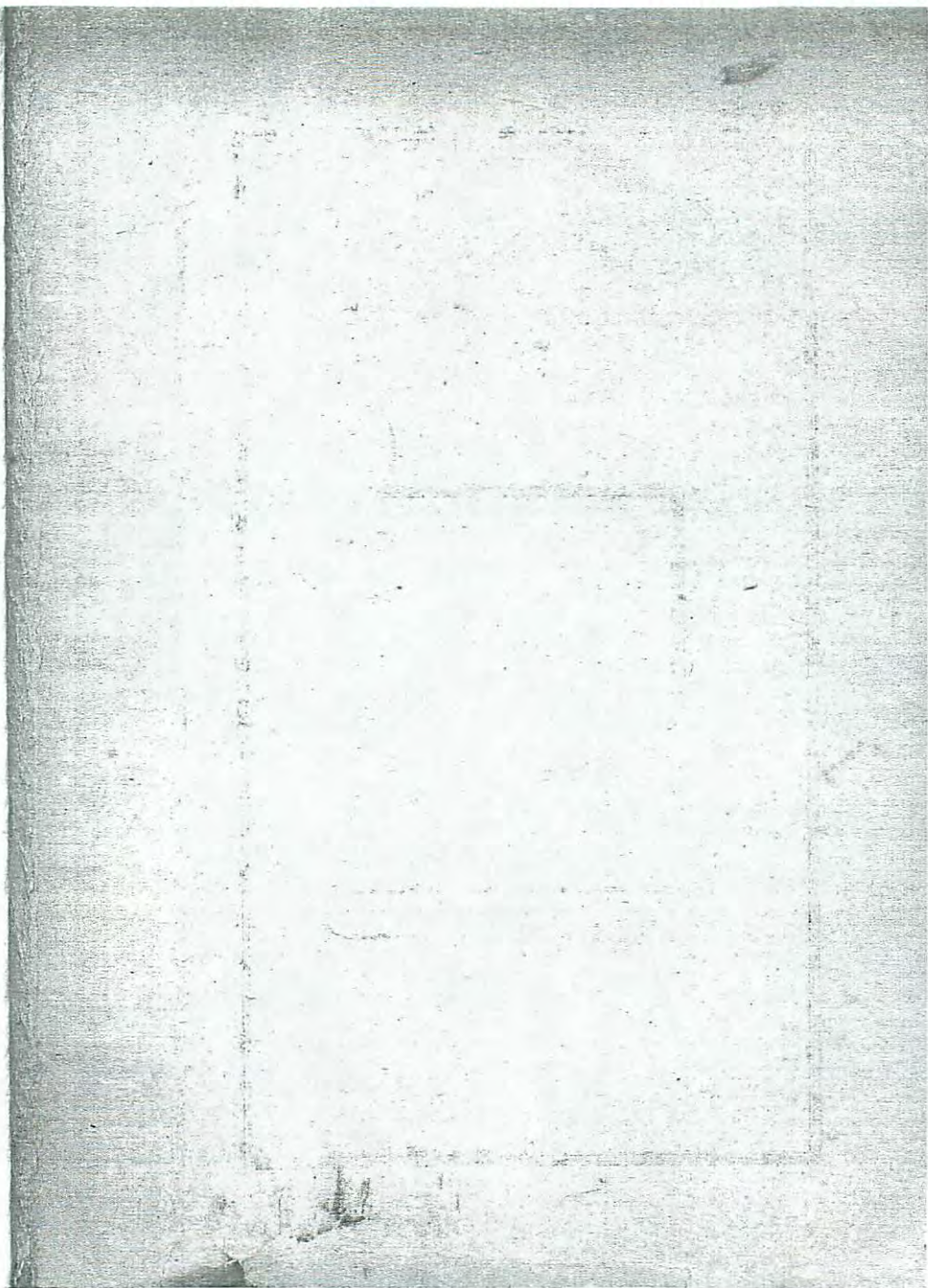
(幸島)

II

NOBLE



10-27-11



2匹同士の grooming.

Self grooming.

mounting & copulation 2-3 回.

posture 変化する.

♀は 5 分ほどで 1 匹.

左の 1 匹は 5 分ほどで 1 匹. ♀は 5 分ほど.

2 匹とも.

(6.28, p.m.)

2匹とも 1 匹ずつ 対峙. same age?

3 匹とも 1 匹ずつ 対峙.

2 匹とも 1 匹ずつ 対峙. 互に 1 匹ずつ.

2 匹とも 1 匹ずつ grooming.

♀は 5 分ほどで 1 匹 (向) に行き.

♂は 1 匹. ♀は 5 分ほどで行き.

♂は 5 分ほどで 1 匹ずつ.

♂は 5 分ほどで 1 匹ずつ.

♂は 5 分ほどで 1 匹ずつ.

吉野恒夫主任談

鹿児島県警務所

鹿児島 10 分ほど. 鹿児島の人. 鹿児島の人.

鹿児島丸	1000 トン	○	特三 1200
中島丸	140 トン	○	
男権丸	300 トン	—	
大島丸	350 トン	—	

鹿児島に行き. 鹿児島に行き. 夜 8.00 に出て. 朝 8.00 に着く.

安房へ行き (40 分) 警務所の 1 人.

警務課長. 千北

小杉谷主任 西本敏夫

非常には 1 人.

子供とレフルーダ

♂1 Old. 特大. 後片足4本. やせ. 体色白茶けてい.

♂2 もと Agroup リーダー. 何かの茶色 赤みかかったブロード. よく肥える. ホーテン 5倍肥大. 口も口色あいて いる. たくましい. ありキをなかな とまとして群から離れたところ.

♂3 もと Bgroup の子 黒みかかった茶色 色. やせ型. スマート. 足が長い. ♀2 と体格はあまり変わらない. 顔色が pale. 尻赤くなる. ホーテン小. (黒) 頭が平たい. 木色に近づいた. 群の 近くには居ない. solitary.

♂4 からたうまは ♀2 に非常に似ている. 一見して若い. 体格は 2倍ほど. ♀3 よりも小. 体色は ♀3 2に似て. 毛は ぶりやう運い. 顔は ♀3 より赤い. 桃色. ホーテン ♀3 より赤い部分が大. もと a group young ad.

♂5 明の紫色. 矢張りきたない. 4本位

この3匹は かなり近しい

体格の. ホーテンも尻も2年ほど. 変わった.

♀1 Agroup 所属. 大(a, 位) Old. 体色 灰色がかった茶色. 頭や尻のまわり かと(1)2白い. 顔赤い. よくinitiatif 色と. よく鳴く.

♀2 } Agroup 所属. いづれ若らしい茶色
♀3 } の顔. 顔は白くも赤い色系に なる. 年が若い. ときどき鳴く.

♀4 Bgroup 所属. きたない. ♀2, ♀3 と同 大. 茶色がかた.

♀5 Cgroup 所属. 銀灰褐色. 小体型の やせ. 4本は太陽の光をうける.

安房川

二股付近にちと太忠屋事業所と一の
があり、その手前にはアニヤンカーいよ。

(安房館といふ旅館の主人の長男の
妻の父親に泊といふ人かあ。こゝからア
ニヤンとりの名人、安房館の池にしろに
泳ぐよ)

研究報告をおはこと。

バス、宮文市—安房—栗生。

会社曰高伏。

軌道でトラクは通い トラックは 永田
子でい。

栗生の目高宗助は、泊のていよ。

尾岡(オアイ)にクニト一区官舎。

平内^ト結川敏則 振出子頁。

安房—栗生間 8 生 栗生^ト結川^ト敏^ト則^ト

栗生から軌道あり、黒川上流に
新伐所あり、野村高夫と一ト人
いよ。

小橋^ト板川^トの吊橋の沖に色はし
瀬印に日本一の美人の...
西大路? 池に。

永田には クニト一区官舎がよい。
古屋。

宮之浦は 堀池三郎 鹿見高農水
一漬にもアニヤンカーいよ。
気象観測所あり。

永田事業所 川上幸廣

宮之浦は事業所あり、軌道あり。

丸山和夫

楠川クニト一区 川前和敏。

1/6日 13.50

コング山 東谷

y

伊谷、正山の東南3km - 5km 程度

下へにはびこる 東側の下谷

小さい池々と 池の入り口 K かな 町 跡
お、声のよとへとはおら。

14.02 声やま。

14.05 木コノヤノ池(きこ池)

コノヤノ池にきこ池とすてり池

池のヤノ池より K かな 池

14.12 池のヤノ池 すぐと - 池

池のヤノ池

(13)U

14.16 池のヤノ池

14.18 コング山 池のヤノ池

a-声

Kはまの池にこらにこら

21. やま. ~~池~~ コング山の池の入り口

1 ~~池~~ コング山池の入り口

14.00 ころ. 伊谷は 木トコリ

の池の入り口の池をゆすったの池

14.20 ~~池の入り口~~

木トコリの池の入り口 50m ほど

上谷の池の入り口の 20m ほど

池の入り口の池の入り口 a と池の入り口

かな 池の入り口

池の入り口 池の入り口 池の入り口

池の入り口 池の入り口

17.45.

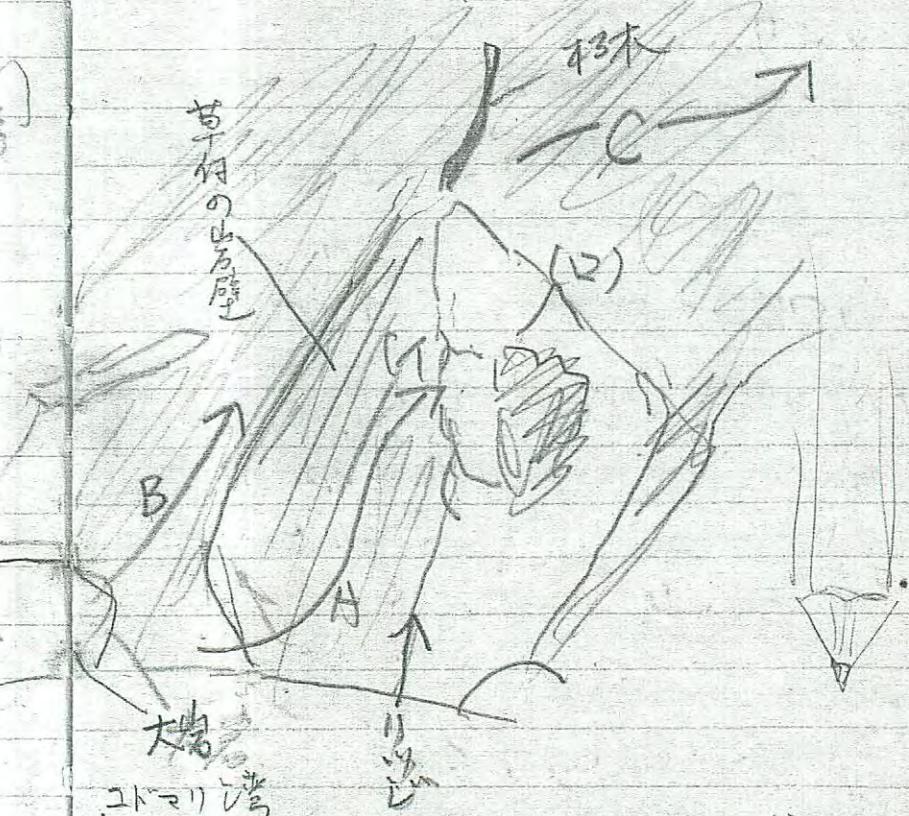
y₃, y₁ 位の坂をよつて

コトマリ湾にあり。ヒョウラニシ
の尾根へかいたのは。A grey
をわけてみる。イの岩がやわらかい。
しほりく(2)のあたりにあるから。
おもしろい。

おとりのすい土(2)のまじり。
一匹の若い鳥(2)のまじり。
きかいたおとりのまじり。
しほりくして、Bのまじり。
おとりのまじり。
~~おとりのまじり~~

Cのまじりと a₂ 位のまじり

おとりのまじり。おとりのまじり。
(5?) 程度か。そのまじり(2)のまじり。
はすいに下へ下へ。すいに下へ。
らうのまじり a₂ をよつて。



コトマリ湾
~~おとりのまじり~~ フグにて y₃ 位のまじりと y₁ 位のまじり
やはり同じまじり

20.11-13 3rd 終了後の 12月25日
 18.10 全民色の字をい 43
 A-子腹に在るくく1717B
 の経路ととらえられ、
 そのこ、伊谷は1312-15の
 42とある。

18.13.

尻尾とたてたA, 5を先頭
 の1, 2, 3 → 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 100, 101, 102, 103, 104, 105, 106, 107, 108, 109, 110, 111, 112, 113, 114, 115, 116, 117, 118, 119, 120, 121, 122, 123, 124, 125, 126, 127, 128, 129, 130, 131, 132, 133, 134, 135, 136, 137, 138, 139, 140, 141, 142, 143, 144, 145, 146, 147, 148, 149, 150, 151, 152, 153, 154, 155, 156, 157, 158, 159, 160, 161, 162, 163, 164, 165, 166, 167, 168, 169, 170, 171, 172, 173, 174, 175, 176, 177, 178, 179, 180, 181, 182, 183, 184, 185, 186, 187, 188, 189, 190, 191, 192, 193, 194, 195, 196, 197, 198, 199, 200, 201, 202, 203, 204, 205, 206, 207, 208, 209, 210, 211, 212, 213, 214, 215, 216, 217, 218, 219, 220, 221, 222, 223, 224, 225, 226, 227, 228, 229, 230, 231, 232, 233, 234, 235, 236, 237, 238, 239, 240, 241, 242, 243, 244, 245, 246, 247, 248, 249, 250, 251, 252, 253, 254, 255, 256, 257, 258, 259, 260, 261, 262, 263, 264, 265, 266, 267, 268, 269, 270, 271, 272, 273, 274, 275, 276, 277, 278, 279, 280, 281, 282, 283, 284, 285, 286, 287, 288, 289, 290, 291, 292, 293, 294, 295, 296, 297, 298, 299, 300, 301, 302, 303, 304, 305, 306, 307, 308, 309, 310, 311, 312, 313, 314, 315, 316, 317, 318, 319, 320, 321, 322, 323, 324, 325, 326, 327, 328, 329, 330, 331, 332, 333, 334, 335, 336, 337, 338, 339, 340, 341, 342, 343, 344, 345, 346, 347, 348, 349, 350, 351, 352, 353, 354, 355, 356, 357, 358, 359, 360, 361, 362, 363, 364, 365, 366, 367, 368, 369, 370, 371, 372, 373, 374, 375, 376, 377, 378, 379, 380, 381, 382, 383, 384, 385, 386, 387, 388, 389, 390, 391, 392, 393, 394, 395, 396, 397, 398, 399, 400, 401, 402, 403, 404, 405, 406, 407, 408, 409, 410, 411, 412, 413, 414, 415, 416, 417, 418, 419, 420, 421, 422, 423, 424, 425, 426, 427, 428, 429, 430, 431, 432, 433, 434, 435, 436, 437, 438, 439, 440, 441, 442, 443, 444, 445, 446, 447, 448, 449, 450, 451, 452, 453, 454, 455, 456, 457, 458, 459, 460, 461, 462, 463, 464, 465, 466, 467, 468, 469, 470, 471, 472, 473, 474, 475, 476, 477, 478, 479, 480, 481, 482, 483, 484, 485, 486, 487, 488, 489, 490, 491, 492, 493, 494, 495, 496, 497, 498, 499, 500, 501, 502, 503, 504, 505, 506, 507, 508, 509, 510, 511, 512, 513, 514, 515, 516, 517, 518, 519, 520, 521, 522, 523, 524, 525, 526, 527, 528, 529, 530, 531, 532, 533, 534, 535, 536, 537, 538, 539, 540, 541, 542, 543, 544, 545, 546, 547, 548, 549, 550, 551, 552, 553, 554, 555, 556, 557, 558, 559, 560, 561, 562, 563, 564, 565, 566, 567, 568, 569, 570, 571, 572, 573, 574, 575, 576, 577, 578, 579, 580, 581, 582, 583, 584, 585, 586, 587, 588, 589, 590, 591, 592, 593, 594, 595, 596, 597, 598, 599, 600, 601, 602, 603, 604, 605, 606, 607, 608, 609, 610, 611, 612, 613, 614, 615, 616, 617, 618, 619, 620, 621, 622, 623, 624, 625, 626, 627, 628, 629, 630, 631, 632, 633, 634, 635, 636, 637, 638, 639, 640, 641, 642, 643, 644, 645, 646, 647, 648, 649, 650, 651, 652, 653, 654, 655, 656, 657, 658, 659, 660, 661, 662, 663, 664, 665, 666, 667, 668, 669, 670, 671, 672, 673, 674, 675, 676, 677, 678, 679, 680, 681, 682, 683, 684, 685, 686, 687, 688, 689, 690, 691, 692, 693, 694, 695, 696, 697, 698, 699, 700, 701, 702, 703, 704, 705, 706, 707, 708, 709, 710, 711, 712, 713, 714, 715, 716, 717, 718, 719, 720, 721, 722, 723, 724, 725, 726, 727, 728, 729, 730, 731, 732, 733, 734, 735, 736, 737, 738, 739, 740, 741, 742, 743, 744, 745, 746, 747, 748, 749, 750, 751, 752, 753, 754, 755, 756, 757, 758, 759, 760, 761, 762, 763, 764, 765, 766, 767, 768, 769, 770, 771, 772, 773, 774, 775, 776, 777, 778, 779, 780, 781, 782, 783, 784, 785, 786, 787, 788, 789, 790, 791, 792, 793, 794, 795, 796, 797, 798, 799, 800, 801, 802, 803, 804, 805, 806, 807, 808, 809, 810, 811, 812, 813, 814, 815, 816, 817, 818, 819, 820, 821, 822, 823, 824, 825, 826, 827, 828, 829, 830, 831, 832, 833, 834, 835, 836, 837, 838, 839, 840, 841, 842, 843, 844, 845, 846, 847, 848, 849, 850, 851, 852, 853, 854, 855, 856, 857, 858, 859, 860, 861, 862, 863, 864, 865, 866, 867, 868, 869, 870, 871, 872, 873, 874, 875, 876, 877, 878, 879, 880, 881, 882, 883, 884, 885, 886, 887, 888, 889, 890, 891, 892, 893, 894, 895, 896, 897, 898, 899, 900, 901, 902, 903, 904, 905, 906, 907, 908, 909, 910, 911, 912, 913, 914, 915, 916, 917, 918, 919, 920, 921, 922, 923, 924, 925, 926, 927, 928, 929, 930, 931, 932, 933, 934, 935, 936, 937, 938, 939, 940, 941, 942, 943, 944, 945, 946, 947, 948, 949, 950, 951, 952, 953, 954, 955, 956, 957, 958, 959, 960, 961, 962, 963, 964, 965, 966, 967, 968, 969, 970, 971, 972, 973, 974, 975, 976, 977, 978, 979, 980, 981, 982, 983, 984, 985, 986, 987, 988, 989, 990, 991, 992, 993, 994, 995, 996, 997, 998, 999, 1000.

この間の - 5月 (R) 233とあり
 あり、これは (C) の経路
 を色で。

- ① ad. ♂ 25 or 45
- ② ad. ♀ 29 or 39
- ③ 3x?
- ④ 2x?
- ⑤ 2x 黒い
- ⑥ 5♀
- ⑦ 1
- ⑧ 4. 3x?
- ⑨ 5♂ 5x?
- ⑩ 3x ♀?
- ⑪ 3x ♀?

今日のコース

12.30 幸高上陸

13.30 木ノ刈り出発

13.45 コノコツ峠 (猿と遭遇) → 14.30

木ノ刈りの谷へこして、途中一度 -197 に上る。

14.50 一人イザキの谷へ。再び木ノ刈りの谷へ。

15.30 切りあけてイザキへ。(シラシ)

16.00 伊谷。木ノ刈りの谷の奥尻岸に落ちた。

(一匹)

16.25 川口川一川路

16.20 solitary らしいもの発見。

そのあたりをヒタ行ンの方角に a を 2 声叫ぶ。

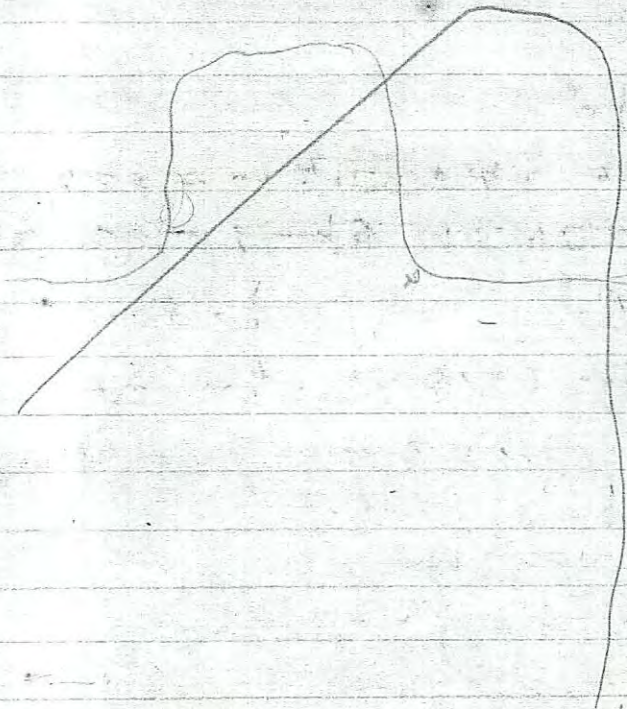
17.15 伊谷下りつし。

17.30 木ノ刈りの谷の下で、ヒタ行ン 7 声以上

叫びつらり K を 2 声。

17.45 - 18.15 木ノ刈りの滝頭をよぎる。

19.20 小川か? に 2 声 K を 2 声 (ヒタ行ン 2 声)



6月17日

8.40 到着. 9.00 出発

オオトマリの谷をつの. コトマリの谷へさま

アコウの木を欠けゆき. コトマリの谷を下り

9.40 ~~山~~ コトマリの右岸にあり P.

その地の声

9.55 ~~山~~ やり 杉平の方向に H をさく

10.00. 杉平へ登り始め. すこしは △ の東尾根

に K をさく. ナニ声もなし

伊谷らへ話をあきらめ中

~~山~~ 10.05 K 山へ登り始め. 人足も木の

下りてくる道を下き 麓へ下り

10.38. コトマリの谷中流 右岸へ人夫が小丁

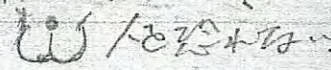
をさく

10.45. オオトマリ到着


6月18日. 曇後晴.

9.00 出発. 名谷へ.

門川の橋.

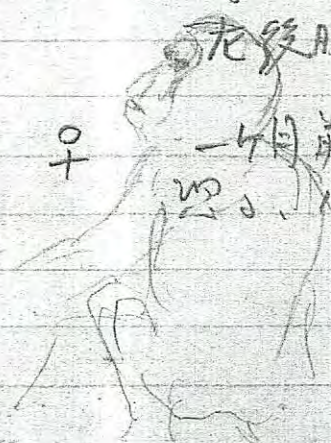
♂ 右足欠なし. 右肩と水たけ
キタマ. ナニ声もなし.  人さかすか

♀ 右足. 顔なし. 左手腕が短く
上り切断おまのと思われ. 3-29. 燃料

♀ + b b は 10日 午前 7 時に 生きた
オヤは 顔なし.  水たけ
(さかすか)

♀ 右足 顔なし 水たけ ことろい
右足股ヒサから切断.

♀ 一月前にとれた. 口木. 顔なし. 人さ
かす. ナニ声もなし.



①-序 = 水たつた

高木山は今も水たつた

近ごろの気象はよくからん

木の木は30-20-10

この子は7日-10日位はな、水と

きはびととかかすてい、苦しむか

どうかはあからん、流産したのはこの

まえ5日位、もう一回の一月かき

お、手かかしたの15日位は

ある、若い早のえか一先は流産した

にやたは時々見あたま、いかし

人は行くあは、このまえの子のまか

たか、あ、

しかし以上は、いかも確実ではない

山で獲る声のよとき、今もキキキ

いってよ、お、しかしあまり群がりの

で、お-ア、おからん

今年4月胎15頭。今年4月の
effect を考えよ。

1. 産卵からこの子死んだまでの
期間で死んだものはいい。足が
いい。仔馬(産卵後)では

① 1への馬 105の仔馬。4月頃30日。
二か一頭。コ谷と野田下の谷の中腹に
仔馬産卵は死んだか。

② 20の仔馬3月頃死に、谷の付と想った。
かこい早太った。親が死んだの
御前には放いてある。(生れたのが9時)
河川原に、右側に倒れて、死体は
発見できなかった。ケケホの姿で死に
いた奴。5月頃には死んでいた。

早産の馬は産んで、

2. 出たのは、

産卵からこの子は15頭 → 5月頃

① 62 流産。牧区に這ってトバ後

↑ 4月頃

② 301 ~~仔馬~~ 牧区内

① 50 域外に分心して子供を飼って
いたが、死んだ。3月。この子の
権現谷上流ケホ地。 (この子に
あつた)

③ 332. 仔馬。4月下旬
牧区内。

④ 22. 仔馬。332と同じく3. 牧区

⑤ 302. 仔馬。牧区。5月上旬。

⑥ 310. 仔馬。" 6月上旬。

→ ⑦ 131の仔馬 4月1日
トホリの橋の一才の谷に死んで
死んだ。

仔2頭の子馬

(一産卵の馬)

⑧ 仔馬の302. 三才馬-人の子馬と
6月上旬に。仔馬。牧区内。帯巻

⑨ ~~現存~~ 現存する仔馬。13の仔馬か。

あと、⑩304. 手紙生抽.

- ① 103 } 手紙 198
- ② 104 } 手紙 198
- ③ 105 } 手紙 198
- ④ 112 } 手紙 198
- ⑤ 52 } 手紙 198
- ⑥ 148 } 手紙 198

~~去年は各一頭早く行った。百と一頭
13の仕でいった。もう一頭13の仕
(死んでしまった) 以外の牧場に
ハンスー~~

西東立って
た。

1台 コマカニ 101 group
ヤシロニ。カリヤカキの馬ととた

3台 ちよーちよー牧区へといへお。
10バンイ美の牧場の馬ととた

4台 47クラー帯、4重つけの時期
にた。

5台 47クラー帯、4重つけの時期
にた。

50. 146. 126232-182222

→他の馬かたつたはと、101を高くする
のたへゆく。時期が早くと下へた

→神社のふとんはあがり見たり

→62の一頭とともたはいる、301, 302と
定つてたへ。あつてはよく、銀をつた

→7+7E. キース(大谷た岩の本を
たへと) 304.5とともた。量と一は
はまりた。

牧区をわつしたのや新しい畜産課長の
のイヤニマナシ、牧組合が昨年より
変更したことを、

牧羊、山内寅吉。(東)

大朝九州版、清水がまつて、
おきのついで、牧区内の報道、

福岡支社。(大野) 4月中旬

5月にかいたこと。

李松

詢氏談 (45才)

ア-4ヤン、エ-キ-サ- 山の大將
(目那) ヨモ。

永田

○屋久島一番多いのは瀬切、川原、半島の
間。多いたのは海岸まわりの、運味
缶を中心にして (南至管区)

○安房川でいってもとすつといたの、人牛
が入ったために、一番大群は中島岳の対岸
もとは尾立岳中心にいた。

尾立岳中心にして波状的にいひき。一日
一軍を中くことあり。その時人は花江
川の上部に逃げ。安房川第2、4、1位を
り、そのころはみだり張るもあ
オタクに川に中くと次の群になる、
(夢生の水の川)

最高40位最低12,3位

未だよくわからん。

一番上の愛子岳の線

次は群岳 (947.6) のまわりは3ヶ所

氷石のじり大きな谷一つ一つに出る。

狭い谷をよたよ。

中腹カーブは人ごい。エサのカニヤ
び下のうへへ。

南は石塚 ($\Delta 1586$)、太忠、尾立
を中心にして
石塚の群は大きい。

は同じくちかちかよくわかん。

山毛のひきには、上車へもゆ。

お序川の入口と小杉谷とでは山毛
のうしろのか半平はとかが。それ
についてサレか移動する。

尾立嶽では 7.8 ~ 14.5 位の山毛
多い。

オタワニ
小田園 (琴生の北の川) には別の
奴かひ。こいつは 3,40 から 2ヶ
にわかれ (15 ~ 20 のか 2つ)
海岸べたの急峻な所をよ。

その次は尾立内、原、琴生の内
をよたよ。海岸へりに多い。

奥地には尾立より、割石嶽に
まわす。毛7436 の両側に多い。
3ヶ所位はみれど、~~群~~ 大きい。

小島一尾之内の群は大きい。一73,40
づつ。

湯泊附近は (尾立の北)

栗生から北にかけては、さつぱり
わかろく。と120° 多い。里津谷にま
び分布、大きいのは 7,50 多い。

獵はゆか、さつぱりわかる。
鹿ももつとも多い。

永田から吉田へ志戸子。
山登り(加藤隊)がすばらしい。
大群はあつたのは永田岳といふ。

海岸の面にもすつとある。

白川岳 $\Delta 496.8$ に出る。瀬切方面
と同じ位いふ。

宮之浦 安房内は一ばん少いといふ。
~~サトウのサトウは山岳から~~
いふことへ。

白のフタは本人は見たことなし。
今生きている人は白と見たことなし。

午の白のつた。午の黒や
振たむ。からげすくても毎月の
押えとのりきにした。

泊氏の獵区は安房川一帯。
その中にもつともよくつたのは。

中島岳の北面、十回行つて十回
一ヶ所で見るといふのは、中島岳と、
安房から午キロに12はもいふ。

瀬切の方にもよ...

栗生の永井トビコ氏は

安房は泊氏。

尾之内 岩川純夫。

永田は日高田十

吉田は 田中甚三

も二十日ほど、吉田、櫻井の寺と
リビナキと云ふ。

その地は30人ほどしな...



セウエーカー - セウエーカ、ニカカエがウツクといふ事だ。

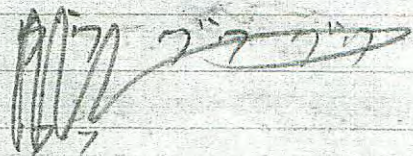
ウツクは、にげえゆく、

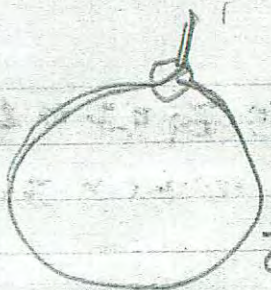
次にじかんの群をうけて 雲の上へ

やうてくは 30人ほどしな...

昨年永井から来たの貝は
100個ほど大さうどいして送られて
きてた。

シカではきかた...





2カ所、4本の
よくし木に7カ
あかた犬る迄、

こゝ。

シルバニアはほとんどやんば。

サレは、

3尺×4、5尺 太木を→しりしてあ
中

の、戸口を一つ所 3のまわりにさし
よすつとエサをあいてくわせよ。

次に7リの中に入かてあ。

さゝらば、エサを→あきあき
せむくと戸をあおるよにせよ。


3年位使。

もいー7 3尺方の箱様のものを
つくつて、サレの年でもくとおろさ
しにしては。スエツケはよくゆくと
3、4尺ものさかす。二のちかま。

エサは、落花生、バナナ、
サレ^ウの食、これは非常な好む。

この獵は、数代前の獵師から
傳わつてゐる。

一、好む色とつち、扱は、骨、木を
たたいてもクワ、クワとせよ。

そのハ、 水さへあかすとこつた
道つ排。3間、4間には、
あつてあ。

こゝも、生人のあは、
あつたあ、あつたあ。

この中からたまたまです。本本
アウロロア

群と群と一いつつと分ける
その時は見ない

一ツガルはといつからたか
大さく、よく見ると同じもの
見ると、色が違う

夫がアテナを去らざる全
いはあつた時の見え方。ツガル
の根 ^{地のちん} たい位まで、そのもつ
かない

獵は農業や水産業の間に

4月～8月本まで

郡、域の人肉は、横市が密猟
也との一因つていふ。

雪のたはかりは、いよとつたこ
とは見たことのない

小ツガルもハナレといふとは、知ら
一若小、さ、ムシ、の、お、に、の
オヤギは大き。

ツガル同士のツガルとツガル
死かえは、見ない。見たといふ人
もいない

ツガルは、去るとは、見ない
かていふ。

に、か、か、た、こと、もある。ツガのツガル
ツガルを、か、か、て、ひ、か、か、て、つ、か、ま
え。

川を、か、か、て、見、見、ない、か、か、年、を
つ、た、い、ひ、か、か、つ、て、い、た、こ、と、を
昔の人から、き、いた、こと、は、ある。

大からせのち水で何回も洗う
木へととがごとくはあ。

黒やきは、鹿茸人科にかう。

煖き片は、~~丸~~どろやきのつぼに
入水、その水を土でまかいにつつんで
外氣をあたらぬようにしてやく。

1ウミヨをぬいたものはつきりわか
木炭ひきし時同。

肉は春のはじめ頃。

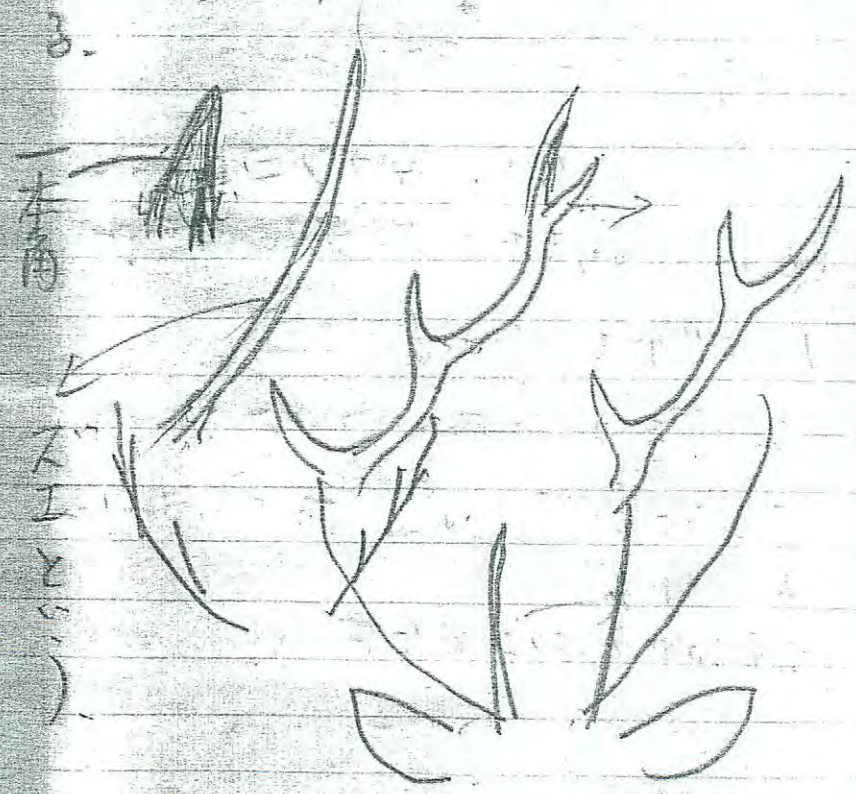
今まひとつたのび一筆大きいの
4貫位あつた。まが大きいのかい
りかーと小な...

古しな水はなほほどヨリは有勢
だ。と小なにつつてもエサをかん
とつじにと小。

乙

頂上附近の材大い本から小
い。年令からいつてとしつ小
下のは水きい

~~丸~~5月新角まひにほとんど生
る。



尾之向の岩川は、いまとつていふ。

尾之向

9月~11月

ヤマト、ニ(海岸へ下つて)

山柿(小川の(お)青(中)は(お)か)

前岳地区、奥岳地区

この川を(さ)す。タツミは(さ)す。

(6月頃人内もたへす、(2)0(の)方)

アツの木もたへす(年2回)

谷川(水)を(あ)る(全)部(さ)す

て(ら)ミ(ト)り(を)す。あ(さ)す(所)は(あ)る。

瀬(切)の(方)の(海)岸(に)下(り)す。

尾之向

甲内

栗生

黒川

花藤

多賀

泉辰男氏 6月24日

早も獺の討取は
いまは大きいの 1匹 2匹
2匹はオヤ子がたか
しこの奴も一匹は
やがての原へ出るのも
多い。雨の降りには
毛原から

毛も草も一定

天候の悪くは思の中へ

倉地、藁、木柵、木藪
物

多量の捕獲は
このまじりに
山の頂上
●ここに
大い三声の子
近しい

おとろした

ヒヤッ

一匹は

早は(φ) 子をおと

子か

このまじりに
とほら
野生のも

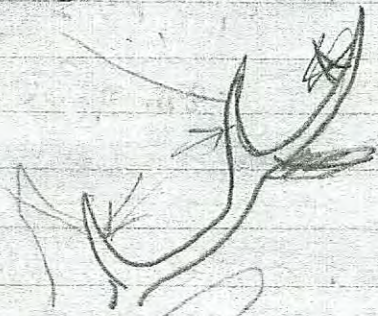
人取

か
か
上

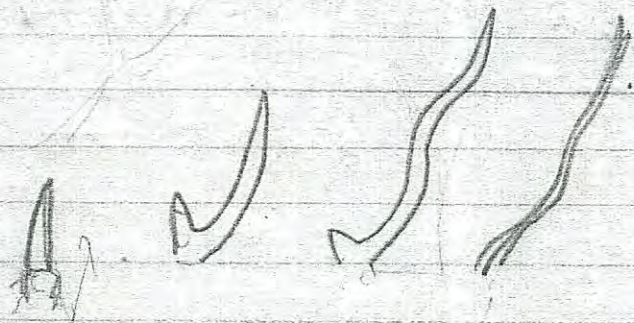
上 大
中 10
下 15
17

2又
71

ササビカシの下の小一鹿



区)と文意の上の中は上へ下へ、その
 中下へ下へ。浮傷を区)と谷へ下へ
 自然に川へ下り了 ~~と云ふ~~
 と云ふ云々。



上と下と2つは生物の時季はわか
 る。上の方は5月の中旬に付の
 おしあき見か
 生物の時

差の二つは6月大分おそいから

雪が来た時は入かあつた位の
 ところからあつた。2尺以下、
 人

子供は先か以前に生かす。

永井(文) 6月26日

サトウキビの株

{ オトコト 両側あり。
ワイヤ

大川と津屋切と西側の海岸側。オトコトを10年前ここにかけた。20ばかりいた。ふつうの人間が見ると4,50といったが、実際行ってみるとそれ以上。ここで中を2頭とった。

ちよびの中内に家が一軒あり。この人にきくといふか、いぬかあか。 → この家の作物を焚した。

サトウキビの ~~株~~ つかうという。

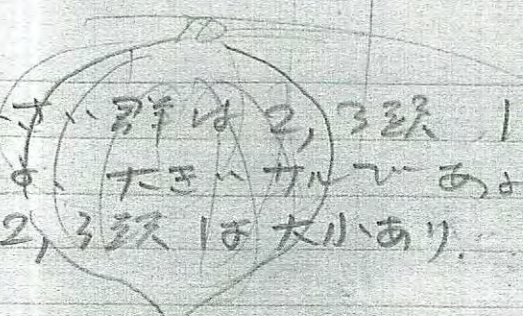
とったとき

夏頃はなすと冬頃はいいことあり。

サトウキビの実はもとの (かかと。う)

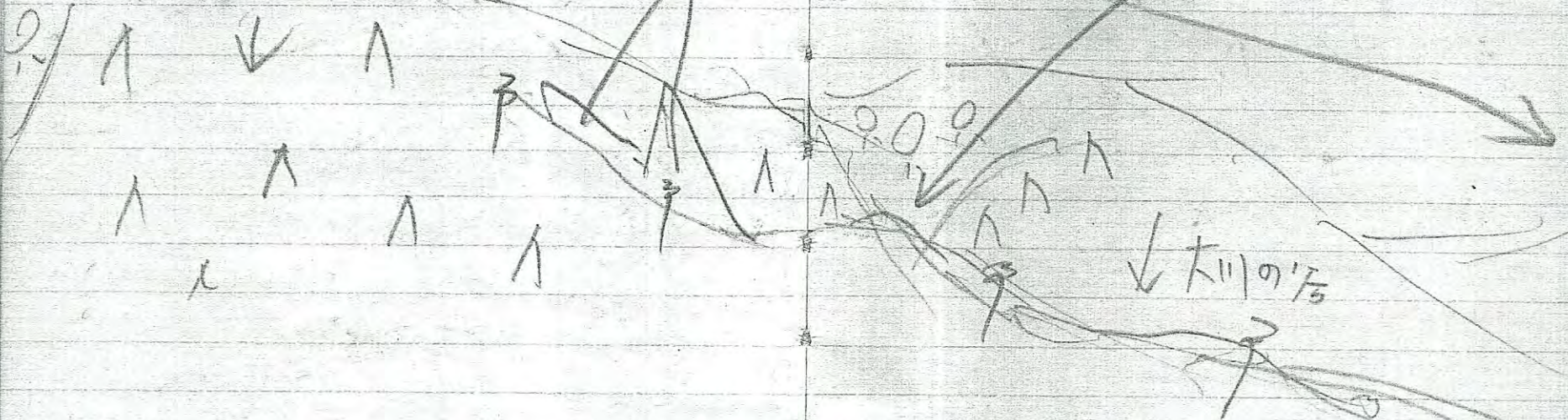
こまに見た群の中一番大きいのは津屋切の。

小サトウ群は2,3頭1頭たつてもいふ。大きサトウはあ。2,3頭は大小あり。



さびた

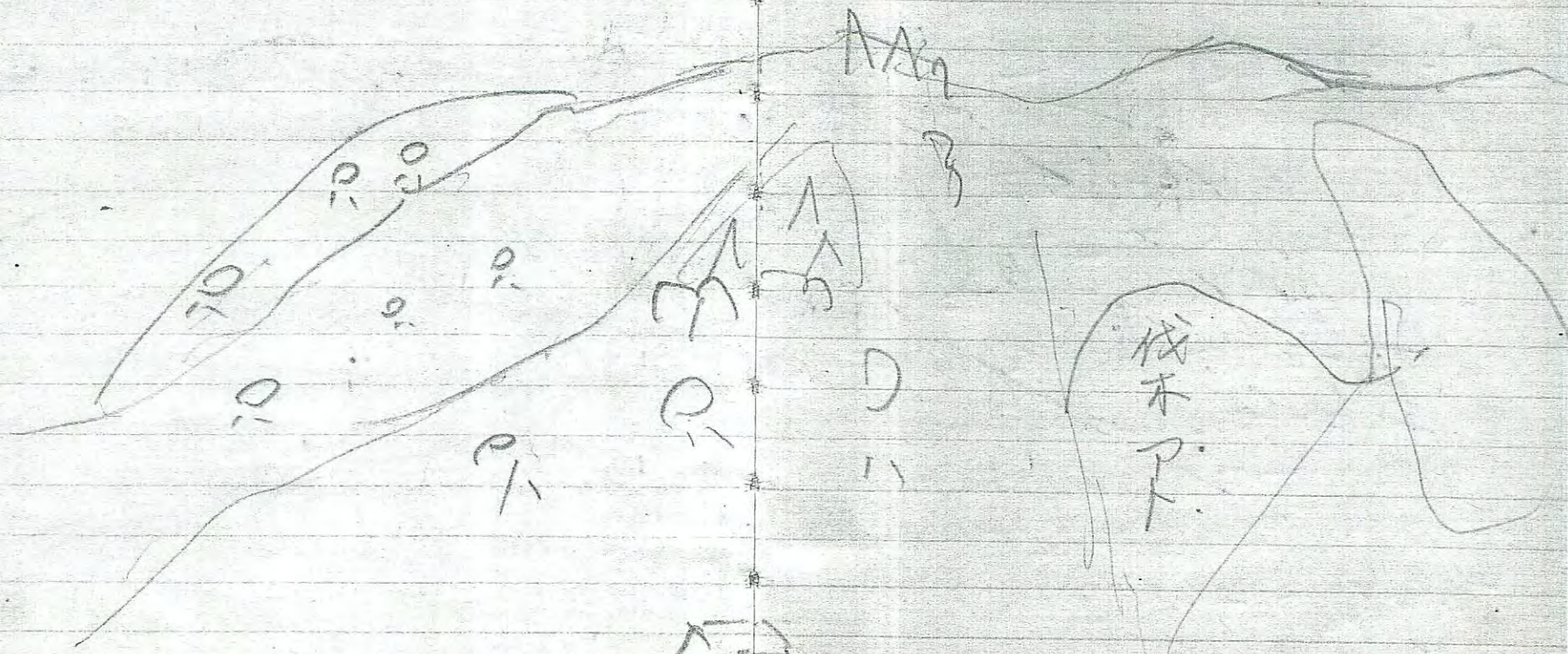
アサカ



浅

大川の

↓
 の 尻尾の 十か 四端の



↑

削正

泣かして。

① 中肉の付度 方。

1ヶ月ばかり前に新降の東北の
イヌに54に鹿かぎで、~~ツル~~ ツルを
たんでいた。大かこだった。オヤ
はにげたか、鳥のふちには ~~か~~ か
いた付る犬かあこえた。別にけ
かほしなかった。

つかかえってかろは小さな箱の
中におく。草の裏で暮らす。
さいしよからよしたる。

朝晩にきくおせは、人には
あかた、箱から出ようとしてあが
れよこあり。

この泣は舎で見たところ生後
2ヶ月。特43- は色か- は人に

黒みかか (黒毛か合めに混じり)

即ちこが黒色 (や>くすんた)

とくに背部の黒毛か太い。尾の
まわりの白毛か弱くと足らぬの
か注目せむいた。尾のうすも白く
ない。

オヤはく小羊の小言らうすといふ。
やっせたよもせし弱った様目なし。

② 永村伊彦の生後

生後の首行より少し下午で2月頃
つかまり。中村舎、3月屋の中にかつ
てい。つかまつた頃は2歳位の
ゴンボであつたか。3水か落して
現在向か生えつたあ。一寸みえと
ころ10と思われ。

産毛の常識は、3才半の
 あり、この村にアザラシやその地にいる
 いるを雑草に比べて長めか、
 かに人と思わ少し、馬の毛よりとし
 るなる。

3才半とすか、非常に小さい、奈
 産毛の標準とすか、満2才の太
 きさである。

~~その~~ 産毛の色はほとんど冬毛で、毛の
 抜けが、早く夏 → 冬に力込
 子とすの、毛の長さが比較的に短い毛
 色である。

◎ 頸骨+角 [] 氏藏 (瀬印)



角は片方1又、片方2又、但
 上の角は先端から2つに
 分れるものあり、そのおまは

アザラシの突 ナシに2た前5、
 卒1才2分位 毒熱

松田さん、ミツキ (寄号)
 瀬印の 次

資料用紙の用紙から、

採集つたものを、

ただし 2又型は個体、外殻のふか
 合致し。

4文角、3才? 捕獲位置
 母も持ったもの、位置はクラカケ

① 岩川氏藏 頸骨+角

角は両方とも2股、角間小

頸骨の中、マシ

捕獲位置

大川上流



④ 落し角、松田代蔵

4文角の文角がある。しかし落し角
であるから同一人物とは思へない。
と云うも2段の senior 4文角。
ひらねは ~~オ~~ オノノノノ方面

その他はとくに持てこたへずし。
と云うた場所は、ワボキリの谷の
中法門も下手。

⑤ 2才舎、蜂須賀代

この代はまたと云えてあまり日数
たっていない。10日ほどで戻りか
たつもの3才舎代は、と確認。こ
ろはじめて19地の印と区別は
たつたの代と云うこと。

S.H. 5か? あまり夏毛か
はつきりと、服の新しい白
い。白鏡はつきりして、
白い。印は、

⑨ 海辺に獲れた大鹿 割代

永田の縁夫岩川 氏らの発動機船
に乗って半山の沖を通つていりとき、
大鹿一匹の大古西這いあといこ
かか海に泳いでいりぬの死につけ、
這つかけてたしり殺したこの鹿の
の頭骨・角・及び毛皮を獲ることか
つてきた。

角は3又つあつたか (3+) まだ
角げやをかぶつていたが、すでにかな
り固かつた。もはや大して成長はし
ないであろう。大きさは奈良の鹿の
5才ほど。頭骨はそれと相応した
大きさで、中はわりじせまかつた。
毛皮は、この角や頭骨のわりには大き
い、に思つたか、或いは引張つた
せゝもある、先色はわからない。

以、アタロのホネ、シヤシヤ
日高の活も近頃まかは大鹿と一

⑩ 中野 淡田氏

去年の春とつたか、片足は ~~お~~
下す、動物園の買出しの ~~の~~ の
まつかつていり。

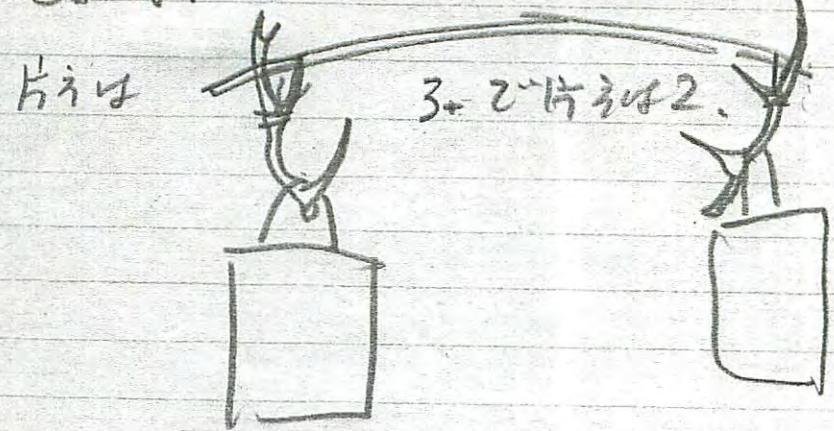
去年はさかいに 2又つのもあつたか
今年も 兩つとも形かとのわす、かえつ
てい、さしあつた、(しかし4月 3日 につたか)

大きさは *senior* といふ、頭蓋は
つぎりし、白銀なども内地の鹿とかわ
らぬ、セシも ~~は~~ 入つていり、
ただしクビからカオにカマシ、毛は大
命しつてつてあり、又目のまわりが
少し淡い。

人にはも一つ ~~あ~~ ない、L.O.L. さす
かた一年たつていり、他の鹿とは
大分ちがつていり。

⑧ 手才をかけたの12つか→とい
子角.

この時. この図のF3は→か→とい.



大さの4文.

いままでのシのツノはすべて

1 > 2 > 3 の規則にかなう.

終永(12)

蜂須賀氏宅の庭

庭田村此の如く掃掃

~~庭田~~ 池也

カハハニヨヨム

半山の園十ロヤヲナ

10日前位此の如く

李、柿、S、K、G、

蘋果、台座、柿、

肥の土、柿、白し、柿、

中、白、鏡、柿、柿、柿、

口角

43000回

↑ 208回

口角部へ屋久島から鹿が泳ぎ来た

阿久根大島の鹿の調査

9 10 11 12 13 14 15 16

16月 嵐 井口

17月 〃

18月 名谷 井口

19月 赤井

20月 鹿兒島

21月

22日

明治八年

生

永井 信彦

熊毛郡 下屋久 孫 栗生

1952夏 屋久島

2

NOBLE

岩川正良氏、 27日。

瀬川の手前の南極。

17日 7:00 からの調査。

この調査は、

家の ~~北~~ 100m の上の岩
から。

一昨年、とよは 50 位、

2,30 位。

4ヶ年の方 は 8 歳。

↓ (x)

この沖面の東端、おとすり、今年
し、うちは、

大川の境の、

大川を、瀬川
の川を、
下には、

たしじんをさつ。とくがす子と人に
おるんかつ子いさおんあよ
こへきつかり3年位をなま
おえつておるが気があ

(子孫導訊問!)

1区4区は [redacted] のうらむよ。
大きい。4区は人にとりかつた
(いづつて一石をこころしたとき)
あつた

換 113

20位の間1か4.

今年も毛毛時にきつ3のじごの
このおかしはやまそえの本取ま
今年のおとし実をかつた

大川からこころの1か4.
さいきんはきつたとおしり人。

瀬川の中のとつたこころ。

70^{以上}のこころをさつてつた。その

こころはつたてつていれおかし
ん荒れた。このこころはつた

今年も3,40位あつた。そのこころ
は1か4つた。瀬川の中のとつた

大きいのかつた2区つた人いふた
は同じ位つた。一つはやせつた。一つ
はあつた。

二本杉

オホモニガタオリ。(700m 峠)

イバシタマ。(上山歩道(石道))

かこえていた。↓
又は枝杉歩道

サレはサレかタオリや二本杉
のあたりで431431尺↓

永田側では尺にヒコウ。

→ 色は色とりどりという。

川原岳のフモトの岩におよ。

タケゴエ歩道。

もらった毛皮はオキノフウク
と川原岳との肉の川原、岳の
に近いたころ。

右岸
↓

カラスオトこの扱はオキノフウク
オキノフウクこの扱は川原、半山お
さんとわけりあとのわけはわか
何処いつても居るいときにはい
い。

特別大きい扱はオオモニガ
タオリの附近でとった。40年以
上着のこたえ。20貫ほどあった。
金銀砲びうった。ヒカをかついた
ふうたった。

せせしの川の奥はどこをせせ
いよかあからん。大川は一本
で水回集いのほ。

23年 [] (大漢)
クビからうの川を深沢印にゆつて

きたとき、川にわすれんがとき
子供の手で、母をかすす。川をわた
りかへて又母しので、見よと一
回屋上の石の上に大き〜箱か
いた。一袋石をばげよと向
つてきた二かへ又一袋をばげよと
腹にあたつた。それから木を
ひろつたとき殺した。

今一匹かいたなかつた。二つと
たへたが、7,8里のちのたつた3
)。先やきしてつた。
このころも一匹つかうか。
上の方の山で大が2,3匹
一匹にわすれんがときあり

永田官行事務所
宮田園割と...
漢田林助吉

峰須賀氏の猿と力を捕えて
ゆ。別に又力を捕えて、いかり
松田三ツヰキ。軌

園割の倉の造をいつていたこと
おしめてきた。その終美のすまかま
にはとてとてして、4月まで
きた。そのときは猿か〜3匹
てきた(右岸)がつかしめてきた
た。1匹は大きかつた。中を
これ以前に十何匹もきたとい
う話を聞いた。おしめていたらしい。
永田へ上りて宮田園割と...
サルサリもつかう。この方面
は昭和18年中の事業をやつ
ていた。

永日 日高氏

この 20区 ~ 4,50区 と 8125,60区
のものゝと考へた。

加藤氏の語は 3の事は 1000
カ4のもつてゐる

77バリをカ7ラという。 3,4日 田目
同じと 3へ 10 → 20

→ 7のカ7ラは 1 km^2 位のものを
指す。

カ4とカ4とカ7カ7とカ7カ7とあり。

7797 (2) ^{カ7}カ7 → 出てきてカ7カ7

カ4に 2,3 区あり。(その中一番の
は定つてゐるから)

カ7ラは 昔から定つてゐるから

今のところには 大きなものは 一カ

かゝる。 各々 2,3 区に 4カ

といふ。 人間の事も 一カ

ノから → 事は 1000 といふ
~~1000 といふ~~

ト110区から 半山、川原の4区
と 3に多い。 土平切山にも
ア2の 実色(お、ムバに 2に
といふ(少くとも)ものあり

2に 1カ7カ7。 バカ7は 7カ7

カ7カ7 Δ 772.4

中腹以上には 3,4,5 区
位のものが多い

半山の上のカ4と 川原の上のカ4と
は大別と考へた。 と 7に 4,50 区
位のものあり

7=771 区には 半山のカ4と 川原の
カ4と 2区

ツリツリの下町の南岸も ~~あつた~~
夫とのカケラかあらしい。

サハリイバラのミルときは絶頂
の方までゆく。カラエをとりもすきで
よくサハリにつかう。

又三日から白川、坪切に多し。

(155句)

直径(2寸位の)木をきつて4尺立の
フリをうけ、こかむカケル、こかむ
重み十貫(1石の)位に重し。

一昨年位のとこに、一ツかけである。

サレを取るのは ~~各自勝手~~ 各自勝手にフリを
つくる。

4尺が4寸のカケラ、12寸位、このカ
ケラはウ=フリ入は二入ない、この
カケラは30位と思われ。

三甚中田の蔵

吉田の人、永田の田中と、人々も
子とてつむつ帰るにしろ、
うしろから宮の道つて足はかきつた
川原と半山との、向にけ大き〜
狩犬も一頭や氷を ~~大き~~ 大き5、6
でおさねやつていた。(川原の
カケラであら)

その他は94ト710 行つては
氷ととも子。

一丈も二丈位の6、7貫位の太
さ、奴らといふ。こからは毛の白
かつた。

雨バネにかかつた白の奴、
4寸位位に足た。
犬をかつたのは、8年前。

白がワリを見たことかある。

半山方面のカタラに足る。

大かゆくと ~~カタラ~~ 一匹の年回つては、
もしもいつに大かゆとひかづると地
の板か一匹かたつては。

二匹アタリには(南)コンのイセをとり
12匹、(北)岸のカタラを
と。

一か年ほどは回のカタラをつかひえ
かあいてたので、登人か入つて
ると思つて年を入水と申して
ワリか、一匹をばさつたので
ひつてりして送絶は、オヤビか
いとちうと一匹のワリか、ひつ
てとつた。

もと4匹は出さ、二匹をこつてい

たものワリを、(山原半山方面)

しせんのものより、人工の板かたものは
ワリを忘れしつたため、あと

いづれか、ひつてると十回ワリかりの
とこへひきちまつてあつた。

イタ40かかつてあつたと、ひきさ
て、11匹もあつたしてあつた。

4匹が^{60, 61}ワリと、上山68, 65
林間ワリかゆとひつた。

ヒ山も3, 40匹。

雪たけ 2, 3匹はひつてきてい
あつたワリか、地をこつた。
相当長くひつた。そのひつ
互いにワリかゆとひつて
とつてつた。一か以外ワリ

これはお互いに出逢った
とすれど、
はしあつたらしい。ケシカのおこつ
たのはカケラの皮目であった。

φ₁50のぬもろとさくさく
以前にカケラの好とさくさく
カケラとさくさくさくさく
さくさく

ふと早とさくさくさくさく
1匹の大根を、十数匹とさくさく
鏡が不審はさくさくさく、
さくさくさくさく。

子供が中中句一さくさくさくさく
はじめ少し毛が生えぬ、そのさく
ら黒い毛が生えぬ
10~11月の発情期

池も同じ。ムカゴ少くさくさく
さくさく
同じカケラも交尾期にはさくさくさく
さくさく

後動のとき必ず前後巨大な
卵殻とさくさくさく、短いワグと
さくさくさく。その子さくさくさくさく
さくさく。又、同じワグと
さくさくさくさく。

ワグワグやワグワグの川さくさくさく
さくさくさく。本がさくさくさくさく
と

池と川は一匹にさくさく。サウオ
したのをさくさくさくさくさくさく
さくさく。さくさくさくさくさく
(サウオ)

カクラとカクラのヤカイは谷や崖の
は70C. カクラ2 平地の敷地から

{ X1400 界にある.
P1400 水平移動が多いか
ホ-071400-ラ

ケンカズれたのは 61, 62 の 2 塊の
ムネであった。(● 標高入りのムネ
か?)

雨のよどみはとて ちとんと 3 塊
あったが、このよどみ根
本あり、とて 4 本の竹の如く
はつちりしてゐる。

4 本の竹は 5, 6.

アカン 軌道経定の 右岸上
77.

4 本の竹の 木は 3 本。

シラケン. 坪印山西北方の

56, 57, 58 3 塊.

ニにもカクラあり。

上のシラケン. 下のシラケン は 別々の
カクラあり。

半山のカクラは 560 ~ 100 位
のむねあり。

シカは 6, 7 5 本より 上に 4 C ほど
多い。ムネあり。

上の方のシカは ④ 小として 3 本あり
角の角度も小さい。下の方は大き
黒みあり。角度も大きい。

大体上の木と下の木とを 1 つき
りわけられる。

股の数は同じ。形も同じ。

下の奴はヤギを飼っている。内地の
奴とかわらぬ。20隻位の奴
がサライにいる。

昨日4つ又の池を犬が這
い散らした。永田の
岩川2才オさん。

サロのお3才のは7月末、8月に
入水は完全にぬける。今は9月
にたまにす。2声〜3声。

3声の音がたまにす。
行く場所が峯のケンマダマ
バチに出る。足が少しのまじり
とこるす。

かか下の尾根 煙台にかけ
てす。

ヤギの中へつゝつれさうな奴は
ない。

前年の奴とすと。次の年には
別の奴が同じ場所す。

人ウキにエサをす。又アホ
いすともあつた。大きー奴はつれ
とす。池は群生す。

7才の野郎はアホいす。
4才の野郎はアホいす。同じく
アホいす。

1匹の場所をアホいす。3,4才
お水はアホいす。12才の
鳴く。まじりす。こす。見す。

おつはーは12才のオさん。
9月12日いす。

40.
41位の空の-
はあ、

71も711も
4-4-4=23の、
か-
と

半山、田中

川は上の大川
荒れ河川

すこ

4,5日

20
川原の上

岩の
3の南
4
799

14.5位
さ...
10年ほどまえ 48...
た...の後は...
半山から瀬切の上...
いよ。

小さい奴...
大きい奴...
矢張りには大きい...
は。

ホ一とホ二の...
北方の...
これ...
...
...
...
...

今は...
ホ三の...
...
...
...

歡言鼻、
トリバチ

0-2 トリヨ等の上は 2-3 つつ
くつた。しかし30ときは 2-12 倍動

1匹中丸) してあまが 2匹中丸) は大船の如きんりしつち中丸。二本丸は大き。

2つのカ40 谷をけしんりつつとあまの如きか。2つ中丸とつち中丸。二本丸は 1本丸がクル ~~中丸~~ あま。

17月15日

淡田林吉 猿区は

吉田、坪切、永田会の内。

1週内は、すおとカマの事だ。く。

吉田の方のカ7とこつちのカ7とは同じ中丸。吉田はたしきとつたらこつちも少し中丸。

一匹二匹のもの ~~中丸~~ 中丸。こいつは大き。ちらしい、中丸も中丸。

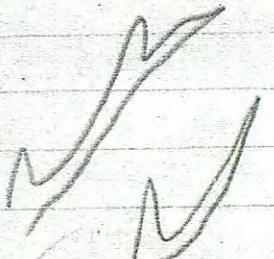
一つの丸のうごは人い非常に大き。

このカ4は 20位の如、今年 ~~中丸~~ 10位の如くは

サルのウツシ 荒州(まつた)
日高社のウツシ 一年に 2000
とったことかあ。大正元年から
7年のうツシ。

(日鏡、体幹中子?)

シカ、2月 2股 左岸中子
とつた。


夏生ウツシか
顔ヤケバハクコイ、
2月の2股。

1/10に 二つの官行の入
大徳人か記人か所の
ヤノ上。

2/10に別12707年、

足るおれの人。

去年の九月

郵便局の少し向う。

宮二浦の官行のちび 三つゆ

きり原までいって、その中の小さい奴
をつかまえておとし出さ行った可
子と大きい舎か向うきた。

喉をひいて這つてもいけぬ。

うしろをかりたてておれんたてと
わかれた。とんすていけた。

両手で肩のところでつかんだあて
があつた。そこを三人かゆに、
向うのこの大舎を舎を入めて4匹
かき向うきた。しかしもうとび
つぎはしなかつた。

大きい奴かしなかりおつため、
しつてとこか向うたし、この
形の上のちん上つて行った。

折巻道(一)の

昨年の10月23日(2) - 4(5)の
2枚が入って来た。17+4

去年から来た。3枚の現金し
はいつ

甲斐池動物園に十数頭おこめた

この人の糞は上山歩道の雨割

河向登山路以外。瀬印川上流以外

4枚が4枚上り - 1枚上。2枚上

10日位行かなくなった内は2枚上

行かなくなったのは4枚上

始めてサレたのは2枚上の2枚上

ない。

昭和40年10月23日。2枚上

うたてたが。しかしサレた山は

なかった。

軽局3, 4枚が1枚の2枚上
かと。しかし

さいは早2, 子か/こかさい

5枚入って動物園へ送った。

10-1は7枚上。その中4枚上

子か。他は入るの。奉仕する

から。

6, 7枚は2枚上の2枚上
けて。5枚上。

2枚上

1枚上と2枚上の中に入る

大小は2枚上でもいかな。

5の3枚上。

口-12) 1/3 所を R した = 2/3
を

4 かし の は 大 きい 事 2/3
大 きい - 1/3 所を R した = 2/3

上の 1/3 は 2/3 の 3/4 所を R した
1/4 所を R した。 大 きい 所は 1/3
かき 2/3 - 1/3 所を R した = 2/3

62 1/3 9.920
62
x/60 20 歳 の 女 子 と して
372 2 所を R した = 2/3
62
0992

- 1/3 所を R した = 2/3
中の 大 きい 所を R した = 2/3
2 所を R した = 2/3

- 1/3 所を R した = 2/3
2 所を R した = 2/3
2

松田文男

お文さん、お猫評をやってるの
田中眼吉氏の義実。

カニは岩るまごの事。

木の板とすのこでカニを
木の洞や、岩の中はね。

17、18、19、20、21の4回カニを
さ。

田中氏の、カニとホウキ
49、50、51、52。

カニの4回あつたのは 30位の
カニ3つあつたと懸う。7、8、9、10
は7、80番年にとりつた。

2つのカニが来たあつたの
た、これは田中さんのいつ

2つめの群と3つめの群とのさ
がいてある。声はワッワッとい
つていたが、何の音がよくわかる
なかつた。



3に2カのカニ

子。

宮之浦の坂田榮治郎氏にやつ
た。(狩獵会長)

流石な

泉氏.

3,40位のカードはきり欠く.

1,2区は2区と2区は.

30位のカードは3つに分れて
いる. 現在では.

12-18 54位の位にかけられる

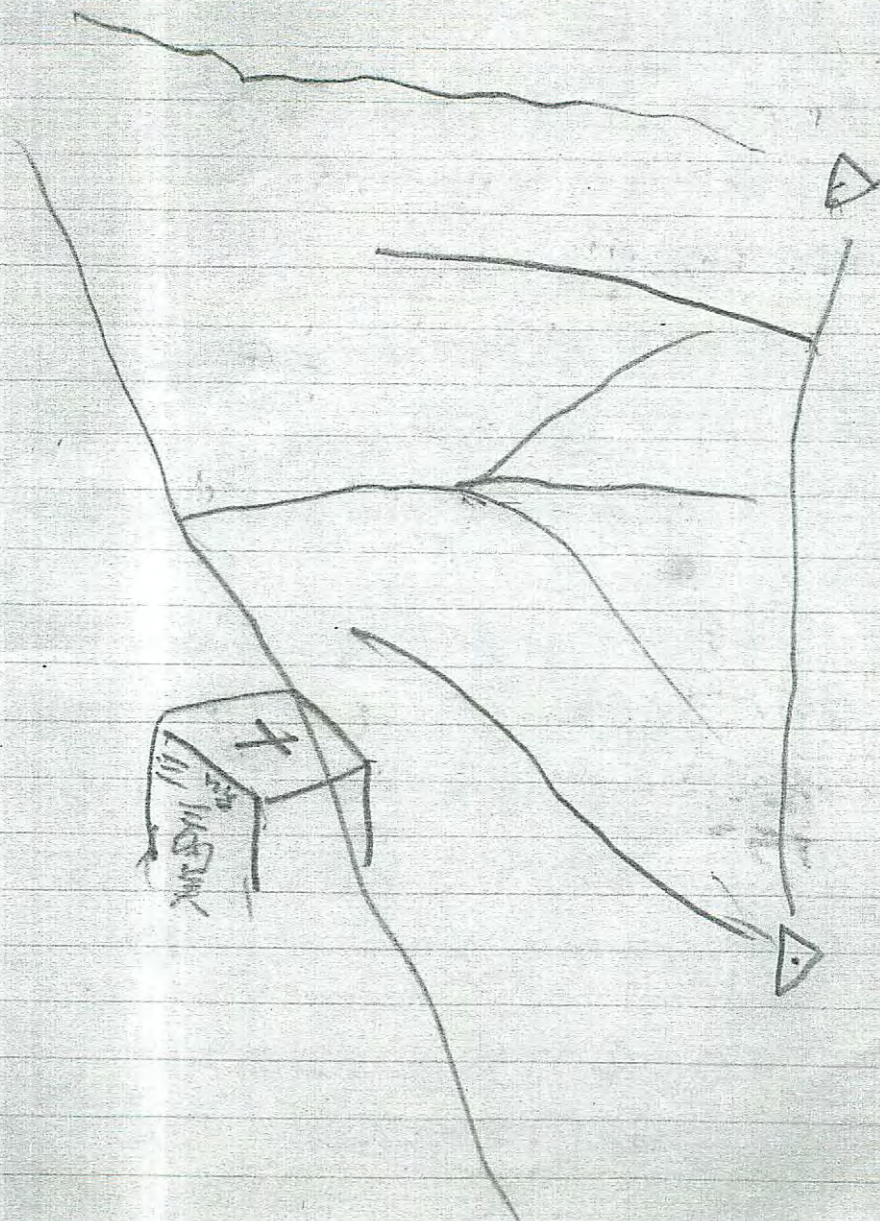
上1区は12 | (7+11)

カ区は12 | (21)

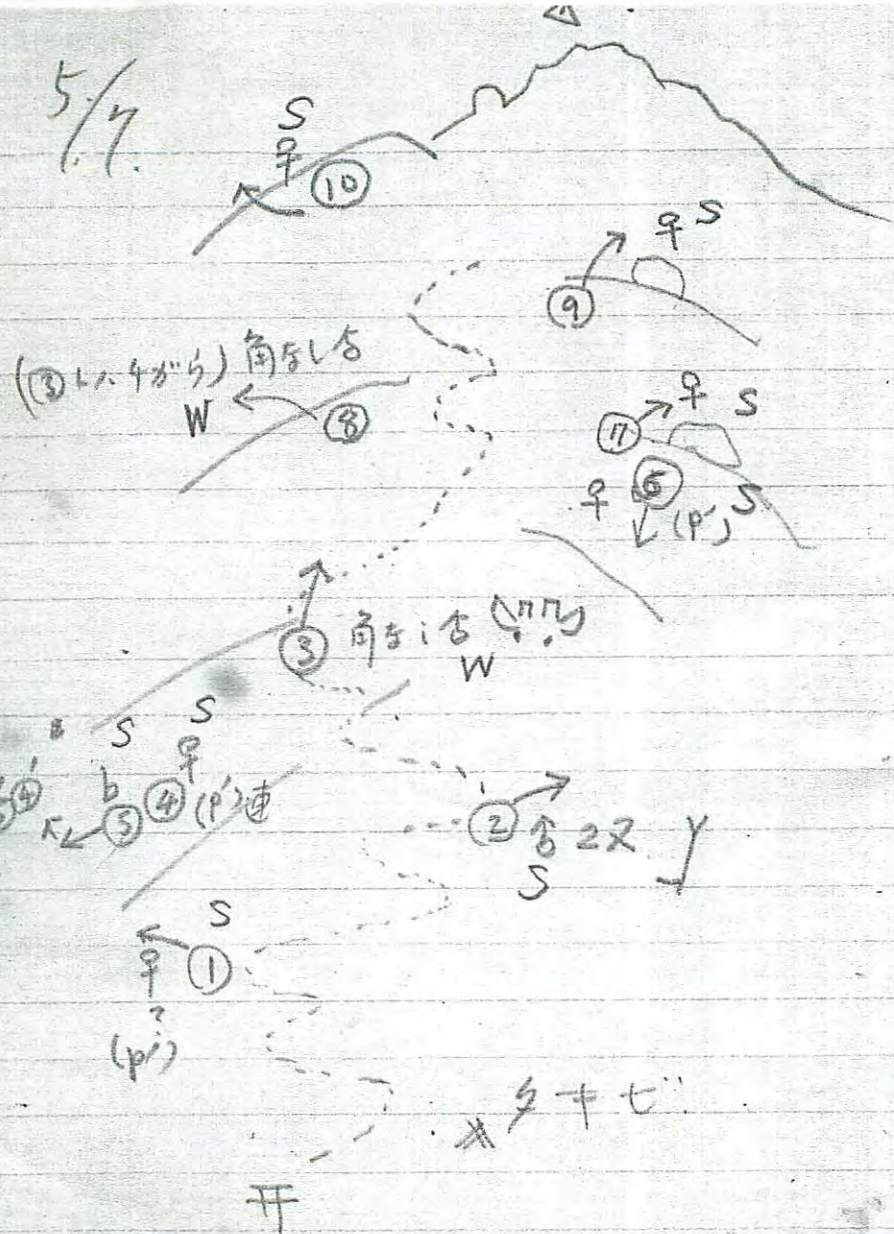
下1区は12 | (21)

オバネ即ち. 肩の位置に

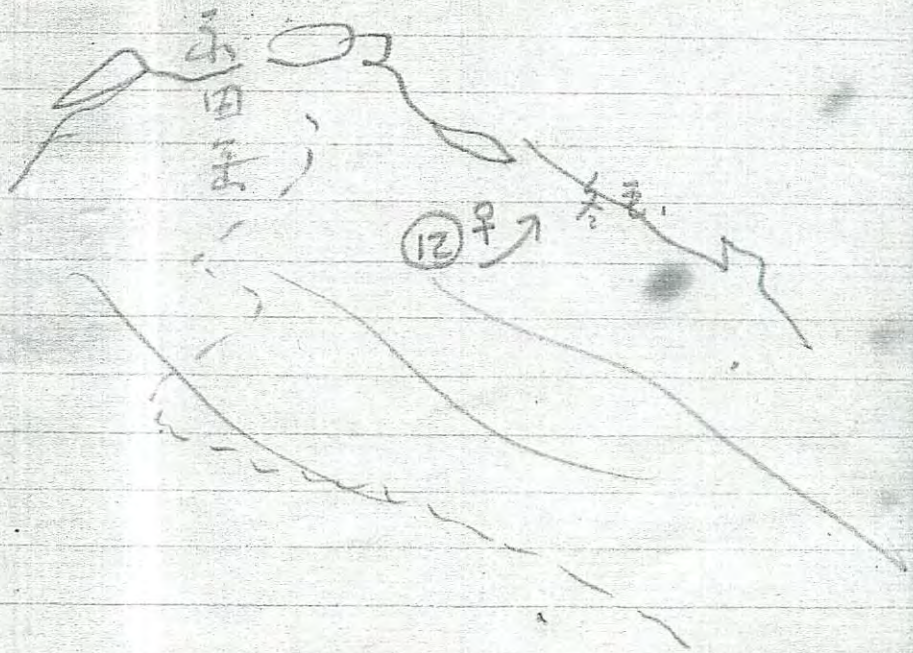
テラス



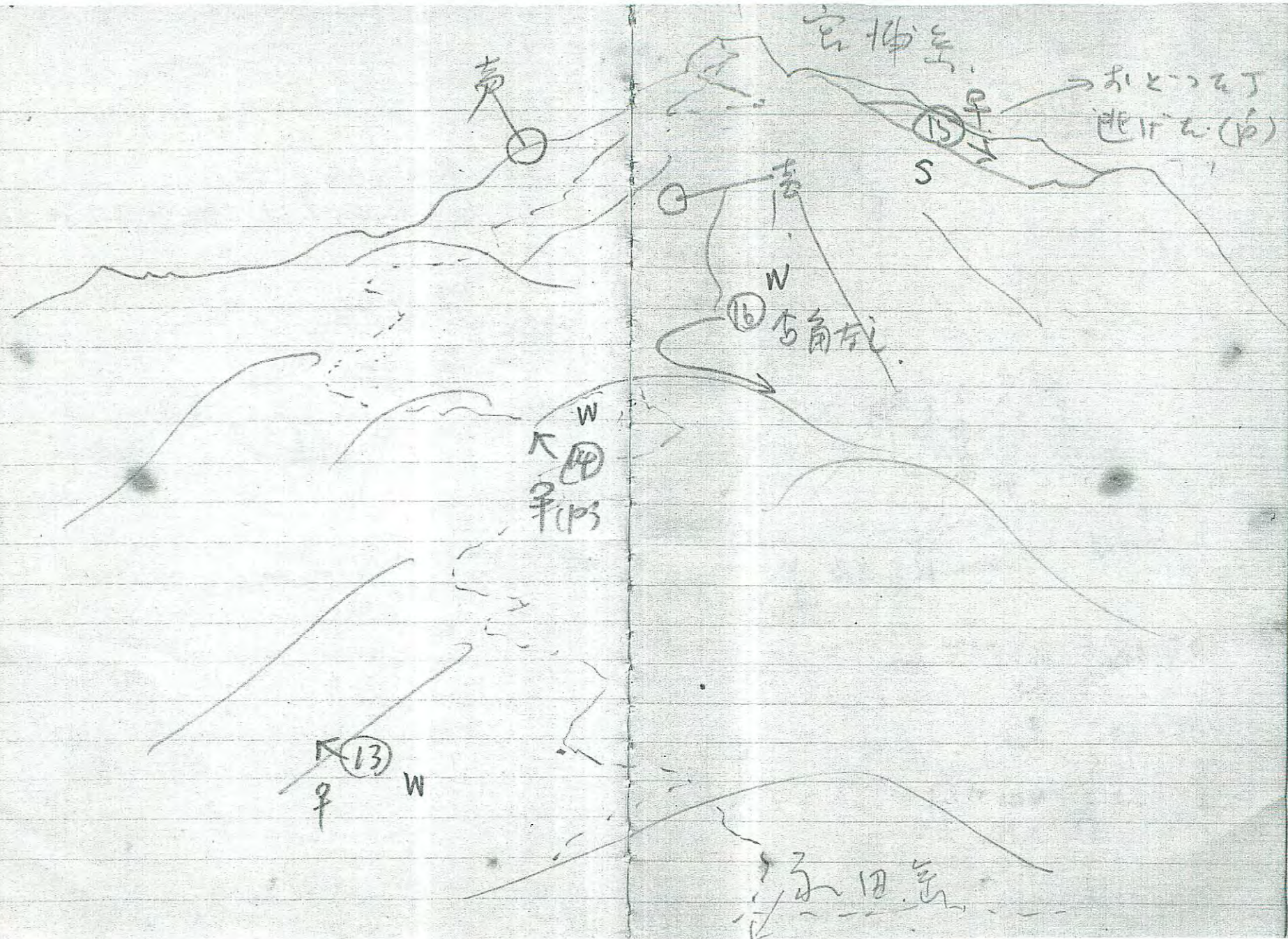
5/7

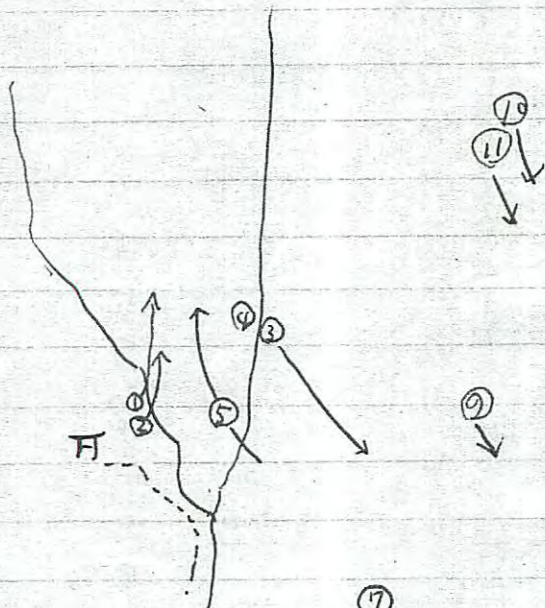
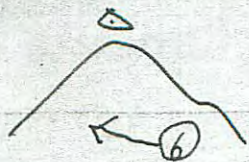


全分 2 11 正,
 3 正 17 早 16.
 上の 合 2 正 12 冬 毛 南 路 十 七 七 三



2 9 8 1 7





- ⑨ 合
- ⑩ 早 夏毛
- ⑪ 〃

以上の他

- ⑩ 割岳 2 (不明)
- 永田登山路 2 (〃)
- ⑩ ⑪ と同場所 1 (早, 夏毛)

16
 + 11
 + 5

 32

S 正
IF
W 7

- ① 3叉合 壮年中大型 夏毛
- ② 2,3才早 冬毛
- ③ 2才合 夏毛
- ④ 早 〃
- ⑤ 2叉合 ~~壮年~~ 壮年 夏毛 大型
- ⑥ 早 大型 夏毛
- ⑦ 早 夏毛
- ⑧ 早 〃

21	永日岳	早	中	S	—
22	"	早	中	S	—
23	"	合	若	W	角付し
24	"	早	中	S	—
25	"	早	中	S	—
26	宮之浦岳	早	若	W	—
27	"	早	大	W	—
28	"	早	中	S	—
29	"	合	若	W	角付し
30	永日岳	早	中	S	—
31	"	早	中	S	—
32	斜ヶ岳	早	中	S	—
33	降下中.	不		明	

	場所	性	年令	毛色	角
{ ①	1回割岳	不明	不明	不明	不明
②	"	"	"	"	"
{ ③	永日 ^山 山路	"	"	"	"
④	"	"	"	"	"
? { ⑤	斜ヶ岳	合	幼年	S	3叉
⑥	"	早	2才?	W	—
? { ⑦	"	合	2才	S	角付
⑧	"	早	若い?	S	—
⑨	"	合	やう若	S	2叉
⑩	永日岳	早	大	S	—
{ ⑪	斜ヶ岳	早	中	S	—
⑫	"	早	?	S	—
⑬	"	合	若	W	—
{ ⑭	"	早	中	S	—
⑮	"	?	小	S	—
⑯	"	早	中	S	—
⑰	永日岳	合	中	S	2叉
{ ⑱	"	早	中	S	—
⑲	"	? 合	小	S	—
⑳	"	合	若	W	角付

屋久島

1952

3

NOBLE

吉田. 田中甚三氏の息子.

山を下りてきた

7,8日のかたにあった. といふか人
物に接近してきてしまった. 本人
かかろうとかわした. そのことといっ
いかなかった.

一日昨年の今ごろ 4月頃からいそいそ
えつて. 30か 指伝にわたって
き山から下りてきて. 一日, 2回も3回
もくもことあつた. そしていそいそ
ぬく. この人一帯のかたの地
今年はずいぶん

一度は 4, 5回 ~ 5, 6回 くらい
昨年白川にきたのは 20 ~ 30.

道か白川にきて. 2回か3回 4, 5分
位のとき3か回ともあつた.

志中子 徳永徳人

泊川から永田にわたる内を流す

とあり。うづり 7, 8 段の力4が多い

泊川から白川にかけ 7. 471212
の力が多い。奥には少い

今日もユ=71 橋のすぐ上は 9, 000
3 段。7, 8 段のもの。

30 位のムシも 2 つ位いよ。

7, 8 のものはいくつもある。

~~いづれ~~ いづれも領地である

たたししかのまじにキ47とまじ

ではあるが。お互いに入りあうこと

もある。大体きまつていよ。

一日に複数の力4を2つとすることも425
425 だけ。領地には別々力43とい
つた名はない。

二つの力4が一出行つて42かき
いてその子えた。泊川の上の志中
子に一本つた所。11月頃。

姿ははつきり見えず声だけ。
雨からよってきつて大声いさわつた

一漢の字接のヒも一回みた
これは9月頃。

さきの例はたまたま合つてケンカしてい
た。この例は本の実証にはあつて

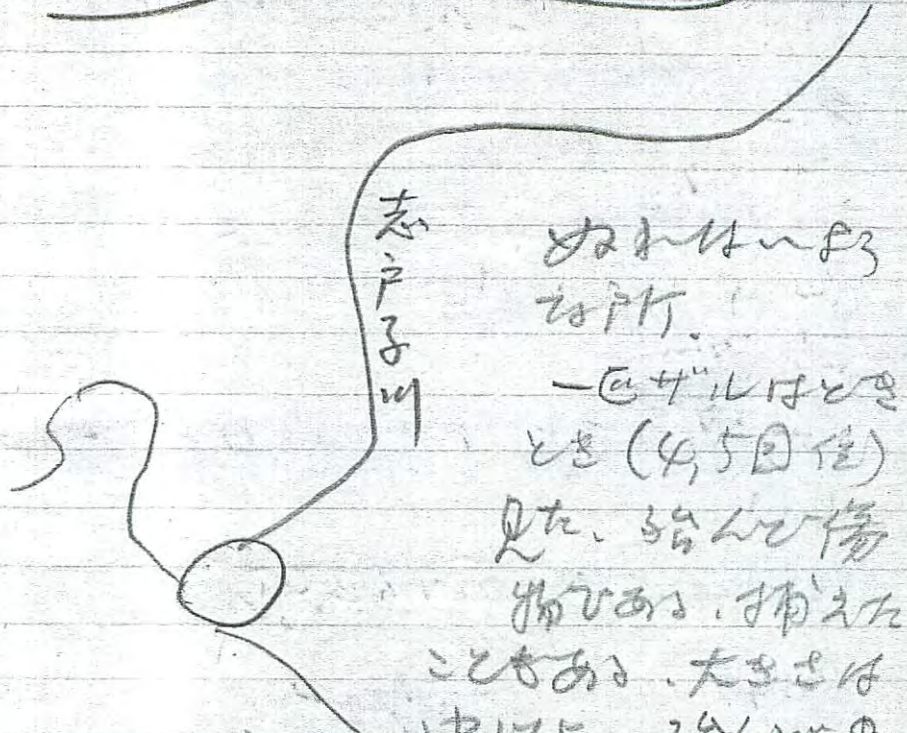
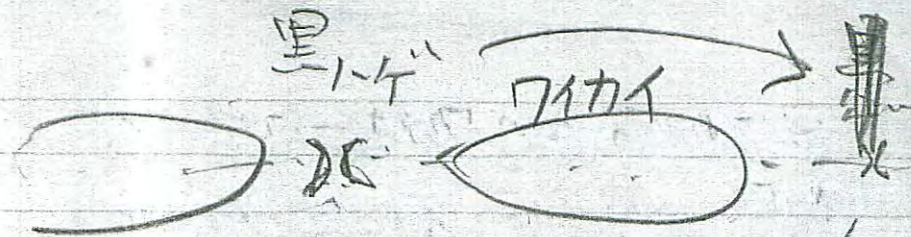
いたと思われ。いづれも力42は力4
段とつた奴のケンカをしていよ二つ
か一かきわかつた。

午二カノ 高とは雨多に命小こつた。

十年はかり 前には40~50位の力中
現右二とあり、高河川と志戸
子の中間

十年はかり 前には志戸子より
河川のおきんに力にこ入った
と云ふ事可いサレハ 其してその
後今日に至る。

河川、志戸川の力に力に
十力中はこさつた。今では
へつてゐる。根據地の力に力
所かたは絶壁の下に力に力に
と多しあり、
午の力。日あつた力。雨かたつた



ねむれん所
志戸子

一色サレはと
とき(4,5日位)
見た。給ふ傷

物もある。捕えた
ことある。大きさは
中以上。子供も

● 3(5)の力。14,5位の力に力
に。20と云ふ力の力に力に
に力に力に力に力に

12-2と。71P-2時と。
17日は一かかつてた。これは中位
の書で3000本のV折つてた。

◎12-12カカに扱は下さい。

さしつかかりの11早の3か受い。

14, 5と。はいしぬ。

714の書

一浪の学校のEは4~5か
い。

田中は一人230位と。

白川の

大將の

一画物は41かろとさうまじ、
小さ一奴のEを盗りかろ。折な
どいささろれてたもの。

15, 6の力40-71カ12と。
Eから下へ下りてきた。一書
大將の (2017 2018) 2019
少く本から本へうつり) 本から本へ
うつりあす。うしろキー一書
声かした (45-奴の) 大將の
くうしろへとんてかえつて中位の
奴を甲えつけていすのさうた。

あんまり大きいのか一画
うしろに2018見ぬ。灰色の
かしの中い。

かから改書色い。Eは
はいか。本の枝を下へ下とす。例
に折折子二ともした。
書は甘の人のさくおさめた。
Eの40一本かすいすのさうた

折から

17+は異常なかった。ほしし〜も
のびあった。

塚田さんの所々一帯大きさ〜の
あり。

一帯大きさ〜の5隻位あり
3行。大將は小さ〜し〜も大
き〜。

塚田さん

これは4,5隻。今年存続獲数

24年 500 頭位

25年 (尾高全体)

26年 100 頭位

5~10匹のLWT 8匹子。

野犬は3,4匹の4匹おって
20匹位の生活し〜たの
20匹のおえろ少〜な〜た。20匹
あ〜たから。この野犬の生活も
たし〜た。

これ 30~40 位と〜た
も

泊付

10月9日 10月12日 吉か 2里台 3里台
travel 9日、10月12日 支屋の甘力
11日、早2頭位つわら30か
〜

高気の高気 何十〜百頭色
見たりあり、このあたり 吉か 15頭位
田舎地帯の 高気は吉か 30
か。 15頭位 30
4頭位あり、吉か 12位
のつわらあり。

毛刈機 - 本場のとら、
根を折るもの、甘力の道路は吉か
4、2頭位あり、12頭位の把握
あり。

屋久島 1952

4

NOBLE

考生

鎌田友哉

尾之内温泉

大迫スミ子

尾之内

岩川純夫

11-さ〜ときには山へ行った露雨が
きて11時そのときやまももいづい
て。じやんかとりは3つ7も
にけなかつた。

本富の西の谷は二股川といふ。
しよしの獵区は2000位。それ
が10カ4位に合せていふ。
けつきりしたかぐらはかからん

✓ 小島の山から鈴川流域、本富谷
のあたり1200位。

Pを指さしてはくわえてはらす
すたとやつては。これではせうけよ。

小島の北に2カ4いふ。
西の方には3,40. 東の方には20位。

鈴川下流右岸からカドコの上にか
けて20〜30位。

二股川の右岸には1カ4。

左岸 1カ4

破石岳の下に1カ4

鈴川の奥左右両岸に1カ4免

二からのカ4は100位は高
て可んて。

両岸のカ4が呼びあふ。さし〜とこ
とあふか。〜しよにたか〜とさ
けゆかろぬ。

フツタテカドコやさくの〜と、おれさ
のか〜ゆとある。かくい全然〇〜
に入らぬ。

鈴川の奥の左右のカ4は全く別毛のと
〜つてまらぬ〜!! それ他のは

もう一つはわかろか。

一匹のものは何匹も。カウワで西の
天候の奴は皆さうで。

いままの子の一匹の。今からしてこの
色とった。

田火はさ荒すことか

タイの川の奥の奴は臭いけあびも
下の方が多い。

2匹の間の場合もある。

中以上の奴。

小外さのかわたかとりでわ
たことあり。

5匹 或いは10匹のこともある。

12-13匹のときも、半々小さい
奴が多い。

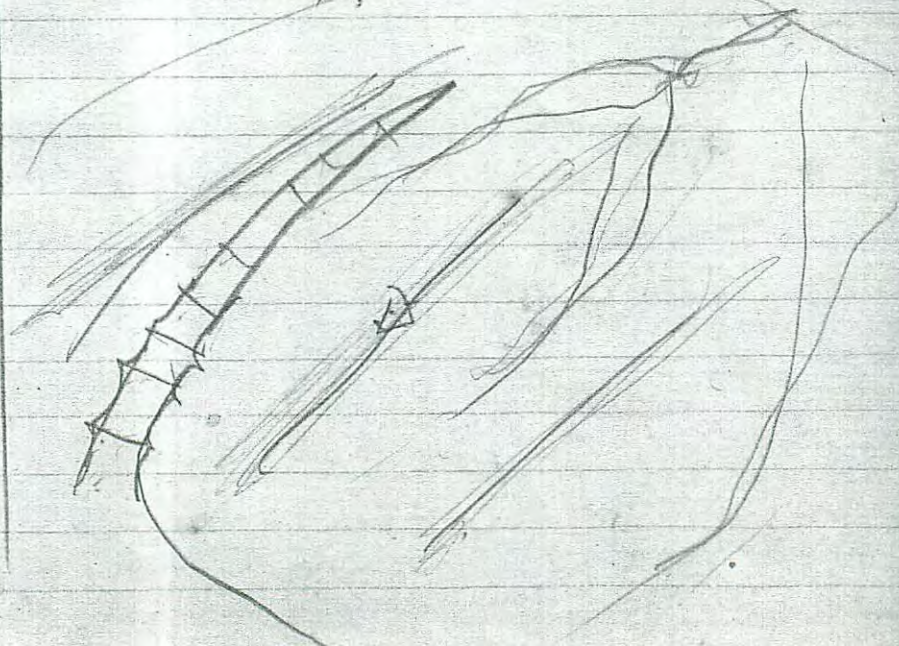
大きい方の大きさは何となく

大きいのも一カ4124, 5匹は多いか
時大と一うの多い。

中島の奴は非常に年をとった
大きい一匹がたか。

換 20年前の人とも

近年 田火から 取れぬもの
ある14匹。



日記

1952

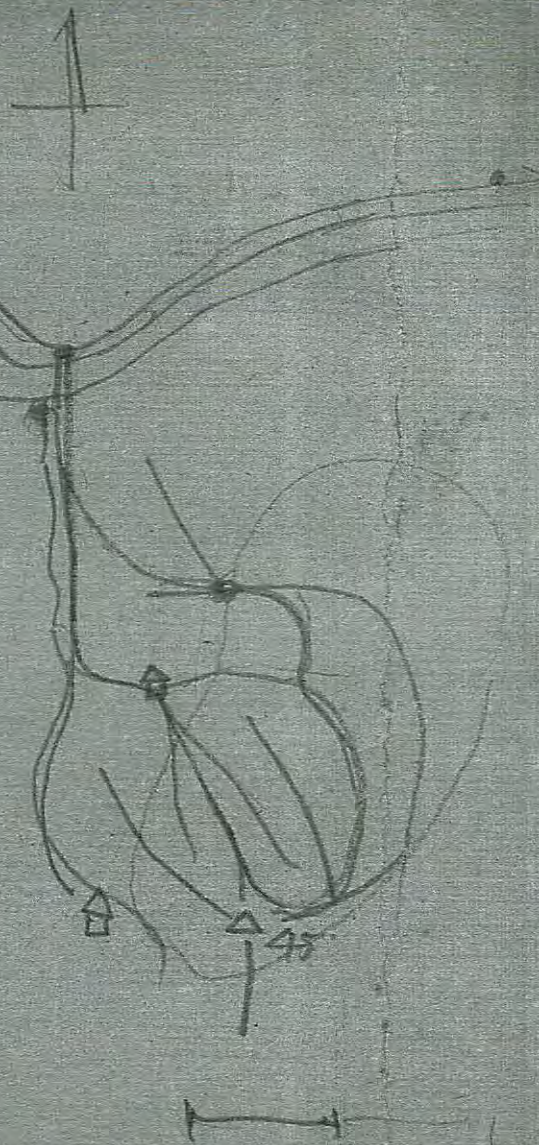
6~7

萩島 尾久

予定

6月

9日	月	御祭	29日	日	〃
10日	火	宮崎若 (連続)	30日	月	〃
11日	水	高岡八 (連続)			
12日	木	知比	7月		
13日	金	市木八	1日	火	〃
14日	土	平島	2日	水	〃
15日	日	〃	3日	木	〃
16日	月	〃	4日	金	〃
17日	火	名谷色八二部井	5日	土	〃
18日	水	名谷色八二部井	6日	日	〃
19日	木	寺井島	7日	月	〃
20日	金	鹿兒島	8日	火	〃
21日	土	〃	9日	水	〃
22日	日	〃	10日	木	〃
23日	月	〃	11日	金	鹿兒島
24日	火	〃	12日	土	博多
25日	水	〃	13日	日	大坂
26日	木	〃	14日	月	
27日	金	〃	15日	火	
28日	土	〃	16日	水	



6月13日(金) 晴時々曇

日南にゆき、中村氏とあう、市長に会い、つ、
市木村助役と打合せ、1500 坪地代を着
せつて泳いで幸島へ、サルは欠す。
インサキのオバアサンと、妹夫婦のみあり。

6月14日(土) 雨

降雨が止り、高行を断念
インサキ夫婦 大津津に帰り。

6月15日(日) 雨

午前中小康を欠し、水戸先生ととむら高へ
わたり、軽平のあたりまでゆき、サルを
見ず、雨は止り、おかし。インサキへ引
かえす、小康を欠し、帰る、ときは15.00。
→ 朝島まで泳ぎ、往復す、さとし。
インサキは船と売ってしまった。

6月16日(月) 曇後晴

9.00 役場へゆき、村長助役、川西氏ら
と打合せ。
12.30 船とえり島へ、コンゴウ山外側で
はじめるサルをあう、そのご、アナンウチ。
オオトリ西南方、ホーのころ、ビービーと
2トマリ湾頭等ひサルを欠す。
19.00 こり船停りの内にはカ群市
木湾を縦横に泳ぐ、サルは水にたいし
いかり(?)。

6月17日(水) 曇後雨

川西氏、冠地氏、大工とともによつて
小舎の位置決定、猿は移平及びワヅマリ右
岸に足す。
かえり設計図をとりし。
午後にはけし雨

6月18日(木) 曇一時晴、夜中降雨

雨あつたため 9:00 冠地出立
海岸道色名宿へ、門川をまう、移平右
岸の猿子足す。
17:00 大納言、明日慶作を移平
門川迄官泊。

6月19日(木) 曇一時晴

大納より宮之浦へ、バス改陣により中
敷へゆき、リノツク色下へ運ばせり。
ノノキネに行つて見捨い、收穫好し。
ノノキネ山系色へて清水へ、檻を分解し、こ
ちりになり、まつりになつて海岸色部井へ
門付けにあり。
本日ついで馬はなつていよのを除いて一頭も
見ず、サレは昨日カセウ4にあり、今日ノノキネ
山系にクツを発見、絶物センイのみ、例のコースなし。

6月20日(金) 曇一時雨

永野金太郎(色たつたつて後、ウラシマの
ムスビ色たつたつて立寄津、ケウホへ、ついで
シバエまのゆき色イサンにあり)、こゝで
バスにのりあて、19:20 町で廣見富着
宿に泊。

6月21日(土) 曇後雨

鹿児島県鹿児島市。塔林署をたづねる。
17時O.K. 伊谷18:30ころ到着。
田をぶらついて買物をし。19:00の十島丸
にて長久へ向う。雨となつたか波はかろい
おたやか。

6月22日(日) 猛雨 台風近づくといふ。

長久へ近づくと波高し。8:00守房着
工藤署長にたづね。打合せその他話をし
泊代をふんじサルの分布についてきき
大体の様子を知つた。
今後のプランをたづねる。

6月23日(月) 午前中台風通過 午後晴れる
塔林署に赴き、地図をし、発塘駅等からの
の記録をとり。

泊代をたづねいろいろと打合せ。

6月24日(火) 後一時晴、又曇

9:00は発小形谷へ向う。大島島の小舎の
書庫をとり、雨の上のものをひろつ。中島島も
子に晴れたに似る。但し、サルの分布は
小形谷新伐所に入つて休息。後又
曇天となり降雨あり。

6月25日(水) 雨後曇

塔林君・9余宮のため 9.00出発となる。
坂之江川の谷に入り、軌道踏道に近づ
くころ、雨ふりきたり。おみは豪雨と雖、
道も欠味。雨に叩かれ、たすまらぬとい
川も増水、断念して雨を小宮にさゆ。後
晴れ内を走下り、5時ほど小松谷から下
り下りてきて 即日宿屋に帰る。

6月26日(木) 晴・雷雨

9.00に出ると一トトラックが先頭でい
よこす。湯島の道路欠陥のトラック
に便乗する許さず、湯島のや東まで
ゆく。それから徒走の中向まひきたと
き5時ほど大雨にみえ。

粟生では多賀代が停つていらいと
せ話をうけた。上山代におつたき、山
から多賀代と中向まひ度を見れば、か
えりは見捨てる。雷雨の始の見た

6月27日(金) 雨後雨

粟生の老獵師永井信彦のところへ行って
シカを、それから彼と瀬川へゆき、大川瀬
川川と比べ増水し、渡渉困難である。

代、岩川はより流をきき、又屋久副着
後川の二サルのふきき、

瀬川川を降りるとき雨降り来り、たすまら
雷雨の豪雨となり、大川がたつた水す
たつたのさきつ日ほどに、つれづれに
伊谷は川に中向まひもつて岩川にたつた。

6月28日(土) 曇一時雨

井に5時瀬川へ、伊谷は3時を知らず
粟生までゆき、ふりまえに瀬川へせつ
た。

午後には川がたつたの上まで上つてみ、
夕方のよい曲側でサルのみ、この日
のふりまえに、サルの瀬川川の南側にあ
り、こまごま別群のこまを知らず。

6月29日(日) 曇、海上は晴

いよいよクロバエという復讐のしほらく
ぶりー一日中降る雨だった。瀬戸から
川原へゆき、一軒赤い邸がアニマスに
あう、甘みし、巨大なヤマカがしを欠か
か、ついにカルのあわす、早く瀬戸
にカ入りつた。

6月30日(月) 曇、海上は晴

クロバエにつく、サンゴが夕木から
岳道にかつり、大杉の少し上へ伊谷か
シカ2頭と見え、上部の道は生いしば
つて霧をふくみ、大いにぬれた。早く
永田の谷に(ワニウリ)に下り貯木場
お世帯にゆき、夜は牧施館に泊り、
晩飯は先のカルとシカをす。

7月1日(火) 曇、海上は晴

クロバエにつく、午前中日高けと授舎
宿舎を貯木場に変える。
午後半山にゆき、田中氏にあって話を
きき、相伴つて永田へもとる。途中サハ
にあう、永田の早の燈台とあそび。
20.00ころ帰着、塔林署と人々と
42-50のり

7月2日(水) 曇、天気下り坂と有り風あり

朝から霧をこみじかにすく、一昨日の
とつた霧、狩野の木田、渡田、牧
田、宿。

午後は海に出でつりをする、べら
びをつる。

夕飯は日高けをすく。

17月3日 (木)

17月5日 (土)

(A) 10000

7.1

17月4日 (金)

17月6日 (日)

(B) 10000

17A7a (A)

17A9a (X)

17A8a (X)

17A10a (X)

7月11日 (金)

7月13日 (日)

7月12日 (土)

7月14日 (月)

NOTE BOOK

*Made of paper
specially prepared in Japan*

屋久島 1953

1.

9.9. 宮之浦塚田会長談.

現在^下屋久島でサルを捕らえている

猟師の人数は、
→ 庄内町遊園地

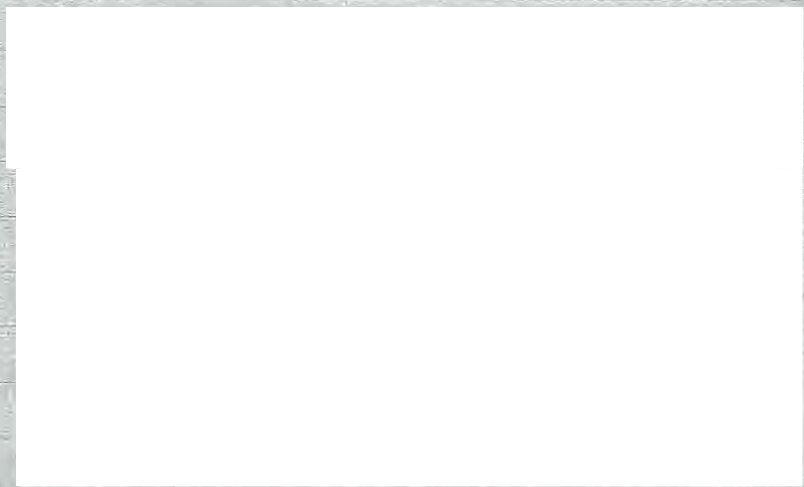
1. 今村 70名 (夕7:00)

2. 浜田 中子のみ。 { 協同の (永田)

3. [redacted] } 10頭.

現在^{天宮}動物園へ収められ価格は

6000円 ~ 7000円である



永迫施設館主談 (61才)

今から20年前位には大へんサルを
ていた。そのころはサル商人が宮之浦に於
て監禁初義(50位)が現存す。

至年まで川崎ノボリといふ人が
(宮之浦) 獲ていた。

昔は50と捕って名古屋方面に出してい
た。とてもシカもサルも多かつた。

以前から2里も奥へ宮之浦川を上るな
とサルはいなかつた。

警林署はここに一つあつた。30年位
前には二つに分れた。尾久島小林区署。
昔は商人に落札させてどんどん出してい
た。

主人が子供のころはすい部塔の近くは
シカが何匹もでておのを見たりはくを
しかしサルは欠なかつた。

サル商賣は冬であつた。種子ヶ島の
人がやっていた。監禁は捕まうであら。

○ 死んだサルは頭を黒燧にしていた。
勝も早かして使った。シカには臍石か
あつて石が非常に高かつた。(石)

○ 屋久島ではサルの^飼つてどうすよといふ
ことはいふが、

サルといふのを漁師はさう。内地からく
る人はモンキといふが。ここの人はヨモといふ。
シカはレーレといふ。

シカの皮買ひの商人は昔は大したものだ
つた。メスの皮の方がよ。米〇人の靴に
なしてつた。

イタテ (イタテ) もよ。

昔は、山にゆくとサルが30も40も出て
きてとりまいたといふ。

ガラツには又かしばいたといふ人が多
かつた。ヤクウソも見た。ゴドモのころは
(父母)が今後ガラツに上つてくよと
いふ話をきいた。

半道以上まで舟かゆく。下の舟は^{ウチ}
ギ。上の舟はゴマをよつたウチギ。
大きいのは1尺まわりじうい。ゴマの
舟をこの人べたべよ。15丁位の所か
両方の境界線とある。ウチギとゴマと
稱して區別す。

ボラ、42、エバ、ウチギ、ハセ (14種)
フダ、スズキ、フカの子も入つてくよ。
アゴは大舟にまひ上りつた (少し)
テチがエビ。タウマといふやつらのエビ
の數倍の奴がある。エビ。300じう
い。大きさはテチが > タウマ > エビ
マウマの川魚。タウマを天つらにして
式の時きには使う。テチがはあまりとれぬ。

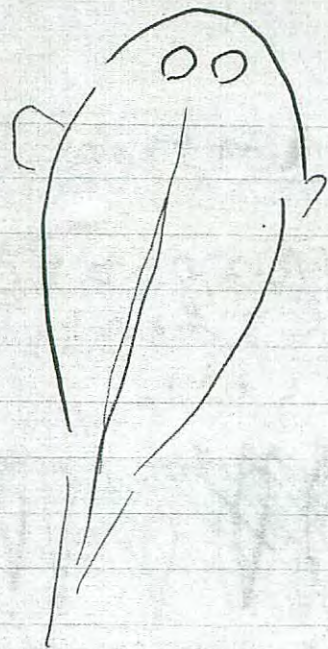
テナガ、タツマは1里ほど上まで。エセ
はこのおきん。

川のアミは昔から禁じてある。ボラの小
さいのをとるナガアミはよい。

4月から7月まで1ソウで大きき。シゴ
は地曳きをやっている。

ボラの魚はカラスミである。昔はそれ
でいた。ボラのハツ(マルという)虫籠にあ
る。これはよい。

クヨミツという砂の中にいゝと気がいい
とてよい。朝早くと夕方しかと水取
ウナギの卵にはすべすべして一本長めの魚
うすべつたくてセセしかねいみたい。ヒラメの
ヒラメはカタヒラのオといふ。(美ら島)

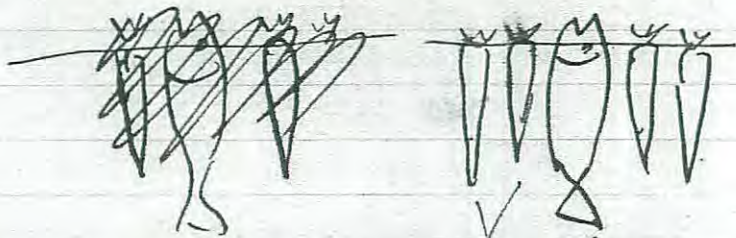


ここにはスサキが種ある。地物、小物、
屋久物で下から上へ命布し、木うもこの
いびつから。いしり大きしても小物とい
うが。小物は5,600年以内である。

壘十七枚からイルソニ株と...。碓氷川
が小物谷の上にある。

各部落は各言禁からかう。平家から落ち
たと...。吉田からの魚矢と...。いりいり物

かあつ、人かもつ行った。



~~大~~正月のかさり、スイジ^{大根}場^{こかさ}に
さげ、正月か休めたから こかさ切つて
たぐつて、15日に 頭をあとす。

門松といつて17日にはこの木を立てる。14
は使わずに1本だけ。

屋久島に1ヶ月の大將は1艘、いざと
なると宮之浦が強い。宇房は賣り較し
と一評かある。旅人に高く賣りつけ。

藩政時代にもここに奉行所のおい
もの奉行があつた。(現在の役場の所)
屋久島宮之浦 鐘子の阿古ギ (西之表の前
名) という。

現村長は鐘子出身の高等学級、校
長で人格がたか、前村長は宮之浦
の人で リコーにこけた。

シゴは小りに金かたりトヒあオ日一審
よくと。人口かあえは、20年或は25年。

南川では顧問といふものかあり、一審年長
者 ~~村長~~ 有力者かあり、区長もこの下
であつた。死ぬと次の人をきめる。

男ダライ、セダライ。

口永良部に流すといふ屋久、流さるるよ
ひどがうた。

十島、奄美大島の人はいに入柜者、昔は
ヨソモンと、いつたか、今は差別しない。
朝鮮人は一人だけタニグステンをやつて
差別はない。

糸満は今年きた。午こき舟で、魚で
主にイソ魚とリである。上午である。アミを
もつてきて、それへ皆で魚を遠いこんで
と、オヤ舟一隻に小舟か(丸木舟)
4、5隻。

二小舟で来たのはもぐりであった。
丸木舟を組んでやつてる。到着してから
バラバラにた。

盆踊りにもろつあり

竹かつの踊り

ピンスの踊り

棒(カヒキヤ)の踊り。

男だてのサハヒ。

4月10日に村整居。大勢で。1日は神祇
社

1日は漁の祭り。今年も3人も如入つた
もとは男だけだつた。

忠臣蔵もや。家にはカキ本忠臣蔵
がある。忠臣蔵は毎年やつてもあきな
の繪

カミサマ 今(は) ↑59才位
ミコは神祇といふ。オイツといふ人
カミサマにみてもうといふ。防失や痛富
のときオサイロををつんでみてもうに
ゆく。各村落に。どのカミサマといふ。
昔からある。神社といふカミサマ。

9.10.

野井 治義 50.

昔からサシのいり所は定まっている
ずらと もつともちがいのいり所である。

1 群れで 4,50 頭 あるいはそれ以上
いる。5,6 頭 や 2,3 頭 程度 まで
がある。

それから上へとは、坪切山の 界隈に
いる。又 宮の浦川の石岸にもいる。

奥まで入るとずらといふ。

白谷川とじりんくぼとの間。

1223 をハカメというが、このあたりに
おびに 312 いる。

以上はずらと昔から今にいたま
でいり所である。

奥の方へゆくと、群れの大きさの
はるとり、80 頭 いる。たがな一人はち

1,450 いるといふだろう。

浦川では、ワグカーハツマヤモセ
たると、道踏ちかく(コンクリートの橋)
のとこまでゆく。

事業所は $\Delta 907.9$ の北にある
その附近までこの大きな群れをゆく。
~~4,5 頭のほかに~~

昔から潮時で移動力があるといふ。

野井のケイケンでは 10 日も 2 週内も
こはいることがある。しよとつづつさま
にやつてくる。

群れのテリトリーはほぼきまつてい
る。そのなかにはいくつも群れがあ
る。4,5 頭の数は大きな群れに
入るためのつはな。

坪切山方面にはなと寒しなると
下へ下りては。

笹井氏のテリトリーのなかでい
群れいさかふ(わからぬ、サレたけ
はとうとうおえていふこと)

昭和15,6年頃には油川ふさ
いやつて30頭以上とつたから、
とうとう大きー群れかいいとしな
ければならぬ。

大昔は(白谷)お令の一すじ、3km
位上まできていたらしい、笹井氏の
生涯以前の事。

大きい群れは7,80頭

よく大のは10頭位

群れの少いものは移動のせい
うた。

小杉谷の事業所の奥の事も非常に
多かつたが、今はわからぬ。

群れによつて顔立ちからかうとい
ことは別に感はない。

油川ふさの奴は横着で人を水
して、(奥)の奴は人をあそぶ。

~~今も事業所の何十捕獲は~~

笹井兼義(第37,8頁)が三年か
ら始つたので、ゆゑかもしらぬ。

シカは 5,6頭から 7,8頭 群のな
つてのことか 奥へ行つて 非常に
少くあるか 見かけのことか。

シカの方是非常にへつてきたよう
ある。

里山のシカと奥のシカとは大小か
らかゝり、ウシに区別がある。奥の方
が小さい。

ウシはあまの奥のシカと D の
シカと区別がある。(別々名前は
ない)

エラブのシカとヤクのシカとはちが
いではないかと見え。

昭和15年 草野地から帰り、その後
2年やつた。それ以前 20年ほど
つた。

川崎登 (32)

主に白谷から 一かたの方色あま
た。105番を ミミクエ という。

ミミクエには 大きな集団がある
テトリーがある。

大障子が多い。紫竹林 (三田山)
が多い。30~40の群れが多い。

志戸子谷にまでかかす。

ミミクエの集団は 5,60匹あつ
て全くとろかっている。これかヒワ
クボの南極のイモバケへ出て

● 畑栗の色している。この色は
中流川の斜面から。△1396の奉通
に身動きする。

ハカメの集団は幾々にかけて通う、
20頭位のものであり、宮之浦川左
岸ではこの2群がある、1匹はた
かしてはのかいさ (人間) がつかま
てにげた奴が集団とは一匹にな
らずにありまわす。官行

まつ白尾サルからいよ坪切山のま
まは8頭位ありらしい、これは
何匹も見た、坪切山の北へ
~~また~~ (3) = へよく出てきた
に」といふこと

1匹サレである、

岩房川の小中島から宮之浦岳へ
て、1544の高倉にかけたか
ていさのがあり、100位あり、4と

つけていぬ、
まうと山喜内とていふ、ミツサ
の方も2、300位はあり、
川川のまは今はとりつしたの
まはわーか (場所がえしたま
もさう)

大塚から坪切山、吉田山の内
を渡るのは別の1群のま
あつ 30~40くらい見た
たき一群は見た。

カ4は境界はわがさうかた作
すかかていさうに欠え。

カ4とカ4とか出会つてケンか
るといふ、さうはさうか、1年
ことはいぬ。

山崎(村)は土坪山や吾田岳、夕ヶ谷
ハカケを面びサレをこつていた。

小中島のムシは犬が這い上りかた。
ときによい味を食った。100匹くらゐ
いかにいゝ。夕ヶ谷の文のたゞこゝに
は下つてくよこどかあ。このこゝに
たゞと子供や大人が3のふしん
たゞこどかあ!

吾田曲の尾根子あはしいといふの
は100かどさう。

白コ山はこのムシか下りものゝあ
ひ。またいよ。

他のカクの新へ入つてゆくとこ
こはなほと重く隠いと下へ
下り。さういつたときは~~出~~出
つものどさう。

カミツイで殺すことかあ。クモス
4-5カミツイのさうに教さな
11月の末に。ヒキの尾の下の方
-昨夜 (谷のむき) 土坪山の
カクの下へ下りたさうい。
夕ヶ谷も下りてきて両方のカク
か出たつたのでなほい。

獵野牛の足をもつてかど。
7P7Pさかぐのどか行つて見ると
大きな奴が2匹かみ合つて
他の奴はまかりかす~~さ~~さかひのむ
ひあ。

木のむきか下へあつた。
このときこゝろあつて7Pといふと。
勝つた方かはなほていれを食つ
た方はずいぶんしつた。たゞしま
つた。3.5のむきで。相争つた
か大きな奴が。2匹ともあつた。

このとき両側にわか水で行つたから
2つの力4匹あることかあかつた。
月登つたのは 坪切山のふしろしい。
双方同じ位の力4匹ある。

いふかりあひていふ人大きいサ
ルは7貫位のとつた、特大である。
天王寺動物園へ去年やつた。
ちから力4匹の奴をとつて箱に入
れて向うあつたすくすくはケンカを
はじめ、おなじ力4匹のものをつた
ケンカをせず引さあじ。

26年 } 遠及頭数 134 頭
27年 }

獵友会調 全部3通。

上屋久村宮之浦

大正六年

農業

笠井兼義

永田

日高俊一

昭和六年

農業

楠川

農業

明治37年

今村藤義

✓
もし木製
の牧力
雄の方
かよい

9月11日

日高國壽氏

2,3年東又サルカ一ホエテきて、もと
返りの山である。昨年ホリもホエてい
る。アホビ色火がとつたため畑へ出る。
松田文夫(半山方面もっている)

確実な人、

サルの裨言かあ~~する~~所半山と
吉田、白川

→今年になつても裨言かあつた。
アカマン(サルスバリのこと)の言
所はアカマン(地名)とあつた。

日高氏の持山、

{
シラケン
ジイカタケ
上山歩道
アカマン

上山歩道のクワリ
斜面。

今朝さわらなかつた夕がまてさあ
つている。又ウジの~~も~~もまえより
派のなつていから、サルはあえてき
なもと思ふ。

ジカダケ、アカマン、上山毎道の3つ
の群小のいよりには思ふ水。

群小の頭数は上山のわいては
人多して100頭位ではないが、
アカマンは40位、ジカダケ~~40~~
位、シラケンワ、80位。

深田は土坪切山方面と、クリワリの
左岸、カンカケの斜面とびやつてい
おは2頭とつた。

白いサルは吉田の同中甚も見てい
る。又白川山で小さいサルをトセビ
おさえよりとしたる白い大きいサルか

とびかかつてきたので、恐ろしくてト
ビをあいして4つきたといふ。
このカシロ宮又浦川の上のまへ出て
くものびある。

シは乳状のものを吸う。それからた
べなになり、実かみのつてから又く
う。シウケもよく食う。時季にゆに
シの本の下に、乳状の汁をまつてあ
つたシの若い葉の一面にあつてい

ロウヤワチの形も時をかえりながら
つきよたけ自然に近しくし、ノコギリ
の切口なども2つをかきせしめ
くす。夕が期の次にシイに
アコウの葉をたべ、シウケ、

栽培シウケをやつていふと113-群
たべるとあとは全部かきあしてあ
る。

山には山犬が多い。F.C.のウチ
にはかかっている。とくは1隻の山は
が多い。ネコの野性化したのも多い。
犬が宮に上ったのが非常に大きい猪
で、場所はずり山のかたまりの上、
雪のあとときであった。虎毛の奴が多い。
ふつうのネコより大きい。別にあつた
うにも災えぬか。あつと書かっている。

山犬は人を欠かすとさつとにげていつて
遠くを吠え。メツキがちがう。ネコも
メツキむわかな。

何れのネコも犬に吠えてしまつてあつた
くはつて捕殺した。トラのオスで1隻位
あつた。

山犬はほとんどいかにして生きてゐる
群れをつくり、2,3頭いゝときもあるが

1匹のことが多い。人か
ついでに犬は主人かゝいさがる
気が強くて気かゝはけてしまふ。

犬かゝるとサルの群れから犬を
めぐるきと相争はなし。
誘導の例は知らぬ。

ソマツの
~~サマツ~~ 鳥かといふ人が大きい犬を
つかつて銃撃をしてみた。この犬が
急に川原の端まで逃げた。3匹
のサルが犬に近づいて吠えていた。
犬の脇から出ていた(日高代
も見た)

カマヤのウチを引つはつて1頭位
引つはつてにげていたこともある。
犬の大人かようやく引つはつての
ものもある。

何百という本がたまってある

(この本がみのつたようは、ときによ
上山歩道のぬいば100位はなか
かつは2,3のふ群をわかかてい
よびある。

日高は大体かづの中の大ききもの
の敷にたててきてケンカをすとい
ふ説がある。

こまのケンカで100をこえてい
たのは100種か最高である
あつは20~30位、ふえたのけんか
「けんかからてはたか」

「1匹ガルの放されたふりた」とい
う説はこの方面のふくとえに
仲間はずれの人々のこと。

今村藤義

秋に獲るいふのはイツソウの
測候所のそばの港から尾根をつた
に白川山まで又、白川山から
田の向

白川には秋に獲るたさんいふ

白川山をよびにたてた理由が白
川山でサレカヤク火のさきから
である。

イツソウ、こう山肉 ^{道路に出ている}
のサレは2,3匹 20~30匹位
10匹, 20匹位

こう山 イツソウ肉とあくと
1か4らし。

老子との肉の山にもいふ
これは別のか4らし

7十のイサは

旧来のウダモノ、カライト

リンゴはともにも好むが、こはけ
小エのけはリンゴで
飼いはあてては

牧畜系も肯定し、リンゴもとりも

Fといふ。

泊季忌

汗を流して、心も少しはさびに
川と繋ぎである。

好景は、宿屋川、3群、養生5群。

神さん 茂るはゆるな
女も一人い。

カラフハ 言はこの、ハカハカ

きけ2のわらひとさけ、木の根

と2はつづあつあ

キケニのよ、ときは、こいと

こいと、ハアと、こいつ、人々の

おぼえしたこともあ。

馬のすけの人、こいとカラフハ
は見えぬ。こいつは馬のすけ

すけだ。2回、河原におつ
3回のこいつ、かえさしてあり、大
ア、4人、こいつ、水の中へ、こいつ。

この日、さくらとモクの三と、いづれも
 1に、木の皮を剥き、こね、白く染め
 した。
 山で、海と、こね、竹、棒、切を、もつ
 ち、なごり、行つた。
 (人間色)

キツネは、かぬ、インカ、ア、ロ、つ、く。
 何か、名、を、さ、ん、か、ん、か、さ、す、い、}

8月	26日	水	大坂発
	27日	木	真崎山
	28日	金	夕
	29日	土	宮崎着
	30日	日	市木着
	31日	月	冠地滞在
9月	1日	火	幸高
	2日	水	宮崎着
	3日	木	真岡王ケル
	4日	金	内海
	5日	土	鹿兒島
	6日	日	西之表 (船内)
	7日	月	守房
	8日	火	宮之浦着
	9日	水	宮之浦 (役所廻り)
	10日	木	宮之浦 (interview)

11日 金 永田
 12日 土 " (狩木端へ)
 13日 日 " (捕獲許可準備)
 14日 月 アカマシ・シガタケ
 15日 火 半山 往復
 16日 水 上山 歩道
 17日 木 永田 (雨天)
 18日 金 " (")
 19日 土 ナラゴ 方面
 20日 日 永田 (雨天 船行り)
 21日 月 瀬切地へ 粟生へ
 22日 火 安房 往復 瀬切へ
 23日 水 トラカケ 大川 方面
 24日 木 瀬切 (雨天)
 25日 金 " (")

26日 土 トラカケ
 27日 日 夕
 28日 月 トラカケ 粟生へ
 29日 火 安房
 30日 水 安房 (雨天)
 10月1日 木
 2日 金
 3日 土
 4日 日
 5日 月
 6日 火
 7日 水
 8日 木
 9日 金
 10日 土

藤川安男談 (9月4日於内海)

6年ばかり前に仙崎の山下喜一代平(下入津西之浦) 獵と山林
見廻りをする(わし)人。

担当区人夫頭 小村年一

冬はこゝでしらす、鮎付など、
山に(わし)。

事業所搬出 西正人。

獵とや。

住所

永田

農業

松田文左衛門

明治42年

NOTE BOOK

尾久高 1953

722

日高俊雄談 13日。

○ 渡田村の7+は カンガク 3 半山の
上にかけて7つあり、ここを3年や
つたがと水ながしがあった。

全滅

○ 上山街道を3年8つ、とわたの川/2,3
あったが3年たつた。

○ 冬時季には小さい川はと水は、
その9月頃か、うちは人5人と入る

○ 上山街道には川はと水は、
欠け。

14日 日高氏次男湊 (E10 L)

今から4日前に 午後3時頃

夕=7時と11時頃と。アカマニ

木の伐採を下のヤツの。3にまゝヤツ
かきこみと冬時7に行きつた。折か
いさし山あつた。この向う (ヤツの声かした
て木の上で2匹の大きなオスから
みまへて居た。

3のオスのうしろの奴かた(さん)いて、
木の根をゆつて。鳥がなかつた。

向うの奥まで行ってこわ(な)つて帰んき
た。3と)をけんて

いまから10(1)の時(1)の時(1)の時

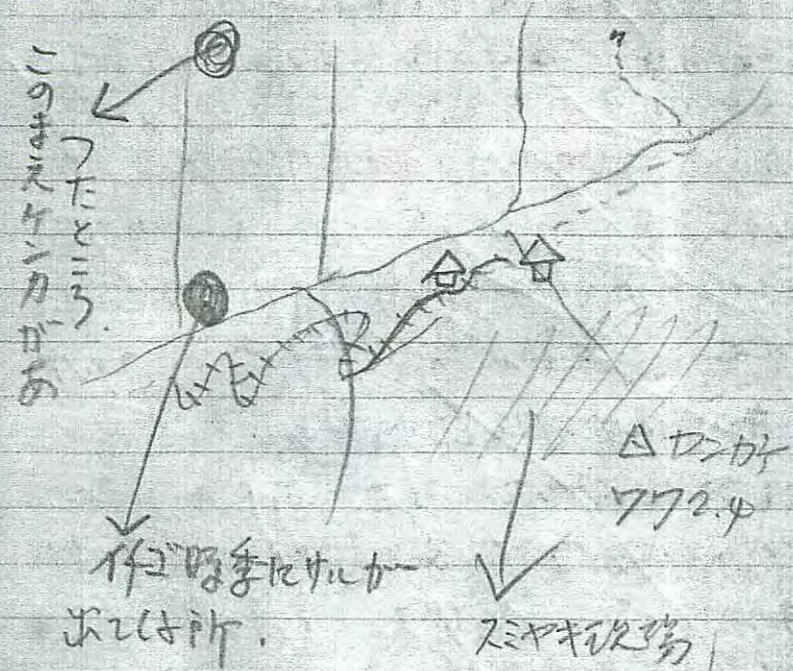
このとき(1)の時(1)の時(1)の時

ちうと(1)の時(1)の時(1)の時

か4時(1)の時(1)の時(1)の時

すつと後まゝ(1)の時(1)の時(1)の時
か4時の時(1)の時(1)の時(1)の時

アカマシ



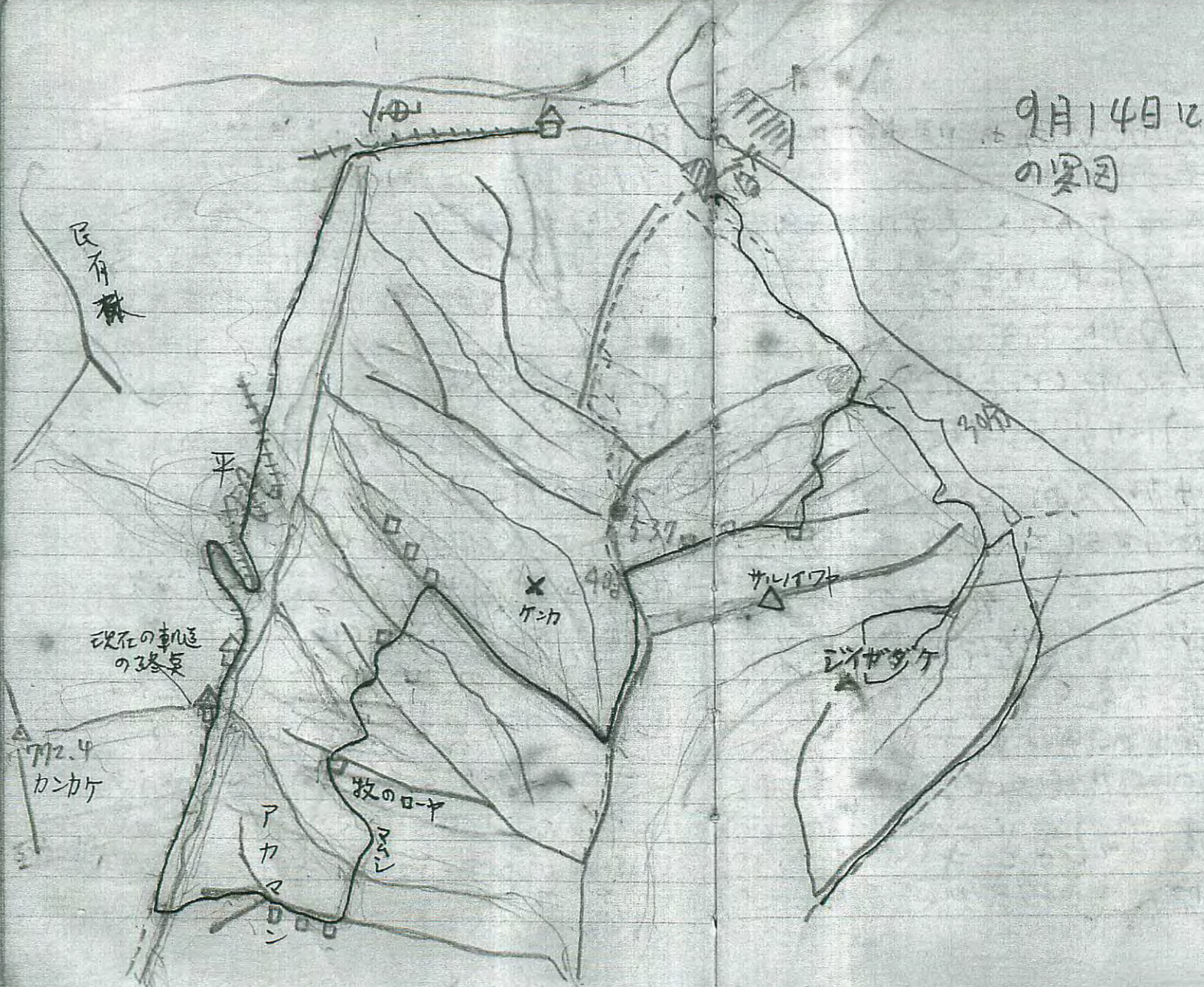
9月14日

71時30分 アカマシ 軌道終点
 12時15分 アカマシの下が金事を終りい
 上へとアカマシへのぼりはじめ。急斜面
 アカマシの尾根へとりつくと、日高の山
 頂がある。12キリ尾根を3つめのコル
 即ち3つめの頂上は達し、それより、
 北へ下りると水流のある谷にあるコルか
 らの切りは山に近しい。

この日、アカマシのコルの頂上は非常に
 湿り込んだりである。しかし現在は
 あまり濡れがなくていい形跡がある。
 もともとこのまはえの3つめの頂上まで
 してあるのを見てもわかる。

さて水流から見てこのまはえは急斜面
 である。まはえは小さい尾根、このまはえ
 まで、しばらくは水流の谷の急斜面を
 小谷をいってかこえてトラサカスして

9月14日にとられたルート
の要図



昨年のルート

た尾根のうしろのか。むしろこらよりも
高し(見え)い。

やがて一寸平に成つた。E口
日(。E口のあたりにこの下である
と。

そのところから。二人は右半へ下り
板尾根に向う。このあたりサルの尾根

を二つの谷は好むか。道は~~上~~上山
歩道にきて両側につついていよいよ
江である。

尾根は急峻、まもなくサルのクワノ
谷に。一寸高い。しかし道はわづら
にわづら、サルの谷の下の谷の
かと見^{さか}え。

が上山歩道に達してから。こゝから
は、再びサルの谷を見かけぬとE口

かへう。
尾根を下りつたあの中は、右半に

深し(川水)こゝの谷をへたてて
江の谷の西のイワ中の西の岩稜
か向近にきてい。又この岩稜を
こえてその向うに江の谷の頭がま
り(見え)い。

E口は、~~田舎~~田舎の側は、この岩稜
かサルの谷はよる。そゝにサルの尾
根と~~い~~いつた。

ワはこの岩稜にこけす。こゝをほと
と両側。即ち江の谷の尾根と
似た方が下りた尾根の両側に
かけある。江の谷の谷(サルの谷
と所を^{つた}と。

こちらの尾根もサルの谷とつたこと
ありと。

17+0-2737あつてその下の2ルから左側の小谷にきぬ=又、この小谷を下り、途中からトラスアースして尾根を一つこえよといふは民有林と思われ小谷に出る。

植林の中を下つた谷に出る。水流あり、やう大きな谷。

土生母と上山歩道からやう下つたところ、左手に一つの高い尾根が欠けた。小谷。537から東北へかゝる尾根ではなかと欠けあり。してみれば、この谷は、537附近の水源にして下りて小谷である。北東へ

この谷を下りやうあつた旧軌道に出る。出た位置はびいがかの谷からして下りてはなかと又。

15日。半山にて。

岩川正に候。

岩川正談 [redacted] か死んで、今

は [redacted] の家にてくついで。今年は何れかとしてきんどく。毎日のようにサルかへてきて今年中羊を1手とんとやうかた。3時か4時頃に出るとは。人が這つてもはげな。大きなか-2区位何つては。今1時か岩川をからこちの方へかいて件採してあり。サルか家のまわりは集つてきてある。

か4は1つては。火のやうなものは交りである。

松田也五郎のあつたはわかるとはつてサレはこは。

10時か火へては。か4はか4つては。

[redacted] 土人らかあかつたとき、930か

かろは全然とつていない。

田中の家の上の方と松たに色とつていふと、
上の方とときときサルの声ときいた。

今川は7月か4のか4は2段切川をわき
らんと一渡。即ちサンの河が9月のか4は
別にあると。

田中殿もあつて肯定。

田中殿も。

このころサルの声は多い。上の畑に申すは、
山に野生のネコがたはさんといふが、
いふサカサとつていふと引つらぬりて
そのころ。

山のネコはネズミや鳥を食つてあり、
人は足がはたとたてていふ。

今川原にこの家の金銀目ネコの子が
野生で2匹いふ。うさがかと思つた。

又今川からサルの動靜があまりかわ
らない。しかし、ざつと下へ下りていふよ
うにほつた。川の初段の向の尾根の
突端まできつてワアワアといふ。この
のか4かきといふが、サカサからんか。
集つてきつていふのはないか。声が大
きして、たしせんといふ。

2ヶ月ばかりまえから近づくをた。

シテ'1729のハルハ253に2240、
ニシカラ北の32の力47か63有
い、年々おえりよ。

⑩ 川向の地、面積1730
位、
174向の42か63の2240

川原は多し、大群れで48#の
かえりよ。

9月15日の行程

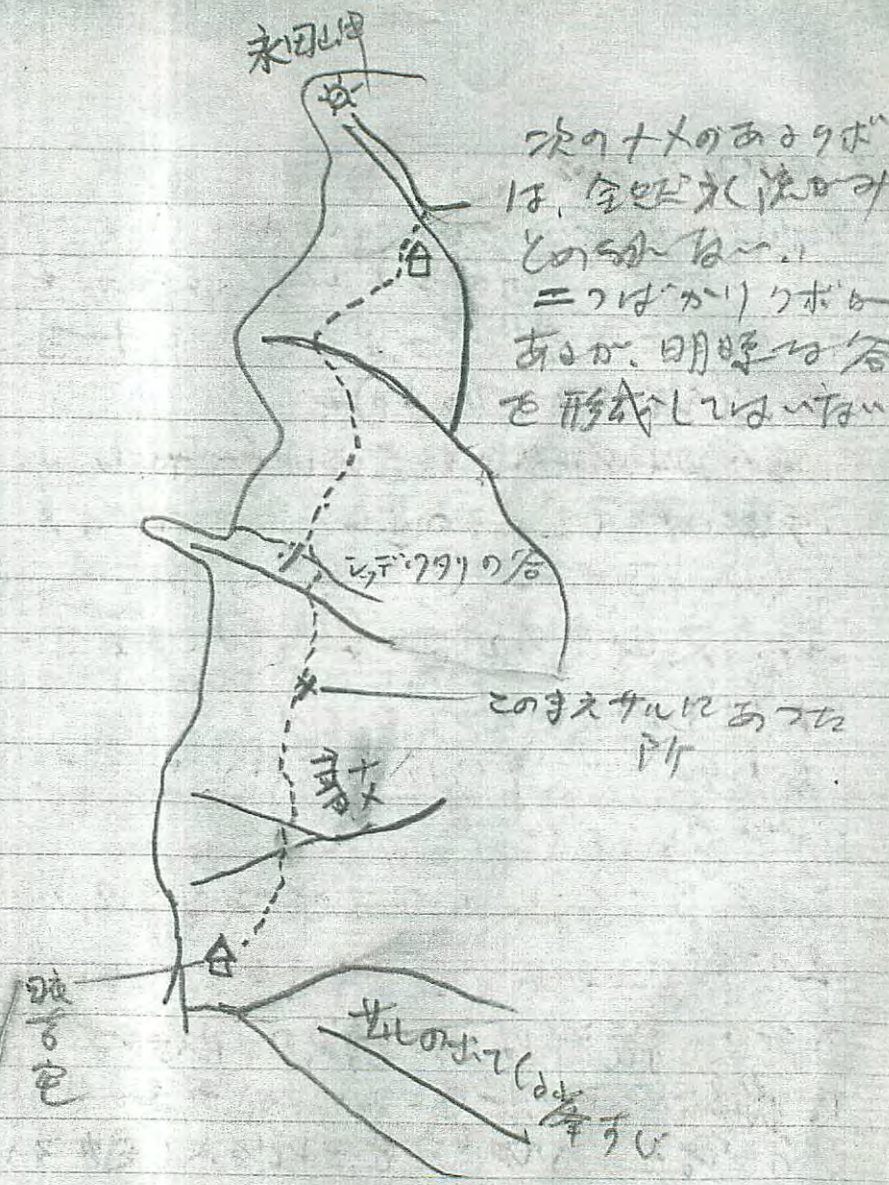
永田山甲の燈台道と山かか。少し行つた
所の一軒家まで車を止めておき
た。そこからトランプース道は存
在。 (地図の筆線路の形に
よるから)

小さな小谷を一つこえた
ところ、永田山甲の見える一つの
目立つた山頂について、
ここからさらにトランプース
道は伸びる。地図に出ている
山頂から山の裾の方に
下るに及ぶ。

しかし、この山頂の尾根に
近づいたとき、トランプース
道は谷に落ちた。

この谷はこの尾根のすぐ
そばにあり、その下は
約20m程。

とある。水量のある谷は
永田山甲から半山に
至るまであり、(正確
にこの谷は△から
出ている)



次の+のあたりは、
谷の深さ、
二つはカリウボ
あるが、明瞭な谷
を形成してはいない

田舎代換

2分目位、この三ヶ所まで、下から海までのサハは下の方へまでいりまう。(この二つは...)

●今日良有林の谷の口へ上り、上山歩道へ出た。その途中、上山の道まで721のサハ(大さな奴)に出あつた。又山の方へ50人ほど集つて来た。この集つて来た人になつてあつた。

厚久高の狩師は山の横の用意のほか、海への用意もして、天気がわるいときは海へ行き、ときに大漁にまことがある。

海辺の山、49才、海辺泉の父で、オレのあひだ、ずっと獵をしており、山には非常に詳しい。

034の山、79の山

山をあとにしたときに、サハをたけたと、



3年位したら、海にたけたと

7山ほどたけたと、又牛糞

もたけたと、これにたけてたけたと

めつとたけたとたけたと、その山は

山曲をたけたとたけたと、この山は

7山ほどたけたとたけたと、又牛糞

もたけたと、サハをたけたとたけたと、

人間の山は大体山上10位あるから

別れたことか、大きい、大きな山は

三方に34の山、又とくに山は

山をたけたとたけたと、大きい山は

山をたけたとたけたと、大きい山は

9月16日.

10時すぎから上山歩道を上り、
はらの小屋根を越えとて人の通り、
中から右方の小谷に入り、こゝから
ゆるい登って尾根に出る。

次のピークは、561である。

尾根を歩けばゆるい人工の加わった
雑木林、道林、竹林等。

上り上りにはいよいよ常緑雑木林となり、
しかし、こゝも東側をたぐり、西側は
ゆるい尾根の伐木地に出る。

こゝをすぎるとすこしは谷の谷の
水の尾根に出る。谷の谷の谷の
下り、約半歩下りて伐木地に出る
以下道あり。

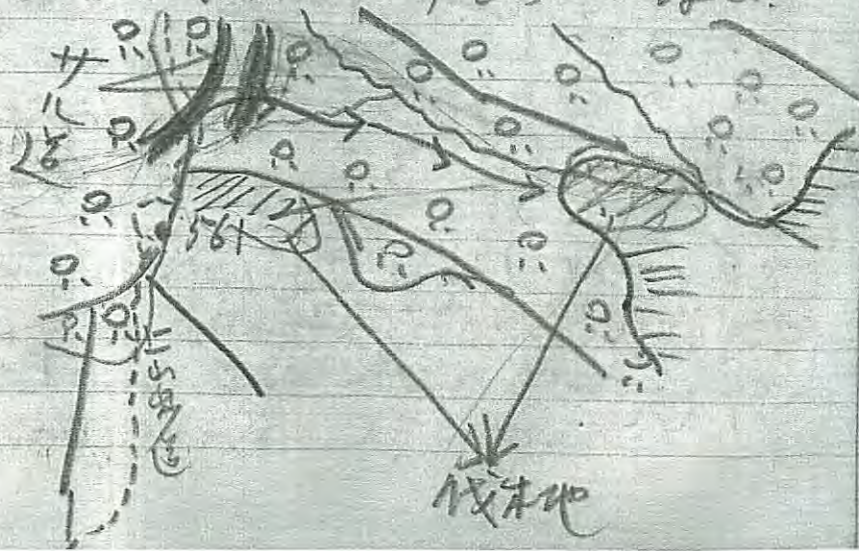
この谷にありありのあたり、上山
の尾根を越えとて井戸道あり。E(わ)

茶湯 3の1人
の産地の1人は沖繩系湯所
出身

伊色サバ不^といふ、7カ所ねるといふ
字をかき、イマニヒウのが本意
イ432ニはなまり(この地3の)

こゝの570はオレミアカ沖繩本
来の漢法で、60人位の人肉を食す。
夜のモグリは水中電燈のりきり
はじけた。

まわっている。近ごろはこのあたりを
いふこと、ほとんどなくなった。



淡田林助 (9月16日)

林助. 長男. 父が新田とあるが
このころサレカ少くなった。長ら(は)
とらないのにはつた。

新田から上の淡から次の淡との向
の上のまにた(さん)サレカいた

サレカを数+とつた。100匹
らいた。3。カ4のいっもあつた。
100匹(3)カ4のあつたと思ふ。

本をきつた(新田前)それから
ルからつてしまつた。

本川の東よりのまも多かつた。水
は別なカ4た(3)。

とらとまは1年1220ばかりも
た。海岸の木をきつたのは20年
かりまえ。

大い。タケミチから東の新田金部
まわつたもの。白
白田山の上の山まで(新田山)
ワナをいれてつた。

(新田-新田の)
林助のイワカはたきにあつた。
このイワカのおきんはもとサレカ
多かつた。近ごろは見えな
つた。

昔はあつたころ。サレカまら
んことはたつた。

こはエサか少なかったの。オ
まらしとれた。まにローヤであ
つた。

まはタケミチの下のまも多
かつた。昔はまにへ行つてもサ
レカ多かつた。今はまにへ

はい。

自然減少説

カキとカキとの付人かをすよこと
はあまり見ない。カキの中はカキ
カキとカキをすよ。さきへはむかり
を引ついでつはなれた。

大きい奴は20センチかど
かに傷がある。

團壽士の才知と群衆と
は1年に200もとった。林野
かとったのは3の後のこと。

海岸までカキを出した。
(燈台へお海中) 30分以内

前の話。

大正六年にはじめてカキを
うす。それ以来毎年やってきた。
さきへはむかり多しなつた。2、3
年連続とつたか3一すへつた3じ。

とらんむけ多(有)。とらんむけ
カキとカキと多(有)。(カキ
らむと)

はじめは医者の研究として
牛足か取るといふことか何れも
よかつた。大正13年か
3の後動物園や各地商店
ゆきのか小まのかかつた。
カキとむかつた(4000以下)

いちばんよかつた)
鐘ヶ崎の高んがよかつた。
片年のな一人よかつた。
宮之浦の釜井やそのほかのよかつた。
この衆もやめてから一時よめた。
鉄砲でやめよう人はきつたこと
なし。林助がよかつた以前には
大に違つていらつたよかつた
人がある。

久利には頭がよかつた。
小こゝとはそれ共、家もよかつた。
肉も血にふれよかつた。本も
よめたをいふよめた。今もよ
かつた宮之浦の人だ。

サルの頭はよめた。本もよめ
たよめたよめた。
久利やそのよめたよめた
注問の村の中の人からよめた。
よめたよめたよめたよめた。

今もよめたよめたよめたよめた
よめたよめたよめたよめた

もよめたよめたよめたよめた
よめたよめたよめたよめた
今もよめたよめたよめたよめた

今はそれ共の年、下からよめ
たよめたよめたよめたよめた
よめたよめたよめたよめたよめた
よめたよめたよめたよめたよめた
よめたよめたよめたよめたよめた

木のヨケには 力年はせいせい
2つか3つある。昨日もの
ほうちんかすをきかたつた。
(毎日き(のひあはか))

上まで伐採をしてける人が
毎日のように声をきいていて
た。

アカシは少し声をきいて
あつた。

クニワキも少し声をきいて
あつた。

あつた。つちかたはあつた。
1つはあつた。1つはあつた。
1つはあつた。1つはあつた。

夕方木をこぼす。アパアパ
(木が倒れる音) の上と下と
でこぼす。あつた。あつた。
あつた。

~~3つはあつた~~ はあつた。力
今とあつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。

今いふ3つは同じい。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。

2つのカ4をあるいは
2つに2つはあまりない
は何か? 1ヶ月は

20個以上のカ4を
つづいて良有と百有とのカ4
はあった。

5,6日ほどに足廻りに中。

1ヶ月は2つに2つは
ん。カ4は大き。7月
に4の子かす。カ4は
けの30-500か。

カ4は5つに1つに2つにカ4と
つづいてカ4とある。

→ 2つは大体、全部は
はいた。つづいて。

考、決の上でいって
は行つてカ4はつづいて
飲物をなした。とつづいて
アアとある。カ4は100個に
とつづいて。

このカ4は20-30のカ4は
か。このカ4は多いのは
カ4はつづいて。

2-3とつづいて。2つは
カ4は0-2500とつづいて。

を入手中の資料を整理し
した。(mb 1000)
このうちから、このうちを
たあと、1冊のサロムロ-に
しおりの他の1冊ロ-の
押しおいた。

(漢の上の4)

人間の形に大きいの
あまの大きの
このまえは20
か、6、
35。

木は1冊
考の人の
か、7、

口蓋の中
括弧の中
括弧の中

坪切の
い、

木は

三年
7、
20、
1、

今、
7、

中、

9月17日 日高回尋行談

(雨のため、山へゆかず。日高の
インゴバニ)

岩屋のあき峰はおかき切小く、
きかへおさくニワリからおさくは
さく。さくおさくの果は(おさく)
この内下りてきた尾根は長し。尾根
のさく果

インゴバニ

2本のこの山へゆき伐採す。

その山へゆき伐採すは所のこと。

雨にゆきゆきゆきとゆきゆき
りやゆきゆきゆきゆき。

数に4本、この神宮で山へゆき
ゆきゆきゆき

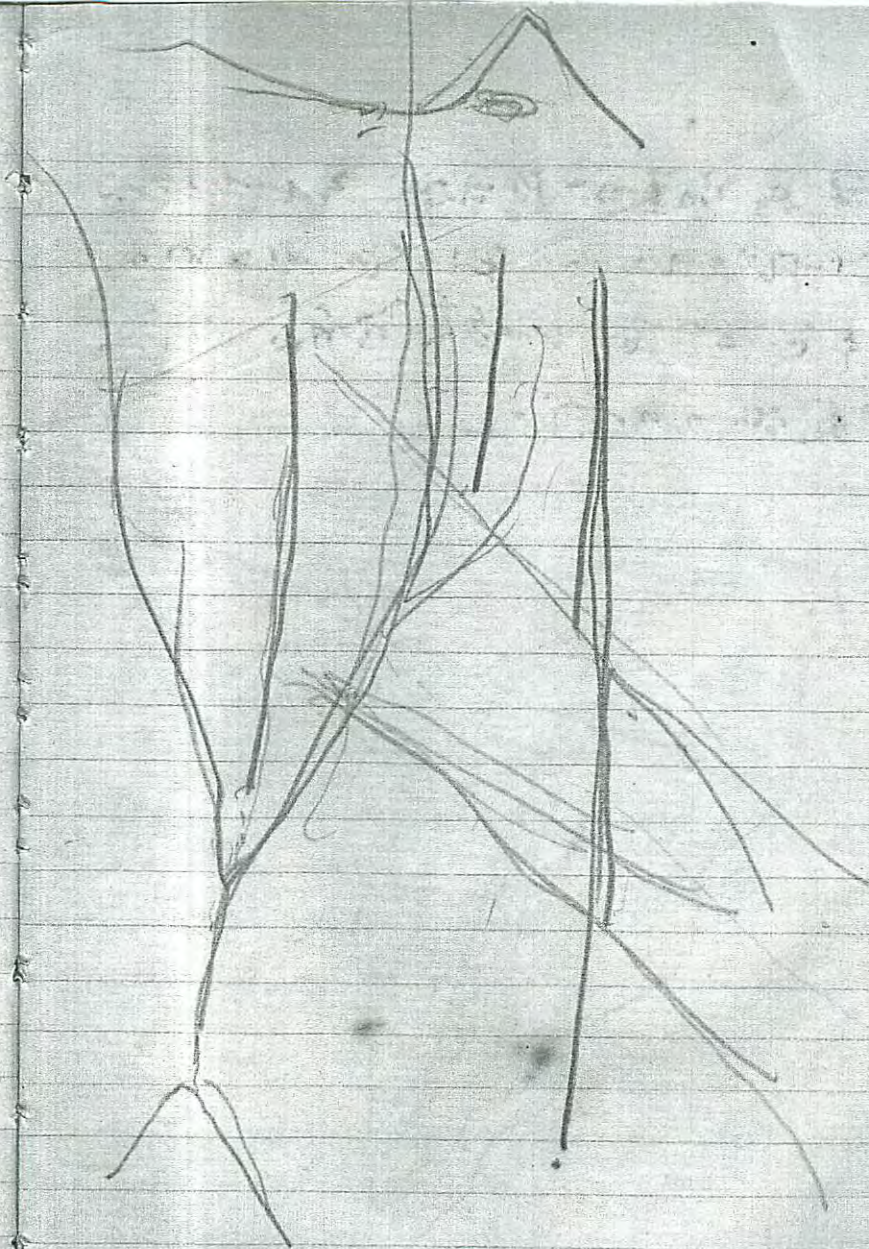
今朝サバツリにゆきゆきゆき

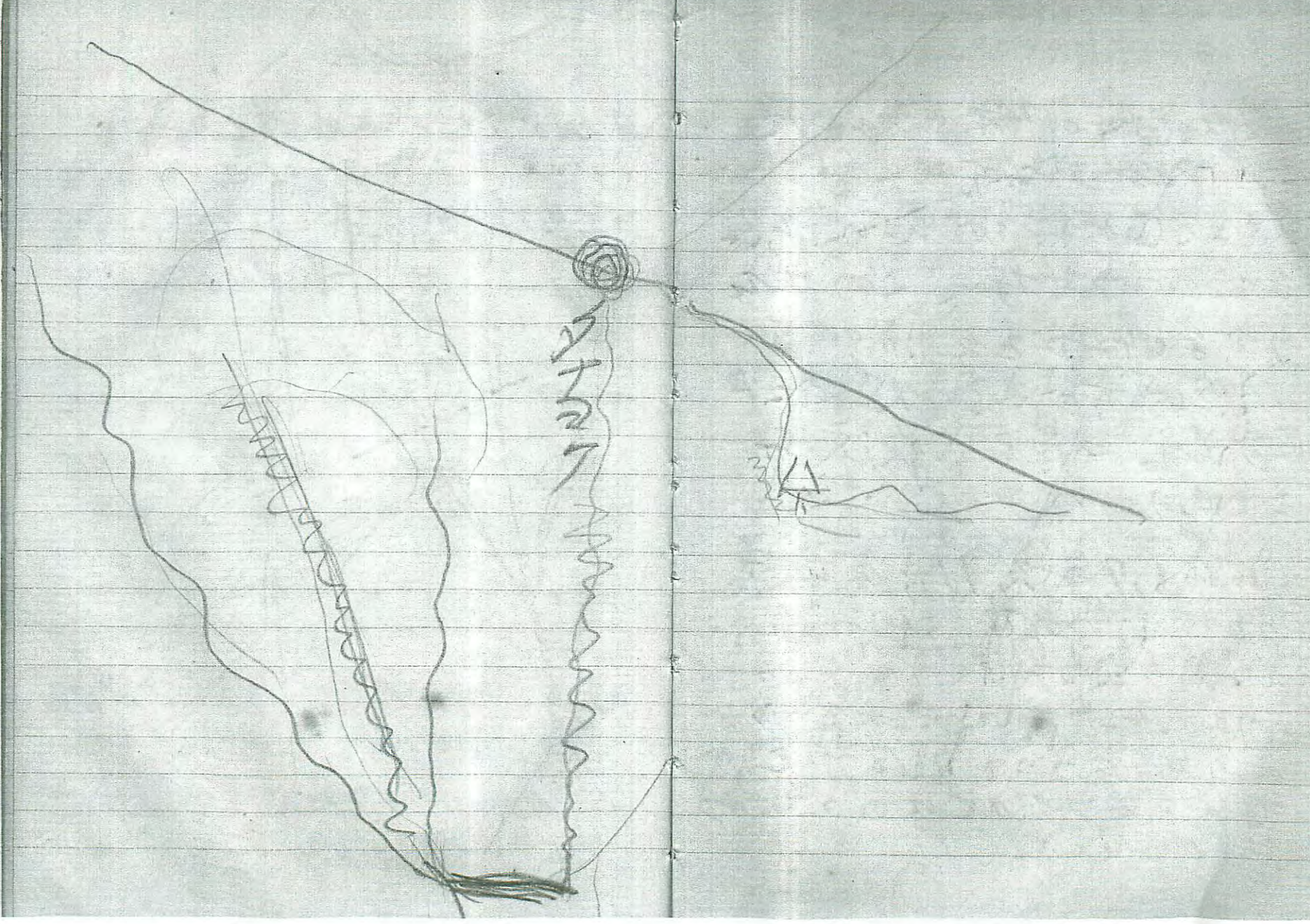
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

次田村ゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

大正15年に獵をゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

牛馬山羊の放牧地、その地力
が異なる。主に食用目的。
山羊は石の。沖繩は豚(口)等
中反回書と同じ。





Sketch

2/1
1/1

又4号送在中と。現在もこ
うな同様の増分には
り大さぬかあるのをよ
さく。

新卒の付ふ欠乏。

この9号から下カマの3へ行
くとき(7月の足すわり) 雨の日の
こまはあつた。それによ
り9号からということか
かかしていきと。次から
はし。おかしな。

帽子を山にたかして。うま
い中から比べれば

下ノコウケンから西改に
いしおれも。ことか
あつた。

たつた一ノム大か
さる押えを
ことあり。この
人のつて一
たけあつた。

5月の10日か。し
う一人か
つていた。(注
録10日-2日)

いいで
かたを
とひお
きに

4000.40
2000

一
大か
つて
5
4000
あつた
2000

かんの 自然のこころを
こととし。

(天井は)

12-ヤはクイ^①つくり。石をみさ
子。● 地面をうすつた

夕方の口-舌の形を今でも
のこつていふ、針金か何かの

びか-口-D-とC-口おはかろ

すつと名付たかつていたらしい。

ゆはかとしつたつていふ。今でも
こつていふ。

押し殺し式もいつていた
し。

たてかんのまはうに 買ひこ
る。家計をたてかんの

→ 江戸時代?

昔は 頭などを見つかる
して、支那のつりへつてい
ていたのつていふ。
→ 江戸時代。

川をわたるとき 舟にのり
ていふ。水神さんにおま
とつていふつていふ。

かんのつていふ。つていふ
いふ。

昔のつていふつていふ
つていふ。つていふつていふ
つていふ (つていふつていふ)

木のつていふ。つていふつていふ
つていふ。つていふつていふ
つていふつていふ

今年はこのミカ非常に少ない。もうすべは暑いと虫に吸われ
はつてあり。ミカと土かいま
わねいとのミカは

ミカが来て3ヶ月。この雨は
ゴックアサガハ。

ミカはミカが来た後ハフダ
も少しはなる、ハフダはそれ
あまりたない。 (リノミカ)

アサガハのミカについて。 ^{アサガハ} 春夏秋冬
いつもある。12人の下は

カライモを知らんカサの鳴きは
カライモを聞いてた。カ
カライモもある。

カライモをうらなひかして
きた。何であかにはかき
このミカはミカをこぼす
夜明けにはかき行つた。
台所のミカもとり
かなり大きくなった。

ミカも何百とミカが
ミカがミカにミカが
ミカがミカにミカが

ミカもミカにミカに。一昨年
ミカにミカにミカに
ミカにミカにミカに 30mほど
あった。

何かにミカにミカに
ミカにミカにミカに

あつたところ、

今年0710月03日、夏工と、
あつた(栗生永田内道路)

4m、

雪の下の氷の塊からサルの死
体が見つかった。アヤメの池

ボクは産地に居る。

9月14日 日高次男談

9月10日、9=7月11日にこの谷の
奥に入ったところ、サルの非常に
多かったです。アヤメの池には
大ぜいのサルのワイルドという
3の中で大きな2匹のサルの木の
上ではらみあつて吠えている。

向いあつた木の上で

そのときサルはこぼれを当然又つけ
ているにさつは09124の真面目な
3で怒りあつて上へ上つた。
上へ上つてもいへらくサルの声か
やかましくきこえていた。

まとめ.

1. アカマン. シイガタケ. 上山のカタ
は3本のカタからなる.
2. アカマンとシイガタケのカタとは
24面を面として接触する可能推定.
この面を2つの面として3次元空間
から取り出すことができる.
3. シイガタケと上山のカタはシイガタケ
上部の平らな面から取り出すこと
が可能である. この面を2つの面として3次元空間
から取り出すことができる.
4. シイガタケと上山のカタはシイガタケ
上部の平らな面から取り出すこと
が可能である. (下のシイガタケは)
これは上の見解と一致する.

10月10日.

日高村.

昭和15, 6年秋.

17日にさあつたのは14.5年三のカタを
である. また2つさあつたカタは
12日にさあつた.

17日は長久喜町主人の決意
によるもので、手で取り出すこと
である.

シイガタケのカタを採取した. カタの上の
3次元空間は全体的に、長久喜町の
中である. 昨日カタの色は白く
と見えた.

火鈴のカタの1軒家から1km
ほど離れた所にあり、アカマンの
実色として採取されたカタは
白く、アカマンは全部とる
カタは、カタのカタは食物である.

アノボトマツリと云う、伊とんじり
のこころのいふたつ、いふた人は足ん
びるの事にはなつてゐる。

口つしりに行つて、3、4人ゆしと、
3人かあちこつてゐると、
あつちまでつて、4、5日かた
と云うことかある、これは同じか
か命水たものゝあつち、このこと
いふ事と云つてゐる。

ジイが女々の5の平ひは ~~4~~³日
大さかきかあつち、改訂と見ると
は1回ひあつちか。

人の字区路へいふは十字と
いふた成りの所ひあつち。

カトリイは10月来から1月初旬

にかつ、絶頂の古にたしき人いふ
数+年の所さかへは紅巻にひか
る。このとき絶頂に金部まゝ
る雪の降よは手前ひあつち。

沖つたがの申ひあつち、まつかになつ
てゐる、手前は雪かき、
者はかたつち、えはいとつてき
て強ひつけた、これは7日か
まらかへなひ。

ババが岩屋の上ひあつち(8,9
合日)

10年程前にババが岩屋にひあつ
て、14日かたひひあつち、10日
頃朝サレか岩屋の前ひあつち
教了軍は3頭1尾にひあつち

この時かたつちにひあつちの事。

イ4ゴはたしさんあか、す=しも

アカイイ4ゴ

キイ4ゴ → 12月~1月

シオズイ4ゴ (ホウロクイ4ゴ)

たびイ4ゴ 半は全しきわらな
全しきわらな。一括中かてな。

このイ4ゴ 非常に多い。

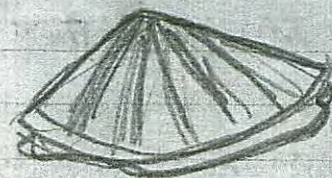
↓
とても甘い(糖分が多い)

じんがサカイのこころを前にあそび
屋久高でサルのイモニといふ。

サルのイモは、サカさん
からサカサカさんへすわとこ
外といわれたもの。

サカ(高)をみてはイモニのち
かたしさん製する。

ユウザサカイモニといふ。



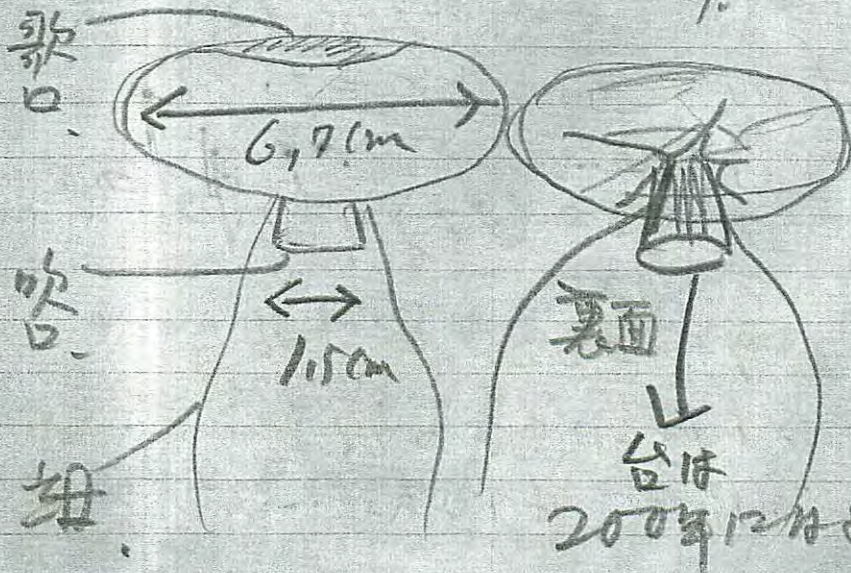
じんがサカイ

この音、(サカのヨビ)

屋久高独特。

→ 44の尺

木のワとサのワとを合せて
は、おなじで五音のワ。



音の4や5の工に音から下付
ていかにある。

歌には2や4もある。4のへ
らで→まじるなす 戸3の4や5
を2に→つてゆい。

メスの声。

メスの4や7声。

捨り音と拍節の。7やと。大き
おのこつとつとととんりは

子の工

オヤの工 (メス)

オスの工

サカリの工。

どの工でもつては。

12の年々はりかえ。12の工と

12の工と

小工の工の音の大き工の
の工と音の工の工



吹口。

3日同水につけて厚色漬す。

とにのしぬりやつきの音の
木も付木 木もメスも付て
く。

サカ色 真木もあ。こはつ
声の 捨りつかう。7-工の
こはつては。

落葉の工の工 = 7の工 (工)
4の工の工

松日七部。松之進五本名

谷山五子

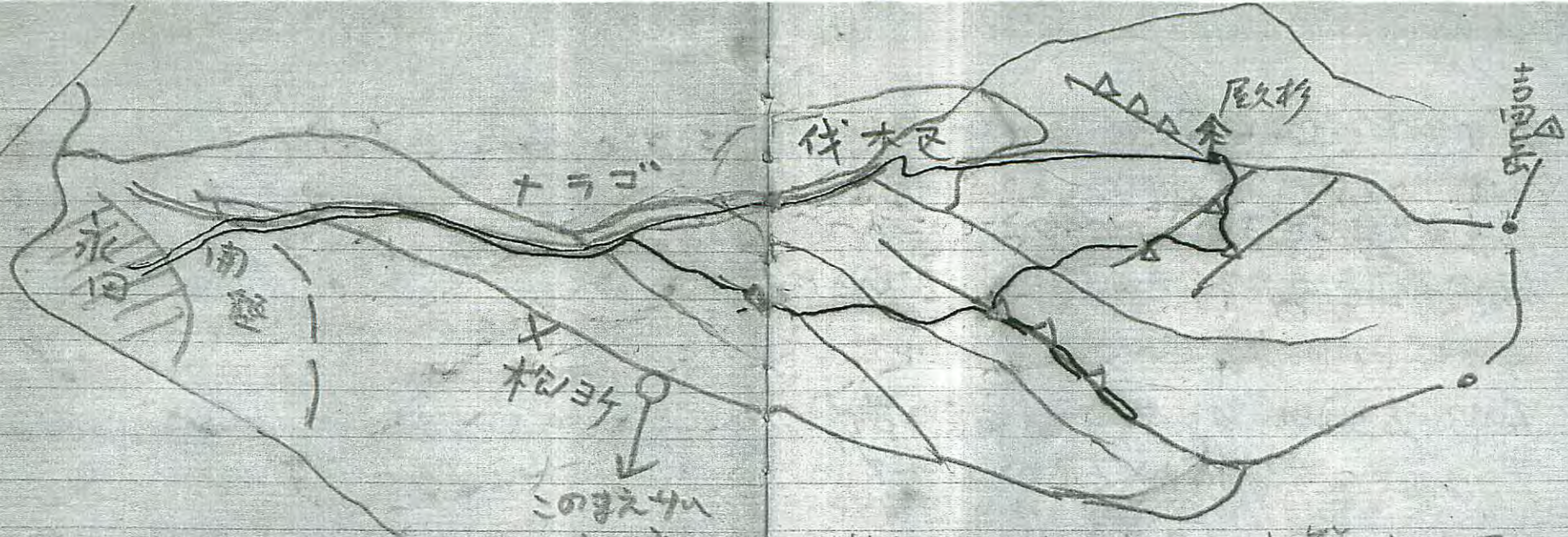
古録敏治

源正清繁

NOTE BOOK

屋久島 1953

No. 3.



9月19日のコース

永田から意の南郷をよると、トラゴの事業区の伐地区跡にまゝ、それを登

つてさいごの兩股を過ぎ、溪田曰く、この兩股の下の方までサルカヤツては伐木があつたのでまゝにとり少くあつたが、しかし伐木中にも、伐木区の手前下車のまゝで取つていた。

伐木区はしかしわりは小範囲で兩股から田舎に同じ登りかたで、少時にして立木の中に入つてしまふ。

登行の50分、峠すべの中程にあり屋久杉の大木に逢ふ。この所は2つの大きな尾根が交す。一つはわくわくかへつた道、もう一つは北面に張り出しそあり、溪田はこの峰に3個の口をさかすといふ。

しかし、今はこの間にサルカヤツて

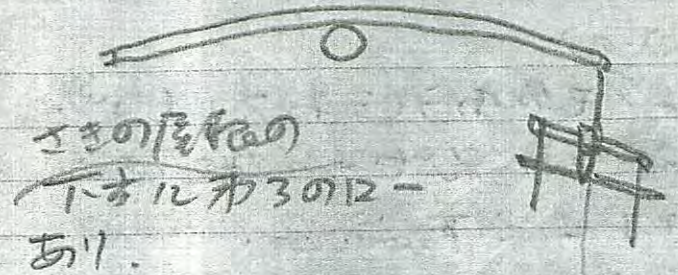
こゝろは細い木の枝を立上げてそれを引
つらしておき、又針金の一端は4-
40リニ12センチにしていす。

サハロのさむかひ、板のかわらんに
倒れ、ハリがネに重みがかかると
4と42リニの-外からしりあげあ
かのフリ車を使ひ、のちネをこ
きりため。

フリの中には300角位のTモヤ
3の他にたしる板が二人ひの、た
か針金にたしる-専心である。

又フリ附近の木にも針金にたしる
Tモヤフリが3、4個フリを
たしてある。

この口-から再び小谷をわたるに。



この口-から
下をたつたの口-
あり。

この口-は、林助父子
かやつてきて、休ん
ると、大きな10ガ
かやつてきて、そのと
き3つたてに3はじつと
しひ、1モヤもつてゆくと、と
かかぬまゝし、もと近づくとに
る。こゝしてこゝと長い間
いたか、息子が腹を立
て、フリを
たしつけたが、木からあ
り、その上の方へたし
つた。



これは屋敷物の向ひの
足た、こゝろは同じの
近づいてきた。

1 頭いらいある。

昭和 23 年頃、1 年が 60 頭と
つた。これは 11, 7 頭。

屋久島の尾根とのぼって大か
さかると、これは吉田島のさかい、
四津川の八ヶの上方には、こゝを
得るうして、1 月に 2 回出た
と 2 回もあつた(昨年) しか
ていはい又かどつてしやう。

CP とつても金にはあらずない。
胸は知合にわけ、ははもは吾人
に受。100 均 3, 400 均で、大き
いのが 500 均位、大いのは 400 均
以下。その他 71 はよいの 12 均や
2000 — 3500 均に 7 均。

坪切山方面では山の頂上付近に
かかてつとかけつた。この方面では
雪のふるとか、いらいさへして中
まてかかとのび、どうどうとりつしてし
まつた。一時サルの姿を全しかなか
つたが、さいきん又ぼつぼつと伊に
なつた。

ナゴの伐木は本年六月頃まで
つづけられていた。

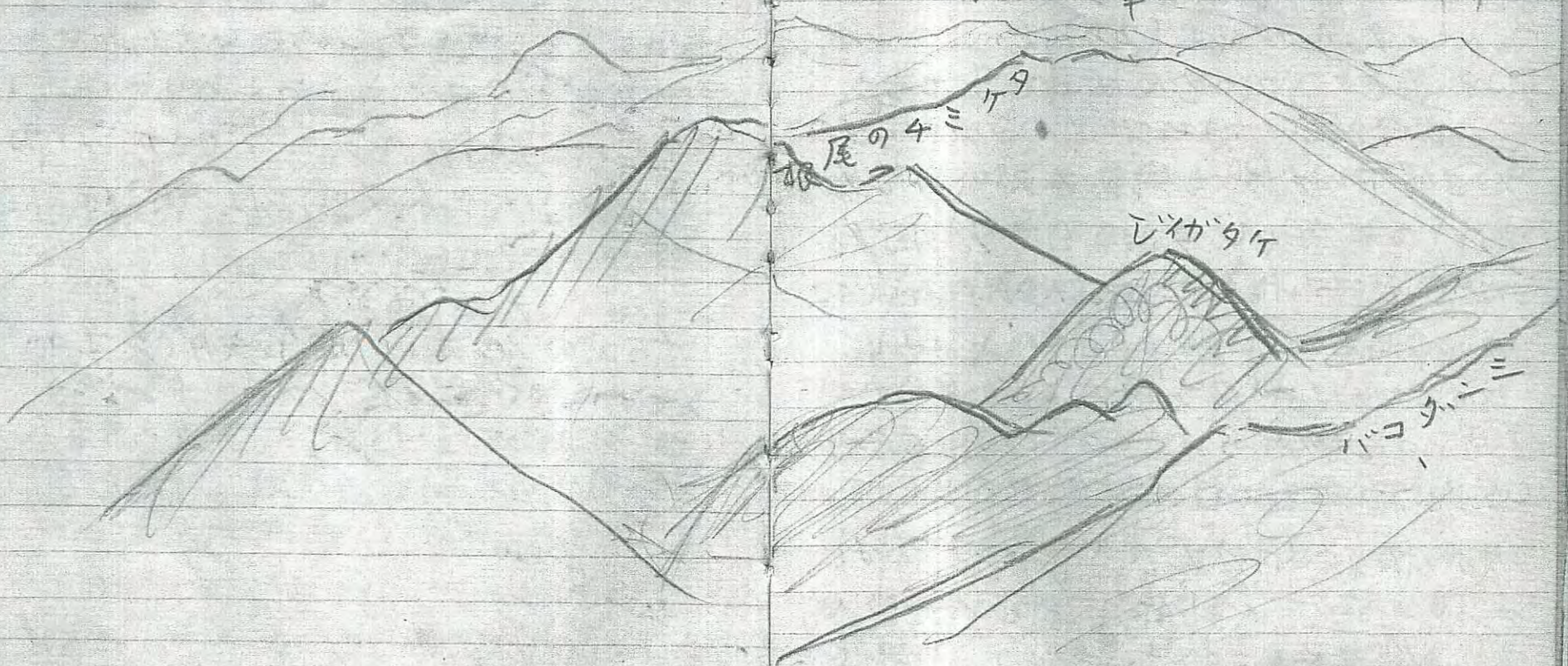
20日午後スルヲ

↓1200m峰

尾の千三ヶ

ジイガタケ

バコタニニ



後田の家のサルは ~~コ~~ コーリヨーバツタ
や イゴ ~~を~~ 知らな
いすはん小エー奴 (2才) にバツタを
と、車をたしてつらんたか、バツタか
じとあどきいアはなし。バツタは箱の
スリの下におすた。3才を又ひきい
おとしてはおとし、おすこと2,3回
おび口に出つたはも容易にたなす
しな

そのとけりには3才は、こかも
しとつたもの、いじとあどき
やとつたか、まえて口へ
もつてゆく。

そのとけりのいすはん大さ
もつとも適確な動作で
ゆく。しかしこかもい
きなり胸中にの
つたすに足はと
かみきつ。3才を
しお

いすはん真ん中とし、す
はんを知らず子

のとけりな

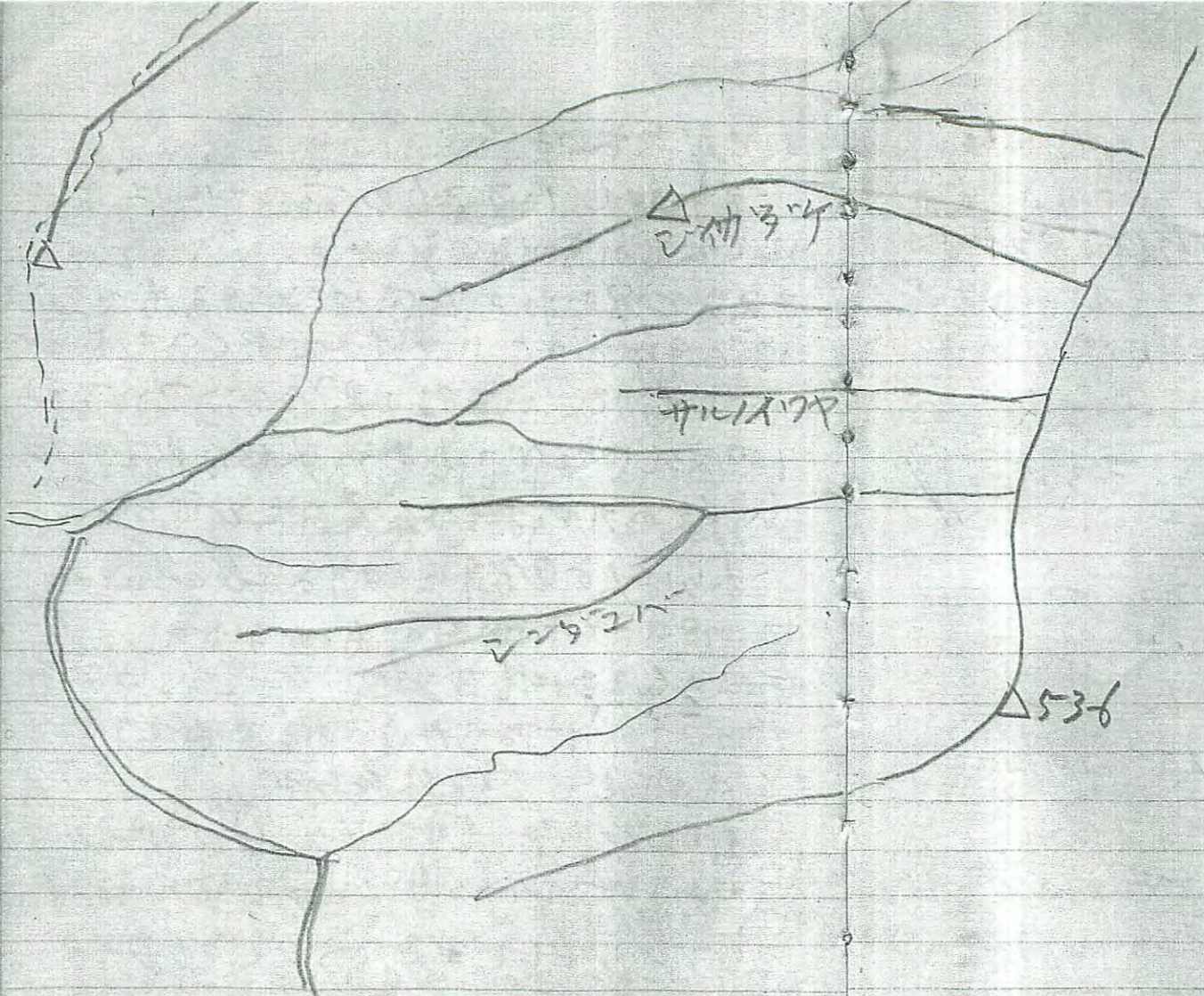
これに対し、1才の家のサルは
ゆしともいさくして

3才と思われ、2才は
ゆき年にとつて、口へ
かしき、いさなり胸
へおしおたす、人
にはおすて、
いすはんのたすも
3才のこども

こからは人の
学習

かむきと、口へ
おすし、おす
はつた
はつた
はつた
はつた

もしも知らぬ
もの、おす
はつた
はつた
はつた
はつた



Средний

Песчаный

Глинистый

△536

20日. 渡辺泉

シラケン方面ではあまりカケの肉のシラケ
を欠たことなし。人は一い (オヤシ)

シラケンは厚島の家のオヤシ渡辺の家の
のちかふ。オヤシが二枚の犬へん
に年を飲く。人に教える。オヤシが
吹きかたると。ちかうといふ。

今のシラケはシラケだ。

カケの中はシラケはオヤシ。オヤシ
の首の首は大きくなる。オヤシ
ホホアジに片年を二つ二つ口の中を
のちかうといふ。

犬がカケをシラケにシラケに
る。オヤシはオヤシ。オヤシは
オヤシ。オヤシはオヤシ。オヤシは
オヤシ。オヤシはオヤシ。

シラケはシラケ。オヤシは
オヤシ。オヤシはオヤシ。

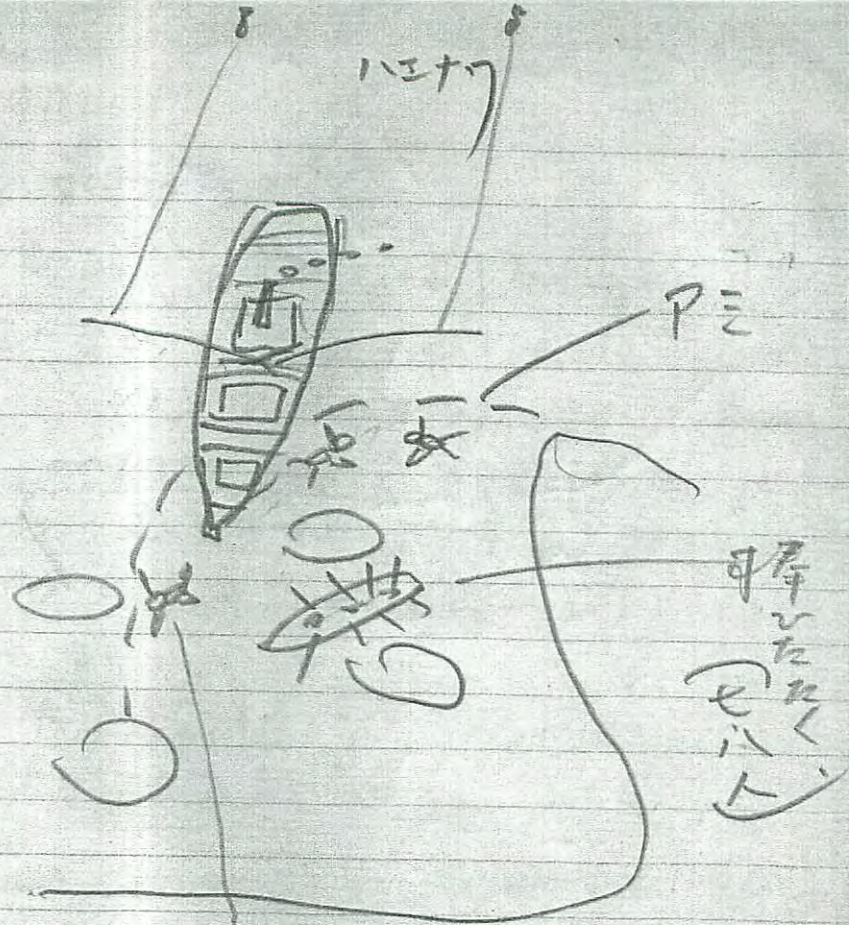
オヤシはオヤシ。オヤシは
オヤシ。オヤシはオヤシ。オヤシは
オヤシ。オヤシはオヤシ。オヤシは
オヤシ。オヤシはオヤシ。

9月21日.

永田の向いで舟を40-50-し、
海上に永田岬。半山、川原沖まで
瀬切に上る。

シテワタリの谷カカカケ△から西
橋下っており、地図がまちがって
ことを確定。

川原島の海側は完全に急峻で大きな
木々が黒光りに照らされ、大それた
仲の偉大である。この方面には木が
たおなからサルが分布する。このこと
困難であり、猟師の談も、ここ
のVに母とまわりの大ざつぱ
なつて、それとどおりである。



瀬切に上るP三をほら(3,4人)

シテワタリ、何れのサレP三、小ざつぱ
イワシの卵とみえた。

9月21日

永井信彦

昭和15,6年秋には1年ひびきまの
辺りだった。このころは1年ひびきまの
た。とんど少くはなつて来た。

このころは1年ひびきまの
た。病気の多さが不幸にたつた。
このころは1年ひびきまの
た。

大正30年にも1年ひびきまの
た。

9月23日

テツク

米藪正高小屋

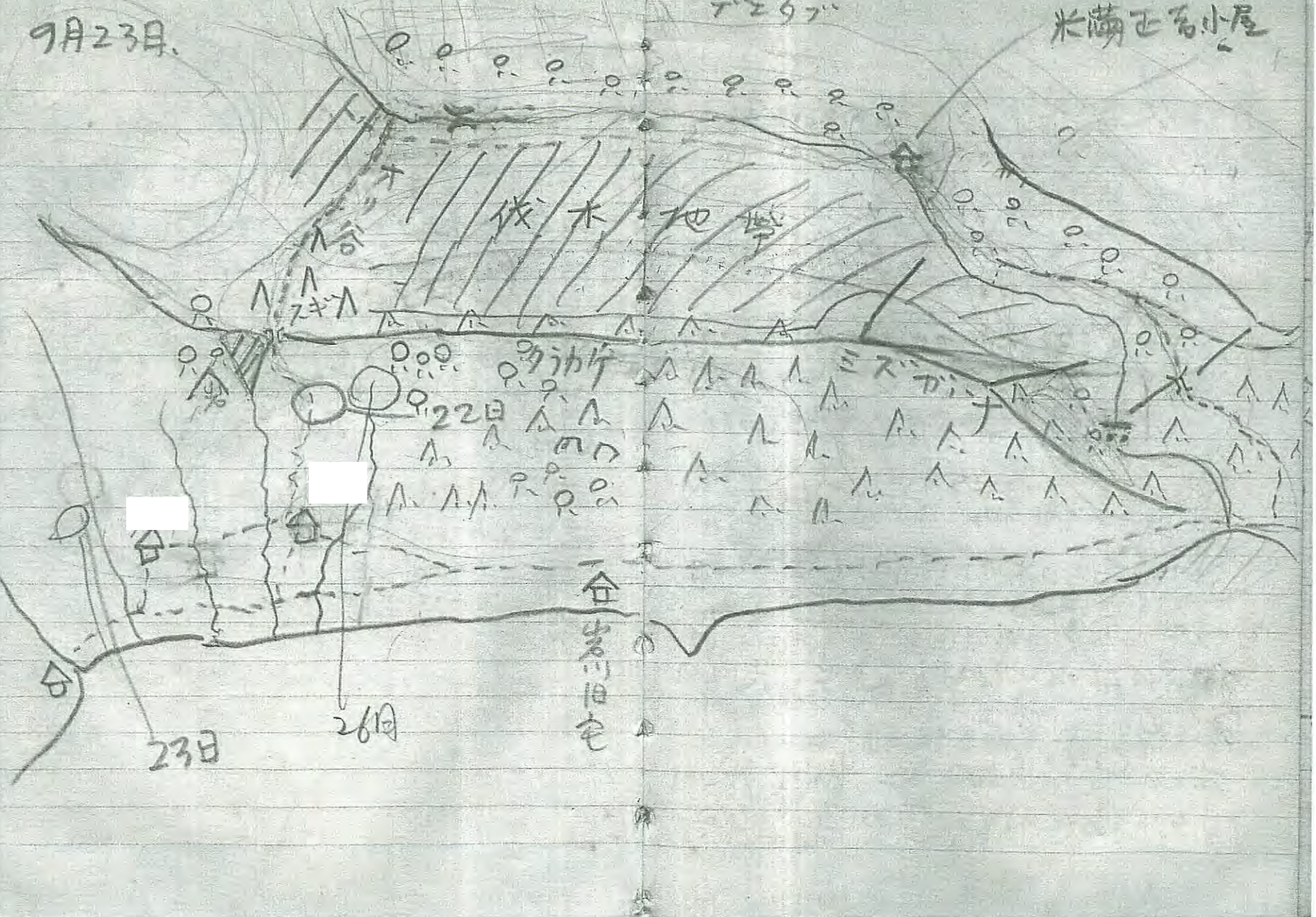
伐木地

22日

23日

26日

岩川宅



日野休馬

猿のやこと 20年

今は5匹3匹と別に12匹づついる。

3匹あつた3か4ついる。もう少ししたら
一つに集む。

10月から又は交尾期で今節一つに
あつた。それから又バラバラに
なす(10月、11月の交尾期)

交尾するところはあつた。猿群
はいから。

じつこのアツたの木の上は何れも集つて
岩川(洞)をかつた。

猿は若くは川に申し送と、大川の
奥と2ヶ所ある

居たのサレは里山の奴、中山と奥山
と3ヶ所位にわかれてあつた。奥

へ行つた。口へあつた。山
里山のサレは人肉とさてもあつたか
とろかの口、中山、奥山のサレはさ
じつにけしてろこあたりにはない(た)
この近頃のサレはさつりのつたでも一
かかろた。

7ヶ所のサレは東へまわつてもほとんど
8合目以上下のろへはあつた。

大川の流石岸の雑木林は非常に
けあし。こまへまわつてあつた。

滝の上のサレはデングがから大川をわ
たつてころにきり坂で、ワカケの
サレとちから。このサレも20〜30匹
これは正音の小屋のあたりからあつた
こえ。小強は川をわたり、大坂の
方へあつた。この肉をばけつた。

大坂の奥にもオイゴミと、とこ

3か所、この方面のいよか4はあま
りうごかない。

岩川正介談

大川ノイ達のとこへくものほてはダ
のか4であるう。この方面で数年
前自ヶサレをいれとい人あり、栗生の
人で岡留力タレとい人、ほんては
いふまのかとていふ

ちびと大川乗越から北の方、うさか
の岸すぢの東側の森林にウサカケの
か4とは30うも一ツのか4かといふ。

アサギの力4といはははははははは
も一ツの力4もよこかからな。人を見
れば早くはつてしまふ。

1週間か10日前まではいつもこの火に
きていたが、Frankが火を消してしま
つてからこたになつた。

9月23日の行動

家のとこから、戻通しに上へ登り
道あり。交差し10〜20年位の
雑木林の中を登ってゆく。岩と森との間に
数ヶ所サルの道カートがアースして
あり。いすれもきぬのよきよまかてあり。
常用工かといふことしたが、いはい
下方や北方のこの存在をさし、2高
伊谷は朝の4時半にヤハリをさし
たとい。(3号)

岩にかかるとこで。右へトラがアース
の道あり。これはすこし伐木地にお
現在を荒れてススキ。アカマカシフ
たかあといけつてい。

この空地をへたてつて向うに。岩から
下へ濃密な雑木林(原形林)あり

このた端は一但の岩峰とつて、
さかええおり。見かるとサルのサレ
取といふあせゆしいものあり。

岩川正もここサルのサレ取で
あつてとあせゆ。ここにはいふとき
は必ずすくつかの、西と北面の岩地
にいふといふ。この岩峰は [] の火田から欠け
(昨田山しごとの人からサレを欠けた
のはこの下のまてあるといふ)

この場所ではこの生息地のニオイを
かいた。おい場所におつて(この
utting territoryの1つである)
さ。そこから戻つたに約150mで
いふ。すくつかに通じの峯に上る。
途中落雪のあとあり。

峯から南側はススキの雑木地が道は
下の谷に同じ。トラがアースさお下。
この谷は生息地をさし、中はとつて下

と、道は見え、道標もなしなり。
5, 6年前に伐採された、伐り切
らぬ場所なり。いすゞの下、
旧永田道は消えてしまっており、
まもなく、大川に架す。

山がえすと、クワカケの峯の東側は、
おとくわの川が流れた谷にかけ
て、一面に伐採されたものあり。木は
ゴ、フ、イ、ア、イ、イ、イ、イ、イ、イ、
と、さびさびと、思われる。こ
の谷にはサカサカ(サカサカ)の
が、何分にも獵期外であるの。

そのころの状態はわからぬ。峯すげは
は松か、
この谷をオリ谷と名命

オリ谷の上手大川の右岸方面は、もう
すししに伐採されたものと見え、
すしし不かたさ。

大川の上手には△の峯すげか
黒らとしげつてゐる。永田、信彦
がサカサカとつていたあたりである。

又、大川の反対側はこゝも又クワカケと
おしげつたサカサカである。その中には
サカサカ、ア、ウ、もサカサカ、イ、イ、
あり。

川はオリ谷の下手で一つの74を捲く地
は礫石の河を流す中、サカサカ、ト、ト、と
した大川である。

下手に一つのサカサカ、平に出る。
左手のテシダの峯はこゝにサカサカ、
その上に太鼓山、屹然とそびえてゐる。
テシダの峯はこゝも、又もつと下手も、
中にサカサカをあげてゐる。

川の左手に米満正の三軒つた
獵小屋がある。

平の左岸の小川にサカサカ、サカサカ、

大川にまじり、こゝでは屈曲す。
対岸にミズガハチの尾根はかたむいて
滝の上に通す。この峯よりかす少し下つ
た所にミズ松林であり、その下に雑木
林(30年位)の帯がある。その下は一面
に伐木あとが広がっている。

こゝで左岸の上とすじに大いさに出る
しほらしゆして 2つにわかぬ。1つはトラダ
アースして松のヨケに通すもの。もう1つは
やが下りきみにトラダアースして滝頭に通
し、それからトラダアースして大川の左岸にま
いて、瀬切行進に出る。

滝の左岸のとこから左岸は一面に
赤松の道林地となる。これは民有で
ある。今更には永田から買つて道林し
たものらしい。

対岸も松林がある(ミズノハチ側)が
滝のとこでは急斜面で道林むじがし
たから雑木林となる。たゞしこの林は
30年以下のやがこまの林である。

やがもたれは多いであらう。

大川の滝から川口までの地形の中
に珍らしいものである。

10時頃 [] 宿をたす。12時大川に
つし、14時30分 [] の宿へ帰る。

丹野村馬。岩川正は、大川滝の主人に
シカカヒをアエウアの力4とし、松尾
七五郎はこれをミズガハチの力4とし
ている。そして、ミズガハチの力4の地は
瀬切川に常位する力4の地と考えて
いる。ミズガハチ一ウラカケ西側の
赤松林の、と水たけ区隔のふたも
つか、又ウラカケ東面の伐木斜面の
一かたれを流すか、これが又区隔に
なるか、このへんは問題のKeyが
あるらしい。

クワカケの、この大川の石の上でしばしばサレドおたさといふことである。これは人理解し得ない所、次のように見えてゐる。

クワカケのカケはやはりクワカケにすむもの。南はクワカケから北は瀬切川の滝下にかけて横に移動する。しかし氷山のすま場所の上段は峯すたてにしてゐる。ときには東側の休耕地帯に出で、42とせし。ときにはうらぐたいに夕暮のさへ中しともあつた。しかし常に消息を存せしとせしからずとも、瀬切川—クワカケの西面を本来のテリトリーとすことまちがひであらう。これに対し、テエタツのカケはテエタツの森林にすむ。このまゝテリトリーをひろげてゐるかよくあつたらうか、やはり大川の滝のあたりまゝであらう。

毛子とをたがねてやつてきて、ときには川をわたつてクワカケの、この斜面に42とせしともあつた。その奥につづく森林に出たつきすんであり、ときにオリ谷をわたつてクワカケの、このこともあつた。又ときには瀬切川の斜面に首を出すこともあつた。

サンゴタオリおきんのカケはサンゴタオリ地面から山をこえて、瀬切川斜面にきたり。ときには下へ下りることもあつた。おあむお滝のおきんにかけ上ることもあつた。

マズクには又別群かあるものと解せらる。以上のことと大体510のカケのこのう面にすむものと考え、そのまゝであらう。

岩川氏 7月 談

サロウ 畑は出たときほど遠くへ伸びて
大將がその向うの(1区)までと。その
1区(田舎)のも合部(犬)のよじり(ワ)ワ(ワ)ワ
とさわいび(遠)か(ワ)ワ(ワ)。

粟生の人のさつ(早)や(カ)ワ(キ)び(う)い
も(に)け(り)ね(な)あ(お)こ(つ)て(カ)ワ(ワ)ワ(ワ)。
木の上(に)上(り)て(は)き(の)ぶ(し)て(カ)ワ(ワ)ワ(ワ)。

畑(の)側(の)き(き)さ(せ)と(あ)つ(て)し(よ)。
下(の)畑(の)い(て)も(上(の)畑)お(り)か(ら)う。一(人)
に(は)し(と)か(ー)て(き)け(い)。

今年(は)引(か)れた(あと)3(回)使(は)る(は)な(し)た。

10(日)前(か)り(に)な(ら)ず、上(の)山(に)登(り)て(は)た
から、ま(た)存(在)し(て)お(た)ら(う)。

多(く)も(と)きは(30)以(上)も(と)く、子(孫)か(ら)つ(た)
地(方)に(お)り(て)し(た)り、木(を)ゆ(す)つ(た)
り、上(の)木(を)足(張)り(さ)し(て)お(す)。

去(り)て(は)い(た)り(と)も(あ)り(さ)や(と)。熟(に)に
い(て)お(す)、
と(い)つ(た)さ(ら)の(は)1(区)を(あ)と(大)き(い)
の(り)何(れ)も(は)い(た)ら(ず)い(つ)も(く)の(は)大(將)
畑(の)よ(り)小(さ)な(り)し(て)い(る)の(り)
大(將)を(ま)と(し)て(は)た(す)。

1(区)を(あ)と(い)つ(た)と(は)た(す)。2(区)
を(あ)と(い)つ(た)と(は)た(す)今(は)あ(ら)わ(か)し(く)
に(な)つ(て)お(た)ら(う)。

い(つ)も(は)カ(4)月(同)の(り)お(た)ら(う)。下(の)
畑(は)2(カ)4(月)に(あ)つ(て)お(た)ら(う)。1(カ)
4(月)と(は)お(た)ら(う)。

こ(う)少(く)も(と)きは(7,8)月(の)こ(の)
と(きは)大(は)か(り)な(ら)ず、た(し)た(人)に
さ(と)きは(小)さ(い)な(ら)ず(子)つ(た)か(つ(て)
お(す)。

松岡七五郎

今日3時頃、セキシ川支流の
松山V字の谷の谷まにえを、

○の非常に多し

山の頂上

木

草

瀬川(川)のスケッチ

時、5.30頃
Hを松山の
そばに、
(やや不確定)

下は川
上は山

松の木
小さい



松田七五郎の技

75郎の力4と、サンゴがタリ
の力4とは、まじゆらたひ
びあひことはあつたあつた
75郎の力4と、サンゴがタリ
の力4とは、まじゆらたひ
びあひことはあつたあつた

同じ力4の中の手のはあつた
に足知つて仲のあつた。遠くか
らきた足知つたあつたあつた
仲のあつたあつた。

75郎に力4と力4との力4
を何回かえたことあつた。

(以上、75郎の力4とサンゴ
がタリの力4とはあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた)

(力4と力4のことあつた)

力4の力4と力4とはあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
力4はあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

こつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

力4と力4との力4はあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

滝を呼ぶ人であつてもな、
こつちでもな、それと滝の下で
木のかたにのりかゝる。

おとこ呼ぶあつて、フリあつて
ハナで呼ぶ。川を呼ぶ人

一方はサニシヨガタオリのサシ、
一方は深田川口おきんのサシ
(これはワカヤのかた呼ぶ)

サニシヨガタオリのサシに
こつちのサシの間に1区は
こつちのサシの間に1区は

サニシヨガタオリのサシ
こつちのかたは2,3区
かた呼ぶ(えんかとか
んやとおもつて)

おひいさんかた呼ぶ

サニシヨガタオリのかた
だした。

大樽の地のサシもあつて
いふ。海もさう何にもない。
同じのかたは4,5区
足あつた。こつちも4,5
区あつた。こつちもあつた
かた呼ぶ。

サニシヨガタオリのかたは
大へんのかた
たつて、4区あつた
おひいさん

サニシヨガタオリのかたは
大川のサシ
の間にあつた。

い、大木か倒れ小のはさういふと
聖朝見ると今こゝろんすすの風ま
つしとていふ、

松田 Frau 談

この手えたがの實をとりてやつてきた
ときは、松やニ採取の竹筒をはず
して、又水を木に立てかけてあつた。
あつちの毛こつちへもつち、こつちの毛
あつちへもつちやきして、まよひ子役か
いたがらをしてあつちへつち、まよひ
いに木に立てかけてあつた。

カワエタイ — コーゴダイ

アカメバシ — アカゴヨウ

シヤ — ヤマトビ

イサキ — イフサキ

スサキの子 — サクラ (5,6寸位)

ク — セイゴ (4寸以下)

ホシの子 — イサ

頭の下ハク — アンゴダイ (アンゴ)

120のあまカラダ

一はいに濃の草か

生え一すゆからない

運動しない。

ておておの才の類で、記のなぬ奴の
昨年が多かつた。こゝろはいいな。

フカの鍾表が
3尺位以下か
色
の
こ
の
あり。
同に
あ
げ
て
日
生
き
る。

ナカクロ

エイの種類

エイのイ
(ナバグロともいふ)
(ヒラエイともいふ)

カスエイ

トビエ
(海の中トビエの
鳴)

ナカナには
あり、
が
う
ろ
と
い
つ
た
な
ま
の
イ
エ
の
ウ
レ
と
ナ
カ
ク
ロ
と
い
ふ
の
間
に
あ
る

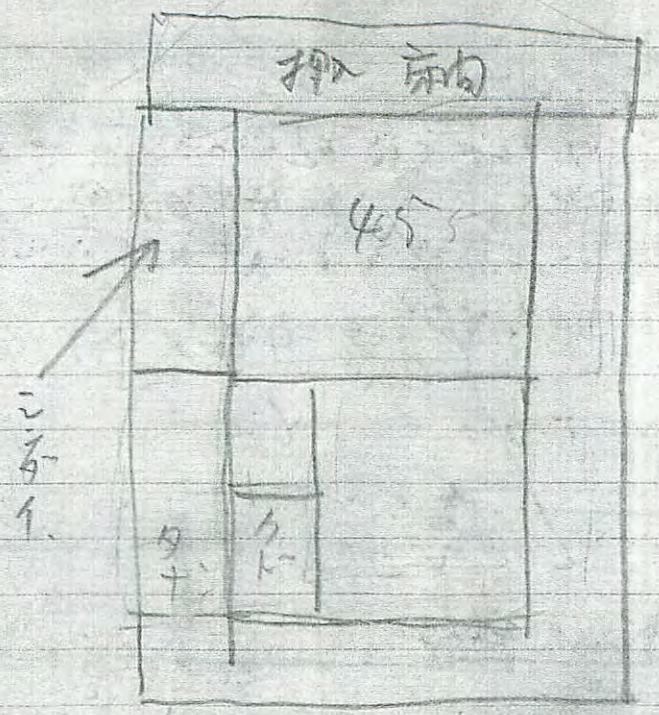
この
間
に
あ
る
な
ま
の
イ
エ
の
ウ
レ
と
ナ
カ
ク
ロ
と
い
ふ
の
間
に
あ
る

松白七五郎

故人 舟屋の
松白七五郎

屋の内に
2間×9尺の
7
り
あ
つ
て
あ
つ
た。
その
中
に
大
き
い
(中サレ)
か
つ
て
二
小
さ
な
あ
ま
り
か
つ
た
あ
ま
り
あ
つ
た。
あ
ま
り
あ
つ
た。
あ
ま
り
あ
つ
た。
あ
ま
り
あ
つ
た。

いつ
か
は
12
月
に
あ
つ
た
か
ら
あ
つ
た
1
月
18
日
~
20
日
に
あ
つ
た。



こた

材料の重さ 1314.

運材から立てるまで (1週間かかる)
 (水)

パンコウ

ヤマビウにそくした木がうきはサレ
スベリのおら。 (外は黄色果肉白)
定はトマト大で、うすももイロやあさか
く、中にはイタネがある。
(白)

ボート

N. 700kgの木の葉はきり
4.5mである。

屋久島の難波にしかない。木の
水面に根を張ってしいる木の
葉はひろく、実が赤い。海水と川の水の
の入りまじりる所(河口)に生える。

9月26日

木立日七五郎

半山が丸太川にかけてもとカヤ山の
あつた人々毎年焼いて来たカヤは
家の屋根にのりして、その土地の用
はなかつた。

このカヤは、たぶんといつて、火で
くろく禁じた、すまじカヤ原一面
松山にたつて来た。

かして松山は絶対的な自然林
であつた。樹令は30年以下であつた。
もとカヤ原であつたところには、カヤ
くろくしたものがあつた。

日野休寫

今朝夜明けに、[redacted] 家の夕方カヤ山の
の谷に302号があつた。

この山の数は山の中にあつても、
い。100年とあつたものが、
げると、まじカヤ原の山には、
正しくあつた。

9:38分.

8分目. 右の谷向に下り 50 m まで

歩 → とうけたらし...

そのまゝおりの木を歩くと

クワーン 一音.

そのまゝおりの木を少し下りに移

ると、おりのクワーン 1音.

その向いの谷向に木を歩くと

おりの音も静寂になる.

おりの音 (9:43) 上の谷に

クワーンかおりの音. 木の音. しきり 音つた

9:46

クワーン → おりの音. 木の音. しきり 音つた

まことにみごとなたまの音のしきり 音つた

10:05. 伐採アムからかへって もと

の谷に下り. とつて一人大ききおりの

木を歩くとおりの音. その

あたりは木の音と木の音.

そのあたりの木を歩くと

双眼鏡でおりの音の 1音

4音とみよ.

おりの音の音. おりの音

大ききおりの音. おりの音

そのあと a type の音. 4音

つた.

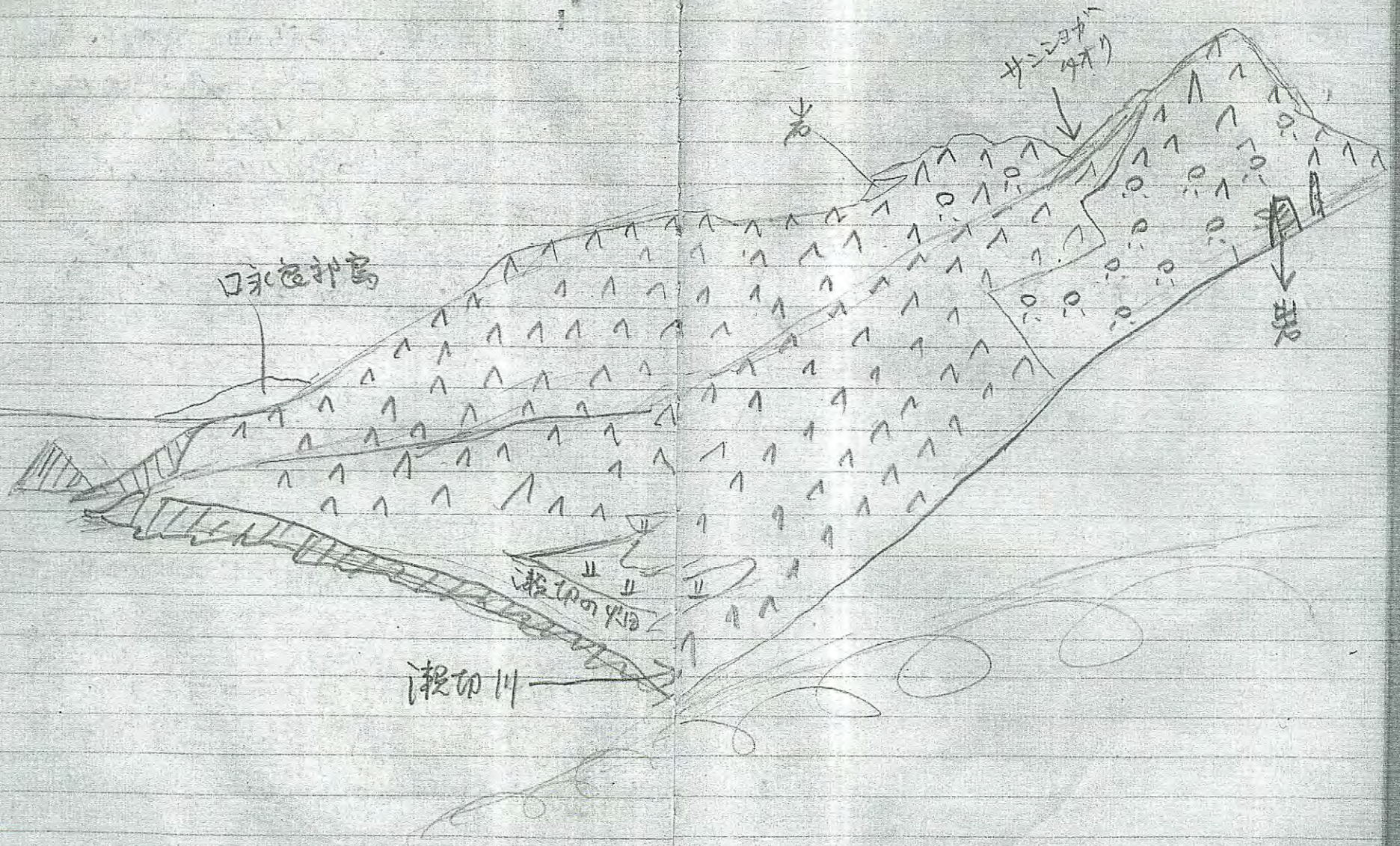
おりの音. おりの音. おりの音

おりの音. おりの音. おりの音

(以上の時間は 22分 すすんでおる)

11:00 (以下正時) 伊谷は上の山で

(11:03頃) おりの音. おりの音



高野口

山

山

岩

瀬川

瀬川

11.00

の畑にマカン江はひめも
瀬切川の北斜面、サシ江から
の南の岸と、スツの方とが見え、厚
んど松山がかりである。

午後には全し同の音沙汰もなし。
17.00 引あけて花比かへる。

9月27日

9.30-10.00 昨日ま...7おいたイモを
へてみる。全し変化なし。通路も大体昨
日と比し異音をみわらす。昨日来たところ
この斜面を通過したものは思わぬ。

10.30. 岩川は家の北上30m 向うと
つた声色一歩き...を...うか 不審文
あよこのこと、カラスなるんか。

13.00 まい何の裏代も有り。

米田正吉 9月28日

川原の川は2ヶ所ある

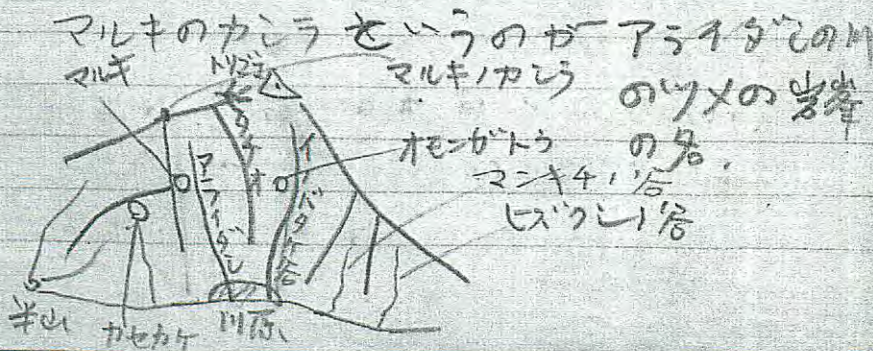
1. 八丁子の川とこの川の手前の川の
川で、同じくアライグマの川といふ
川原の絶頂から流れるのは手前の
川(八丁子の川である)

オモカトウの岩はイバカケの川で
川原より少し下った所

74木、とこの川で2ヶ所の岩

アライグマの川の手前はマルキと
いふ

カセカケといふのは ~~アライグマ~~ アライグマの川
ゆがかへて2つの川の合流の上である



八丁子の川とこの川の2つの岩
が合流するところ

川とこの川にもいる

オモカトウの岩にもいる、
ここにある

マルキの川の手前もすずかである
下から見た時もすずかとすずかは
カセカケには朝晩

カケは各に位置がきまつて

他のカケはしどろかアライグマの川
とすずか

2ヶ所しきつた、耳をきか
たり、カケのときは20ヤリ
カケと雨からオライグマ
川からオライグマ(エライグマ
から)カケはしどろ

その川の大将を何匹かかゆ
こすかとは見まきして久しい

見たたすずかにけし、カケは
すずか

いよいよその道にたどり着いた。12月1日
はそのまま、オモカトウのあるりか
もときどきリンカがある。

カチのサルのカズは別に2カズいた
こともあるが、19日〜20日位まで
おぼとせは30, 40位。

材木のうまげんについてのはカチ
岳といって黒味りの泉。

40年程のこと、100匹位の43匹位
びざって木をたぎして下りてきた。

ワキの男

オモカトウのあるりかへは多本を
12行き、オヤビとエドへ行つたら（お
りとりまいたことかある）こわして
帰った。

同代に動物という鬼を殺すつた

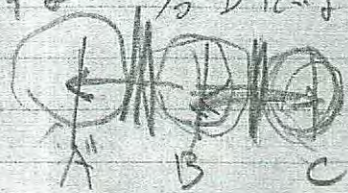
男がオバと4匹行つたらドータイの2尺
もある奴がイカンチで10代はこわくな
つて帰つた。

半山の犬を4匹つかって山へ入つた
ら、4匹獲てきたよりの奴が
木をたぎつてこわしてしめた。1匹た
つた。(太かつたとの特別)

(山の白くは神の使ひ。)7年の男
がオバと4匹行つたら大き〜カチの
泉の山へ下りて来たカチの男

カチにたしはオバときり男のオバ
奴。カチの子オバ。

カチの子オバ。カチへ(徳の男)4匹
をたぎ。谷Bにた奴はAの谷まわし



谷Cにた奴はBの谷
まわし。谷Aまわ
しはオバ。

オモシカトウのカ4は マンキ4まで、
マンキ4の谷には 川原の4前の岩板
の手前の谷である。

9月17日 ~~カ4~~ カ4 谷... (たての石
のかけに ^{カ4} 谷の中にある)

オモシカトウに | カ4.

マルキに | カ4.

七ノケに | カ4

七ノケの川 瀬切川に落ちる。

川原から瀬切まで 1.4, 50m
たつ。

大川の川から瀬切川のちまに落ち
ゆし、こつこの30mあまりカ4に
あがる。

ナベインでは 瀬を越したところ

イスマン (△/3/9.1) のすその3に
落ちる。

イスマンの下の川は 40mほどの
カ4である。(1度だけ見た) これは
奥の谷の中、7ヶの帯

すその3は オモシカトウにあり
ニ | カ4の3、この川 4.50mほど。

この川あまり深くはない。

カセカケの3は マルキのカ4から

半山には 2カ4、右の谷に 1カ4

たの奥の谷に | カ4

半山のカ4は カセカケまでには
ない。

半山から 岨 丘ツテの川の川には
はカ4はない。

新屋字等は 10月、このころは

20日だけ 打ちに行つたが、これは何
へんも見た。イスマンの生かしの川は
見。

突降時期はカ4が集ってカ2カ
をす子、別にカ4か、ついでカ2か、カ1か、
カ1か、カ1かの山の中、野原が
子にカ2カ、カ1か、カ1か、カ1か
が、カ1か、カ1か、カ1か、カ1か
つてしまった。

15~20のカ4の中、2匹の大蜂
があり、オスとメスで。

山の頂上カ4は、場所や場所
方向でカ4か、カ4か、カ4か。

白いカ4は、カ4か、カ4か。

カ4か、カ4か、カ4か、カ4か、カ4か、
カ4か、カ4か、カ4か、カ4か、カ4か、

カ4か、カ4か、カ4か、カ4か、カ4か、
カ4か、カ4か、カ4か、カ4か、カ4か、

カ4か、カ4か、カ4か、カ4か、カ4か、

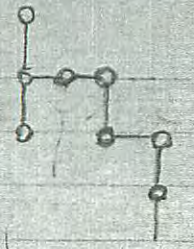
カ4か、カ4か、カ4か、カ4か、カ4か、

守谷川向う。

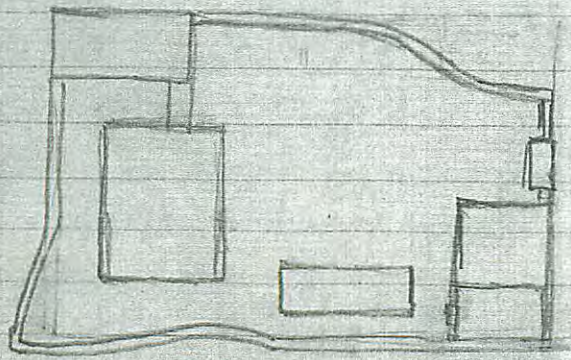
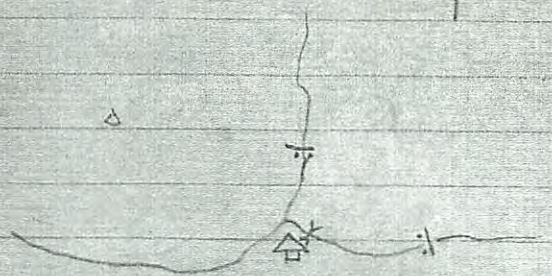
野原の上、④ 巨鷹屋。

カ4

社会



社会革命



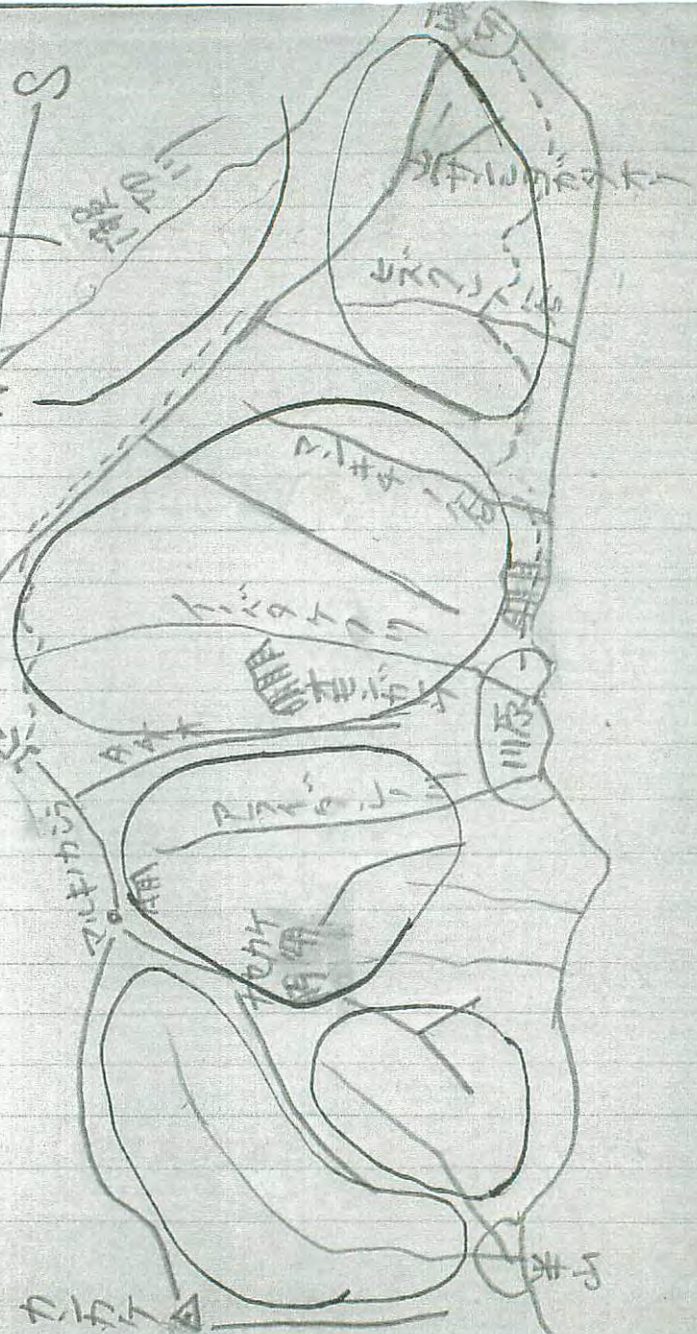
NOTE BOOK

屋久島 1953

4

川原畠 (クワハシ)

鳥取



浅ノ魚

ナダノウオ シラセ小さししたゆうち
きかいた魚 (ウスイ blue
で黄色ハスレ)

ヨソノウオ

ナバフタ (エイ)

カレイ

1尺以上取。

ヒラメ

イノコ

ホシ

アカナ

エバ

カマジ

シロジ

同じ種類

メクボ (ヒラメ)

カマス

ダマス (カマスの種類)

サンカン (カニの種差)
身が青い。

磯イサ

クサビ { アオニダ
ニダニダ

ヘキ

カシワバサ (ワダシ)

ハチ { アオハチ

アカハチ

シチトラバチ (アオハチ以上はコブ
が出子)

モハミ

クロイサ (ツレイサ. イズスミ)

シフサ

キジニダ

アカタニ (ほんものではない)
レニダ?

タイ 少々...

シロタ

アイトウ (カクハギ)

フクトウ { イイケン

ホシフクトウ

イガフクトウ (イガフク)

ハコフクトウ (ハコフク)

フサフクトウ

モロ { アオモロ 20-30 位

アカムロ

コメジウ

フイコウメジロ

コウソク

カシハラ

ムルサ (クサビヨリウカセマ)

クイ 94 } タマ

94 } 94

キバシ

ココデ (コ-コイ)

アサノイ

ノボス

イヌハ

たのきにて2本ノボス

もつと浮く (70-100ヒロ)

ノボス

アノハ

オオノ

ミナ

鹿児島 45-キ

マフノオ

マフノイ

アブラ

イラマフ

ホダ

(オキマフ)

イラマフ

アノハ

ヒラマフ

マフ

タノ

ア

シフフ 戸田の大きくなり、もがりの
人間を驚かす、おもしろい
16隻位にたす。

170-200位にたす

イヌ

以上はトシヨウキのオカサ (以下はトシヨウキ)

エラウオキ

キタカ

アカシヨウ { ハトアカシヨウ
アカシヨウ

ウキ
海魚

カツオ 1隻500位にたす

ヒ (ヨウキ)

コトウシビ 7.8隻ある

サクラ

イカツオ 1隻1000位、カツオにはたす

ヌボ

ヒラフ

オボフ ヒラフのたきもの。

アスハオ (コンビキ)

トビウオ { トビウオ (田遊)
 アゴ" トビウオの小きいやつ、
 別管かどかおれがやん
 カトビ" } いろいろもい
 カトビ"

サガ (常盤サイラ)

サバ

サバゴ (サバ子)

イワシ

カレクチ イワシのたきもの

キビサゴ (キビ子)

カラス

磯の豆(加) (10ヒロウライ)

ハイケ

イフサキ (イサキ)

スズキ、セゴ

アユ

川の魚

アカナ (海に多てあり川への流れ
あり上へ下へ。大き(海ほど)
大き(河)は1隻500 (下)

ホコウ

イロ

コウイロコニコニ Pk+12122222
991222

ケンキク E1212222

ハジクイ (11/110)

マウナキ

ゴマウナキ 山の川に...

クニウナキ 本川の支流に
オオウナキ、おしてから
21やき127+

カニ

カニガニ (アサカ?)

ハルサキに 子房へんてふしとかいふ。

シマガニ

ガサメ (カサメ)

サンネンゴケ

アサガニ

ワカニ

ワカニ

エビ

マエビ 11/12...の11...エビ

アゲエビ も少し下をくすむとよい

タコマ 大きくつかう

アサエビ (イセエビ)

アサエビ 色をくすくすにせよ、

アサエビ アサエビの下をくすむ、
エビの生えたとすうすうの。

アサエビ...の

タコ巻
1巻類

イカ巻

カライモイカ 5寸以下で、サカサの
エサに地上 (ホロイカ?)

ミズイカ コウイカの巻類で
2巻位になる

トビキウ (スルメイカ)

もう1巻

イカ巻
アカガメ

ベツコウ

フカ巻
フカ

フイ

サメ

15分

セバシ (オチカガメ) ^巻親の土でサカサ
あつていよと、シマボロイサ
ツレトセバシト云う

サメフカ

94キウカ (22モクサ)

7リガ美

エダダク (カシガラフダ?)

キンダク

ヒズス 事なし。100人あり。

月野休馬 伊予筆記

2ツ;カ4才 芝穂代々々 赤い
2才モ 20才かいつしはせい

10才 ~ 20才までまっくおたえ
別々にしらしてい。

あつち 7,8才 ~ 10才 小こ
13, 4才。 30 ~ 40才 大
大い。

10月 ~ 11月半は 交尾期 こと
2才 ~ 10才の 6才かいつしはせい
9才か4才の 2才 いくもき 4才せい。

交尾期にいつしはせい ちつたか4才
交尾時期 せうのせう 又 10才に
せい。

太鼓の 突の 音の 山すたき
あり。 7才か4才の 突の せうせい

果はたぬいこい;

米満はさるに奥のイダスキを猿
あはる。

イダスキと大川の川のたぬいこい
の向はとくに多。

ひらたけのたけとたぬいこいのたけを
わらひ。たけはさるにたけあはる
る、さるにたけあはるたけあはる
たけ(さ)の大木たけあはる
とさるにたけあはるたけあはる
たけり。さるにたけあはるたけ
たけり。人切のたけあはるたけ
たけ、たけあはるたけあはるたけ
さるにたけあはるたけ。

たけあはるたけあはるたけ

たけあはるたけあはるたけ
たけあはるたけあはるたけ

たけあはるたけあはるたけ
たけあはるたけあはるたけ

同時に2, 3ヶ所たけあはるたけ
たけあはるたけあはるたけ
たけあはるたけあはるたけ

同時にたけあはるたけあはるたけ
たけあはるたけあはるたけ
たけあはるたけあはるたけ

たけあはるたけあはるたけ
たけあはるたけあはるたけ
たけあはるたけあはるたけ

たけあはるたけあはるたけ
たけあはるたけあはるたけ
たけあはるたけあはるたけ

若心板はましく入った。470-270
(1-020)の時は2の22Vまで

7504のムネに7,810^{加付}ロ-を
入した。7504の力4はセキし叫
の向いのはのつをにゆかの。

か4ノトコカと登る。一ははミ
207-12カ-カ。

しりし濃地川からミヌカハナマ
7722カ4あり。42カをみたにて
ゆし。

ミヌカハナマでヤケヤマの力4と
ミヌカハナの力4との4-カを
1にガツけんかした。42の4は
42072313こんぶが2000と
つみたニハムムネスビツ

た。サハはミヌスビツサキ
取。サハの42の4は
17ハモハ(美し)して。
75042710作年 4,500 14
2100ととつた

川原も多〜カ、フナイこのカも
と多〜。

川原はフダの口のから(カ45)の
ミヌカ 24月内70リツ100と
とつた 毎日23日中(1
15はミのミをた〜
屋物のな〜と3は木の葉をたへ
ミヌカにたトリモ4のより
使う。

岩川よにから口をのり。

今年の5月に南の谷に1つと畑
の少し上1つとニつの木が
ありあつて、その穴に2つ
ある。

休日はたの。

かたは+しは ち オニツ
ほとんどの奴が ちかて 30
年をいひ。

たんののあたをいひ とい
つち 2つと3のちかに出くわす
ていひ。

たの 72-といつた。10
ちかてつち。

山でたんの死体を見つた
ちか。

ちか4のたの。1つ、2、3
ちかたき-たて ちかた
たて。

100ちか4は見たこと
し、50は見たことあり。

20~30は見たことあり。(2つ
ちか) 50は交尾期以外に
あり、たては交尾期。

交尾期にはたては2つのか
ちか-つちか、3つか
ちか4か-7はちかちか
あり、ちか場所にはちかちか。

江戸時代から続いた。昔は
力持ちの。かえつてさ。位だ
よ。

大体言ひの。月。と。さ。り。の。い
か。ち。の。は。さ。り。の。い。

岩川と井戸の泉

江戸時代から続いた。昔は
ア。カ。チ。の。い。の。い。の。い。
い。の。い。の。い。の。い。

7月 17日 ~ 10月 半。さ。り。の。い。
の。い。

カ。チ。の。い。の。い。の。い。
の。い。の。い。の。い。の。い。
カ。チ。の。い。の。い。の。い。の。い。

の。い。の。い。の。い。の。い。
大。き。い。の。い。の。い。の。い。
の。い。

大。き。い。の。い。の。い。の。い。
の。い。の。い。の。い。の。い。
の。い。の。い。の。い。の。い。

大。き。い。の。い。の。い。の。い。
の。い。の。い。の。い。の。い。
の。い。の。い。の。い。の。い。

カシの力44 4.5年前に60-70に
いた。その時に岩川のFranが
入った。70に入つた。そのとき
にきた。

今は2~30に
改定や10をりの中
で。

大正をのりつたとき
のパンとウイスキーを
いじり出した。その
子と小はねか
をさした。

カシの力44は
改定の上
で。

三重の人
川原に入つた
鉄道の

三重の人
川原に入つた
鉄道の

伊勢松本
の力44は
改定の中

この力44は
改定の中
で。

この力44は
改定の中
で。

Frankfurt へ行くと
しかかた (1) のところ
山崎の人からこの話を
聞いた。

雨の多い月の30日 (1) の
日は (雨天) あせから
ここの雨は多いから、
聞いた。

6月2日は雨が多くなり、8月
の23日は雨が多くなり、
いと中々しゅう、ここの
つてありはさうになり、こ
つてき、毎かつたを
にあるはあといふこと
あつた。かいつたは
人々のさういふところ
こはかすうたのあつた。

Frankfurt へ行くと
はさういふ。その人の
12月、その土曜日は
い。

流し時刻は朝から晩まで
12月、その朝から晩まで
やつては二の半の
いふこと、うす
ここの二と大川の川
さういふ。二の川の
斜面にいて、こ
か、見たこと

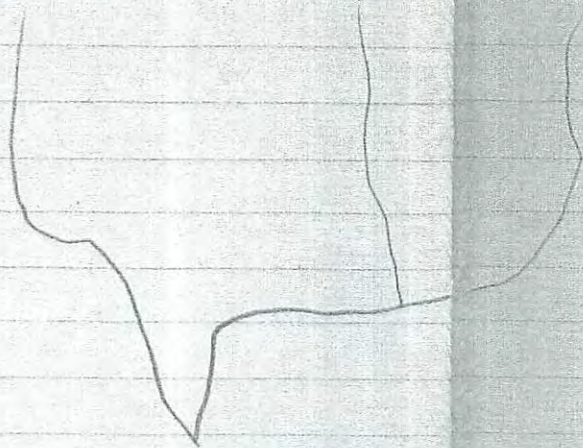
流し時刻は下へ下へ
物は売さす。

今もかすうたの
といふこと、あつた
つてはあつた。

12月よとき 本をゆすんでみるの
おれ有言のあつては、人のを
へり合はの二三あつた。

冬は上りてゆき 下りてゆき
いかにいかにたが、常盤にゆき。
ゆきかしのたの、二のふりゆき
はこれた。

の火にゆきては、
ゆきかしの火のふりゆき
かたはとあり 嚴重抗議



112 Km²

$$\begin{array}{r} 24 \\ \times 16 \\ \hline 144 \\ 240 \\ \hline 384 \end{array}$$

